埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第15集

関越自動車道関係

埋蔵文化財発掘調査報告

―XIII―

後張（ごばり）

本文編 I

1982

財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

序

埼玉県内における関越自動車道は、県西部から北部にかけての丘陵及び平野部約71㎞を縦貫するものであり、すでに群馬県前橋市まで完成しております。

本道路敷地にかかる遺跡は、他の公共事業に比べて、その数も多く、すでに報告書の刊行を見たものも少なくありません。

埋蔵文化財保護上、記録保存を目的とした発掘調査は、その成果を速やかに進捗させなければならない責務を負っております。

ここに、本書が事業団報告書第15集として記録され、刊行される運びとなりましたのは、職員の努力はもとより、委託者である日本道路公団の埋蔵文化財保護に対する深い御理解のたまものと感謝しております。

また、発掘調査に当っては、児玉町教育委員会、同町文化財保護関係者、地元各位に御協力願ったと聞き及んでおります。

ここに、本書を刊行することにより、御助力を得た各位にその責を果たすと共に、教育・学術研究の資料として広く活用されるよう希望します。

昭和57年3月

財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長　長　井　五　郎

凡　　例

1.　土器実測図

○縮尺は¼である。

○平面・断面の輪郭から、はみ出す「—」は横ナデの範囲を示す。（観察用語模式図参照）

○ハケ目整形ないし調整は、工具が器面に当たった範囲を実線で示し、その間を破線で表現した。クシ目整形ないし調整は、工具が器面に当たった範囲ならびに、その間を実線で表現した。（観察用語模式図参照）

○ハケ目とクシ目の違いは、工具によりつけられた溝と溝の間の粘土ないしは砂粒の移動の認められるものをハケ目、認められないものをクシ目とした。

○篦削りは実線で、篦削りの後ナデないし横ナデは破線で表現した。↑は篦削りの方向を示す。

○篦ナデは、篦状工具により器面の砂粒を沈める技法をいう。

2.　土器観察表

○胎土欄のAは赤色粒子、Bは光沢のある黒色粒子、Cは軟らかい白色粒子、Dは透明粒子、Eは不透明粒子、Fは金雲母を意味する。細砂粒は0.9㎜以下、粗砂粒は1㎜以上1.9㎜以下、小礫は2㎜以上の砂粒を意味する。砂粒の記載のないものは緻密な胎土を意味する。尚、次回の報告に於いて鉱物分析を予定しており、その際に正式な鉱物名を明らかにしたい。

○法量欄の（　）内の数値は推定値であり、単位は㎝である。

○土器の焼成は極めて良いものと、悪いもののみを備考欄に記述した。

○備考欄のナンバーは、遺物取り上げ番号であり、床直は、床面直上出土を意味する。

○器種名はS字状口縁台付甕をS字甕とした。

○土器の部位の名称は口縁部、胴上部、胴中央部、胴下部、底部、体部、杯下部、柱状部、裾部、孔端部のほか、頸部、肩部を便宜的に用いた。

○色調欄の（　）内の色調は内面である。

第1図　観察用語模式図

例　　言

1. 本書は関越自動車道にかかる、児玉町下浅見字下モ田地130に所在する後張遺跡（昭和51年、委保第5の2454号）の発掘調査報告書である。
2. 調査は埼玉県教育委員会が調整し日本道路公団から、埼玉県教育委員会が委託し昭和50年10月29日～昭和51年3月19日に亘って実施し、整理、報告書作成作業は財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が受託し、実施した。

   なお、調査の組織は　ページに示したとおりである。
3. 出土品の整理および図の作成は増田逸朗、立石盛詞、小野美代子、小島糸子、鈴木えり子が主にあたった。
4. 発掘調査における写真は増田、水村孝行、宮崎朝雄が、遺物写真は増田が撮影した。
5. 本書の執筆は横川好富、増田、宮崎、小野、立石があたった。分担は次のとおりである。

   横川　Ⅰ—(1)

   増田　Ⅰ—(2)、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ—(5)(6)

   宮崎　Ⅳ—(1)

   立石　Ⅳ—(2)

   小野　Ⅳ—(3)(4)
6. 本書の編集は埼玉県埋蔵文化財調査事業団、調査研究部第四課職員があたり横川好富が監修した。
7. 本書を作成するにあたり下記の方々から御教示、御助力を得た。

   石塚久則、木下亘、坂本和俊、橋本博文（敬称略）

挿　図　目　次

第1図　観察用語模式図
第2図　発掘風景
第3図　長雨後の遺跡景観
第4図　遺跡より大久保山を臨む
第5図　遺跡の位置
第6図　遺跡付近の地形と調査範囲
第7図　竪穴住居跡群（東方より）
第8図　壺形土器（131号住居跡出土）

目　　次

序

例　　言

凡　　例

Ⅰ　発掘調査の概要……1

1　発掘調査に至る経過……1

2　調査の経過……6

Ⅱ　遺跡の立地……9

Ⅲ　遺跡の概要……12

Ⅳ　遺構及び遺物……15

1　住居跡……15

2　土　器……20

3　土製品……250

4　石　器……251

5　鉄　器……254

6　その他の遺物……255

Ⅰ　発掘調査の概要

1　発掘調査に至る経過

関越自動車道新潟線は、東京都練馬区を起点として、本県の川越市・東松山市・上里町を経て群馬県・新潟県新潟市に至る 310 kmの高速道路である。すでに、東京川越市間は、昭和46年12月に、また、川越市東松山市間は昭和50年８月に供用が開始されている。埼玉県内のこの供用区間の埋蔵文化財包蔵地の発掘調査は、東京川越市間２遺跡を埼玉県遺跡調査会が、また、川越市東松山市の12遺跡を埼玉県教育委員会が直営で実施し、すでに調査報告書が刊行されているところである。

さて、東松山市から県境の児玉郡上里町に至る、いわゆる東松山以北については、昭和44年４月埼玉県行政推進対策委員会高速自動車道部会幹事会において、５万分の１の地形図に基本計画ルートが示された。この案を、昭和36年度に実施した、埼玉県埋蔵文化財包蔵地分布図と照合すると、20箇所の遺跡と、埼玉県指定史跡杉山城跡（嵐山町）と十条条里遺跡（美里村）が含まれていた。

そこで、この基本ルートに対する文化財保護側の意見を次のようにとりまとめ、高速自動車道部会長（企画部長）あて提出した。

1　県指定史跡杉山城跡、県指定史跡十条条里遺跡のルートの変更を検討されたい。

2　その他のルート内に所在する埋蔵文化財については、事前調査、発掘調査等により対処可能と思われる。

3　出土品が多量にあると予想されるので、資料館・陳列館等の建設による保存について考慮してもらいたい（サービスエリア内でも可）。

4　当面事前調査が必要となる関係箇所が多いので、計画的に調査できるよう検討する必要がある。

関越自動車道東松山以北のルートは、丘陵上・丘陵裾部・平野地帯を約36キロメートルにわたって建設されるもので、かなり多くの埋蔵文化財包蔵地が所在するものと予想されたので、昭和45年度、文化庁から国庫補助金の交付を受けて、改めて分布調査を実施した。この調査は、県内の考古学研究者を調査員に委嘱して実施したもので、基本計画ルートの東西約２キロメートルの範囲を対象にした。その結果、244 箇所の遺跡が確認され、ルートをどのように変更しても、かなりの遺跡が建設用地内に入ることが確実となった。

昭和45年５月、埼玉県行政推進対策委員会高速道路部会幹事会において、建設省関東地方建設局から、５千分の１の図面によるルート説明、さらに、本年６月上旬には、日本道路公団に事業を委託することになっている、との説明があった。一方、この５千分の１のルート図は、県道路建設課にある地図によって各課が検討することにし、重大な支障のある場合は、５月中に、県企画課を通して建設省へ通知することになった。

それから約１年が経過。昭和46年４月、行政推進委員会高速道路部会幹事会において、関越自動車道建設計画にかかる東松山市～上里町間の関連公共事業調査について日本道路公団との打合せ会

が行われ、同年8月以降、関係各課による調査が開始された。この年、県教育局内の組織改正が行われ、社会教育課から文化財係が分離し、文化財保護室が新設され、まだ日本道路公団高速道路建設局と協議の最中であった関越自動車道川越市～東松山市間と並行して、文化財第二係がこの事務に当たった。さて、関連公共事業調査で、文化財保護室が担当した調査は、5万分の1の地形図上にルート案のセンター両側2キロメートル、さらに2千分の1の平面図でセンターの両側100メートルに所在する埋蔵文化財を調べることであった。この調査の結果、5万分の1の地形図を利用したセンター両側2キロメートルでは112箇所の埋蔵文化財が、またセンターの両側100メートルの範囲では、23箇所の埋蔵文化財が含まれていることを確認し、一応この結果を日本道路公団に通知し、埋蔵文化財については、損傷を最少限度にとどめてルートを決定するよう要望した。

この間、日本道路公団は、県指定史跡杉山城跡及び十条条里遺跡をルートから大きくはずす努力がなされた。

昭和47年4月、日本道路公団高速道路建設局から千分の1平面図（設計図）が届けられ、本線内の遺跡分布確認調査が文化財保護室第二係の職員によって東松山側と上里町側からの二班に分かれてセンター杭をたどって幅約100メートルの範囲内で行われ、時期的に地上観察の困難な寄居町の一部を後日に残して、一応次の17箇所を日本道路公団に提示した。

遺跡番号	遺跡名称	所在地	種別	時代
滑川 1号	屋田遺跡	比企郡滑川村大字月輪字西新井	古墳群	古墳
滑川 2号	寺ノ台遺跡	比企郡滑川村大字水房字寺の台	塚	
嵐山 1号	越畑城跡	比企郡嵐山町大字越畑字城山	城館跡	戦国
寄居 1号	おかね塚	大里郡寄居町大字鷹巣	塚	
花園 1号	台耕地遺跡	大里郡花園村大字黒田	集落跡・古墳群	縄文・古墳
寄居 2号	新堀遺跡	大里郡寄居町大字用土字新堀	塚	
寄居 3号	沼下遺跡	大里郡寄居町大字用土字沼下	集落跡	奈良・平安
岡部 1号	清水谷遺跡	大里郡岡部町大字本郷字北坂	集落跡	縄文・古墳・奈良
岡部 2号	安光寺古墳群	大里郡岡部町大字本郷字清水谷 児玉郡美里村大字古郡字石神	古墳群	古群
美里 1号	塚本山古墳群	児玉郡美里村大字下児玉字西山	古墳群	古墳
児玉 1号	雷電下遺跡	児玉郡児玉町大字浅見字雷電下	集落跡	古墳・奈良・平安
児玉 2号	飯玉東遺跡	児玉郡児玉町大字下浅見字飯玉東	集落跡	古墳・奈良・平安
児玉 3号	女堀条里遺跡	児玉郡児玉町大字下浅見字四方田前 本庄市四方田字堰場	条里跡	奈良・平安
上里 1本	本郷東遺跡	児玉郡上里町大字七本木字本郷下	集落跡	古墳
上里 2号	愛宕遺跡	児玉郡上里町大字七本木字愛宕耕地	集落跡	古墳
上里 3号	中堀遺跡	児玉郡上里町大字堰字中堀北	集落跡	奈良・平安
上里 4号	若宮台遺跡	児玉郡上里町大字帯刀字堀の内	集落跡	奈良・平安

日本道路公団の用地買収および工事計画案の整ってきた昭和48年2月、高速道路建設局及び東松山工事事務所と、工事発注予定と埋蔵文化財についての打合せ会が行われた。東松山以北の工事区は、東松山側から滑川・嵐山・寄居・花園・美里・上里の六工区に分かれており、工事発注は、48年11月、上里工区から始まるという。ここで問題となったのは、48年度に発掘調査を実施しなければならないとなると、関越自動車道川越市～東松山市間で発掘調査した遺跡の整理報告書刊行事業とかち合って調査員が大幅に不足することになる。そこで、今後の工事発注計画と発掘調査を要す

る遺跡との関係を詳細に検討し、調査員の人員増に関する資料を整え、教育局内人事担当課と協議を開始した。

その後、公団側と48年度に調査事業を開始する方針で、細部の協議がもたれ、発掘調査から整理報告書刊行に至る調査事業年次もほぼ了解点に達した。

昭和48年4月7日付け東建総総第222号で、日本道路公団高速道路建設局長から、埼玉県教育委員会を経由して、文化庁長官あて、昭和42年9月30日付けで締結した「日本道路公団の建設事業等工事施行に伴う埋蔵文化財包蔵地の取扱いに関する覚書」の第1項に基づく協議が行われ、埼玉県教育委員会は「当該地内に所在する埋蔵文化財については、公団と十分協議し、記録保存のための発掘調査を実施する」との副申を付け、文化庁に進達した。

これについて、文化庁は、昭和48年6月2日付け委保第59号で「当該施行地内の遺跡については工事前に発掘調査を実施すること。重要な遺構を発見した場合には、設計変更等によりその保存に配慮すること。」と回答した。

問題となっていた調査員の人員増も解決し、調査体制も整い、上里町地内の4遺跡の調査経費が48年9月、県議会に上程可決され、昭和48年9月25日付けで日本道路公団東京建設局長あて、発掘調査の実施について、昭和48年度計画書を添えて通知し、10月25日、上里1号(本郷東遺跡)をトップに関越自動車道東松山—上里町間約36キロメートル所在する埋蔵文化財包蔵地の調査が開始された。

発掘調査を進める一方、山林や宅地等、時期的に地上観察の困難な場所についても、随時確認調査を進めた。その場合、新たに次の11箇所が確認され、その都度、日本道路公団に提示し、発掘調査を実施した。　　(横川好富)

遺跡番号	遺跡名称	所在地	種別	時代
嵐山 2号	中郷遺跡	比企郡嵐山町大字広野字中郷	集落跡	縄文
寄居 5号	中井丘遺跡	大里郡寄居町大字用土字中井丘		縄文
寄居 6号	中山遺跡	大里郡寄居町大字用土字中山		
寄居 7号	狢久保遺跡	大里郡寄居町大字用土字狢久保		縄文
8号	平原遺跡	大里郡寄居町大字用土字平原	集落跡	奈良・平安
寄居 9号	鶴巻遺跡	大里郡寄居町大字赤浜字鶴巻	集落跡	縄文・平安
岡部 3号	北坂遺跡	大里郡岡部町大字本郷字北坂	古墳群・集落跡	縄文・古墳
美里 2号	甘粕山遺跡	児玉郡美里村大字甘粕字東山	集落跡	縄文・古墳・平安
児玉 4号	後張遺跡	児玉郡児玉町大字下浅見字下モ田 本庄市大字四方田字堰場	集落跡	古墳
上里 5号	耕安地遺跡	児玉郡上里町大字堤字中堀北	寺院跡	平安・鎌倉
上里 6号	久城前遺跡	児玉郡上里町大字嘉美字一本松西 本庄市大字今井字久城前		奈良・平安

発掘調査の組織

1 発　掘

主体者	埼玉県教育委員会	教育長	石田正利
事務局	埼玉県教育局文化財保護課	課長	柳田敏司
		課長補佐	野村鍋一
企画調整	埼玉県教育局文化財保護課	文化財第二係長	早川智明
			塩野博
			柿沼幹夫
			本間岳史
庶務経理	埼玉県教育局文化財保護課	庶務係長	長谷川清
			太田和夫
			千村修平
			沼野勉
発掘	埼玉県教育局文化財保護課	文化財第三係長	横川好富
			増田逸朗
			水村孝行
			宮崎朝雄

2 整　理

主体者	埼玉県埋蔵文化財調査事業団	理事長	長井五郎
			関根秋夫(前)
		副理事長	沼尻和也
			本郷春治(前)
		常務理事	渡辺澄夫
庶務経理	埼玉県埋蔵文化財調査事業団	管理部長	伊藤悦光
			関野栄一
			福田浩
			本庄朗人
整理	埼玉県埋蔵文化財事業団	調査研究部長	横川好富
		調査研究第四課長	増田逸朗
			宮崎朝雄
			小野美代子
			立石盛詞
			小島糸子
			鈴木えり子

3 協力者　児玉郡児玉町教育委員会　地元区長及び地元住民

関越高速道関係遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	調査年	時代・遺構	報告・遺跡No.
A	内畑	新座市片山字池田	44	縄文前 住居跡9他 埼玉県遺跡調査会報告	第7集(1970)
B	城	所沢市城	44	縄文前 住居跡3、土壙 〃	第6集(1970)
1	南大塚	川越市豊田本字中原	46・47	古墳3基 埼玉県発掘調査報告書	第3集(1974)
2	中組	川越市的場字六畑	46	古墳・平安 土壙、溝	〃
3	上組	川越市笠幡字後大町	47	縄文早・弥生・古墳 住居跡14	〃
4	鶴ヶ丘	川越市笠幡字下丹草 鶴ヶ島町鶴ヶ丘字富士見	47	縄文・鎌倉 土壙、溝	〃
5	花影	坂戸市花影	47	縄文中・奈良・平安 住居跡16、方形周溝墓8	〃
6	駒堀	東松山市田木字立野	46・48	弥生・古墳 住居跡35、方形周溝墓1、古墳2	第4集(1974)
7	田木山	東松山市田木字相生	47	古墳2基	第5集(1974)
8	弁天山	東松山市田木字弁天山	47	塚5基	〃
9	舞台	東松山市田木字舞台	46・48	古墳2基、縄文中・古墳住居跡11	〃
10	宿ヶ谷戸	東松山市西本宿字宿ヶ谷戸	47	中世 井戸2、溝	〃
11	附川	東松山市石橋字附川	47	古墳4基、古墳住居跡6、弥生後一括土器	〃
12	青鳥城	東松山市石橋字城山他	47	中世城郭 堀、溝、ピット群、地下式壙	第6集(1974)
13	屋田	滑川村月輪字西新井	52・53	弥生・古墳 古墳9基、住居跡21	滑川1号
14	寺ノ台	滑川村水房字寺の台	52・53	古墳・奈良 古墳1基、住居跡2、塚2基	滑川2号
15	中郷	嵐山町広野字中郷	53	縄文中 住居跡7、土壙、溝 埼埋文報告	第13集(1982)
16	越畑城	嵐山町越畑字城山	52	中世城郭	嵐山1号
17	台耕地	花園村黒田字竹後	52・53	古墳3、縄文中・住25、平安・住80、製鉄炉3	花園1号
18	お金塚	寄居町鷹巣字西浦	52	塚1基	埼埋文報告第16集(1982)
19	鶴巻	寄居町赤浜字鶴巻	52	縄文後 土壙26	
20	新堀	寄居町用土字新堀	52	塚2基	
21	中井丘	寄居町用土字中井丘	51	縄文中～後・平安 包含層	
22	中山	寄居町用土字中山	51	中世～近世 炭焼窯2基	
23	烙久保	寄居町用土字烙久保	51	縄文前 包含層	
24	沼下	寄居町用土字沼下	51	平安 住居跡24、井戸	
25	平原	寄居町用土字平原	52	平安 住居跡3、掘立柱1	
26	甘粕山	美里村甘粕字東山	48・49	縄文草～前・晩～弥・平安 住居跡14、炭焼窯4	第30集(1980)
27	北坂	岡部町本郷字北坂	51・52	縄文草・平安 住居跡15、掘立柱9	埼埋文報告第1集(1981)
	清水谷		51	平安・中世 住居跡23、溝	
	安光寺	岡部町本郷字北坂	51	古墳2基	
28	塚本山	美里村下児玉字西山	49・50	弥生～平安 方形周溝墓9、古墳28、住居跡2	第10集(1977)
29	雷電下	児玉町浅見字雷電下	49	古墳～平安 住居跡63、井戸	第22集(1979)
30	飯玉東	児玉町浅見字飯玉東	49	縄文中・奈良・平安 住居跡2、方形周溝墓5	〃
31	後張	児玉町下浅見字下モ田 本庄市四方田堰場	50・51	古墳・平安 住居跡170 埼埋文報告	第15集(1982)
32	久城前	上里町嘉美字一本松西 本庄市今井字久城前	50	古墳末 溝、井戸	第15集(1978)
33	本郷東	上里町七本木字本郷東	48	奈良 住居跡6	第7集(1976)
34	愛宕	上里町七本木字愛宕耕地	48・49	古墳 住居跡8、溝、土壙	〃
35	中堀	上里町堤字中堀北	49	平安 住居跡8	第15集(1978)
	耕安寺	上里町堤字耕安寺	50	平安 包含層	〃
36	若宮台	上里町帯刀字堀の内	49・50	奈良・平安 住居跡75	上里4号

2　調査の経過

第1次調査（昭和50年3月10日～3月26日）

春雨の降りしきる3月、遺跡南東に横たわる大久保山丘陵は霧に霞み、畦畔のあちこちに新緑を見ながら、道路公団側の立ち合いのもとで、遺跡発掘区域の打合せを現地で実施する。

文化財保護課からは、横川係長、柿沼、大和主事が参加する。関越道路敷地の範囲確認を済ませ、明日予定している重機の導入口を選定し、隣接する地主に了解を得る。

11日　プレハブ建設と共に器材を搬入し、発掘区中央に前回試掘し確認した地山までユンボーで削平作業を開始する。

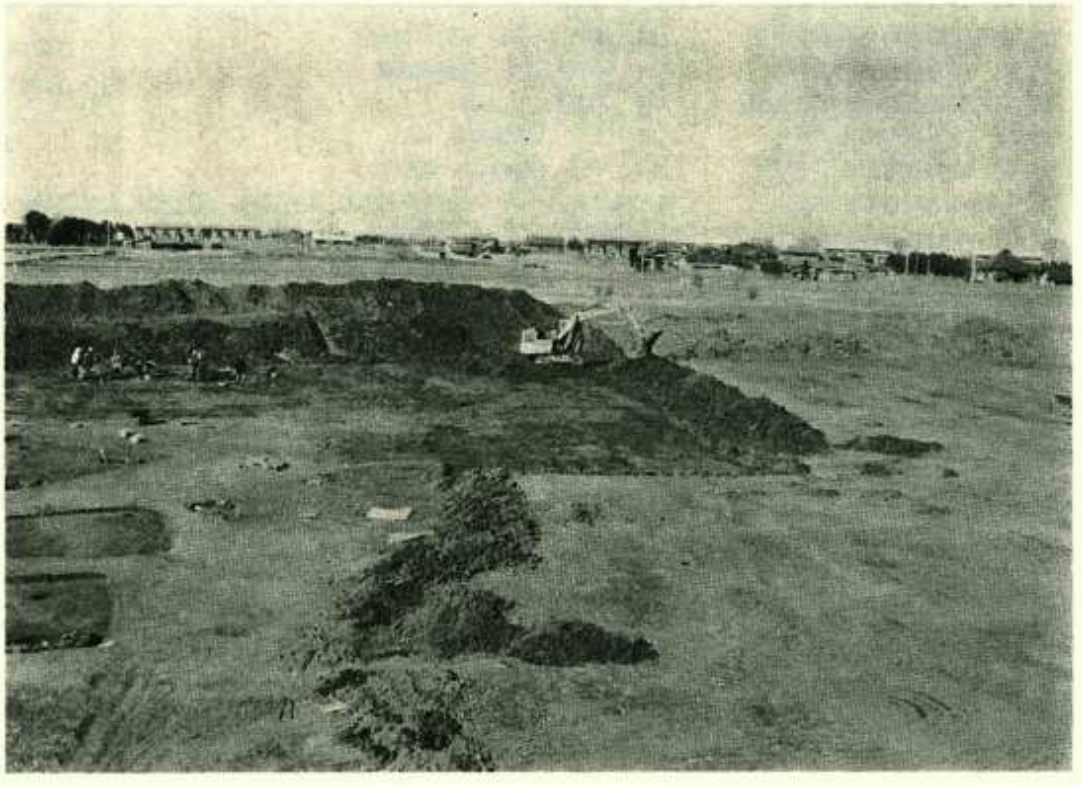
この結果、現在の畦畔のほぼ真下に溝と竪穴住居跡らしき落込みを確認する。

13日　130号、131号、132号住居跡を掘り始める。今日のところ五領ないし和泉期的土器片が多数出土し、3軒共切り合っている事が確認された。

15日　125号～129号住居跡が検出され、125号住居跡はカマドが確認され、126号住居跡を切っている様子がうかがえた。

24日頃、118号、134号住居跡を完掘し、今日までに掘り上げた住居跡の写真撮影と測量を開始する。

26日　残る126号～130号住居跡の平断面と全測図を完了させ、これと共に全景写真撮影を済ませ、第1次調査を全て終了させる。



第2図　発掘風景

第２次調査（昭和50年４月10日～25日）

新年度に至り、１次調査区を拡張し30番代の住居跡を検出する。

結局、今回拡張した地域全面に竪穴遺構が存在しており、遺構の範囲は押えることは出来なかった。

よって、２次調査は上記する住居跡のみ完掘することに努力し、他は３次調査にまかせる方針と決定した。

竪穴住居跡は、１次調査と同様切り合いが激しく、その時期も五領～鬼高期に亘っており、同様な時期の竪穴住居跡が広範囲上に分布していることが予想された。

４月後半には、以前ほぼプランを検出した住居跡は、掘り上がり、再度調査体制を立て直し、３次調査の全面的発掘に期待することにした。

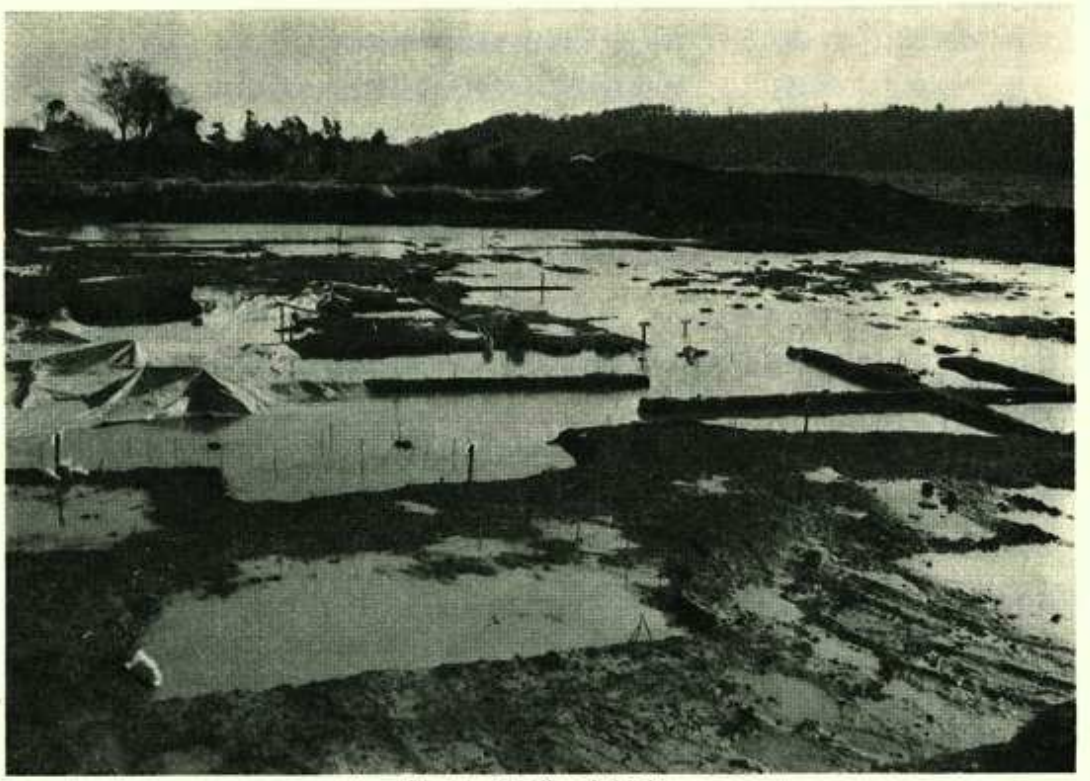
第３次調査（昭和50年10月27日～３月30日）

昭和50年10月27日

稔の秋、県北随一を誇る米作地帯も刈り入れを終え、畦畔の水も落る頃を見計らって、１次、２次調査で確認した当遺跡の本格的調査に入る。

まず、現地形が水田である事と、先般調査時に確認した土層を参考にして、一応、遺構上面まで全面をユンボーで削平し、その範囲を押える作業から実施した。

10月末頃までに、既に2500㎡を削平したところ、約50軒の竪穴が確認され、これが激しく切り合い、その時期も前回と同様、五領～鬼高Ⅰ期に及んでいることが判明した。



第３図　長雨後の遺跡景観

11月に入り、農作業が一段落した所で竪穴住居跡を一気に掘り始める。

竪穴内覆土は、遺跡北側基盤が粘質であったため識別困難であったが、他は全般的にローム が存在し、覆土は黒褐色を呈しており、北側を除けば比較的掘り易かった。

しかし、水稲刈り入れ直後のためか、未だ水位が高く、一時の豪雨で全面が水びたしとなり、数日間発掘を中断せざるを得ない一幕もあった。

発掘調査は、20～40番代の竪穴住居跡を中心に進めたが、重複が激しく、遺物の帰属関係を把握しきれない竪穴もあった。

遺物で注目されたのは、92号住居跡から須恵器杯が検出され、鬼高Ⅰ式と古式須恵器の共伴関係が実証されたことである。

12月今月に至り道路敷大部分を削平し終える。その結果遺構は、東西140m、南北100mに及び、路線外にも若干広がる可能性が十分考えられた。

今月の調査区は、遺跡南西部を中心に進め、一部切り合いが激しく、プラン不明な竪穴住居跡も少なからず存在した。

今月の後半に入り、第1次調査区附近にも発掘が及び、前回調査時の竪穴を確認し、前回作成の全測図と照合することが出来た。

1月、新年に入り遺跡東端まで削平する。その結果、東側に行くにつれて竪穴遺構が少なくなる傾向がつかめた。

しかし、東端には館跡的性格を帯びた溝状遺構が二重に廻り、一部古墳時代の遺構を壊していた。

これに加え、前年の調査区北側から検出された溝は、ほぼ東西に走り、東側調査区外に貫けていることが確認され、この溝内からは和泉期の土器が多量に検出された。

今月に入り寒さが一層厳しく、午前中は凍結した遺構上面剝ぎという具合に、床面、壁が相当破壊されてしまい、多期発掘の限界を感じさせた。

2月、遺跡東南地区の調査に加え、北側140番代の竪穴検出にも入る。

この附近の土も70番代に同様基盤が粘質で、覆土の色別が難しく、なおかつ硬く、作業に手間取る。

結局、散水をして、覆土を軟らかくし、色調不分明ながらこの種の竪穴住居の調査を進める。

3月、年度末に至り、公団側で工事用に設定した基本杭№36より換算して、遺跡内にグリットを設定する。

一応、20mピッチで全面に基本杭を打ち込み、これを中心に全体測量を100分の1でとる。

標高も№36の68.73mを参照し、遺跡東端まで引いて来る。

3月中の主な作業内容は、プレハブ裏側B区で検出された溝の調査に加え、集落内で遺構が不明瞭な部分の精査と、測量に大部分の時間をさく。

昭和51年3月末、第1次、第2次、第3次と続いた本後張遺跡の調査も、生活基盤である水田耕作の始まる5月の田植を直前に控え、取急ぎ工事者側に遺跡を引き渡す事となった。

Ⅱ 遺跡の立地

後張遺跡が位置する県北の児玉郡は、西方に県境を流れる神流川、これが合流する利根川を北方に、また、南方は秩父山塊から源を発する荒川に面している。

郡内には、本庄市街南側を東流する女堀川、美里平野を潤す小山川、志戸川両中級河川が、県内屈指の肥沃な穀倉地帯を形成している。

そして、この地は、南方を秩父連山の末端に接し、一部扇状地を成して北方利根川へと平野部が開けている。

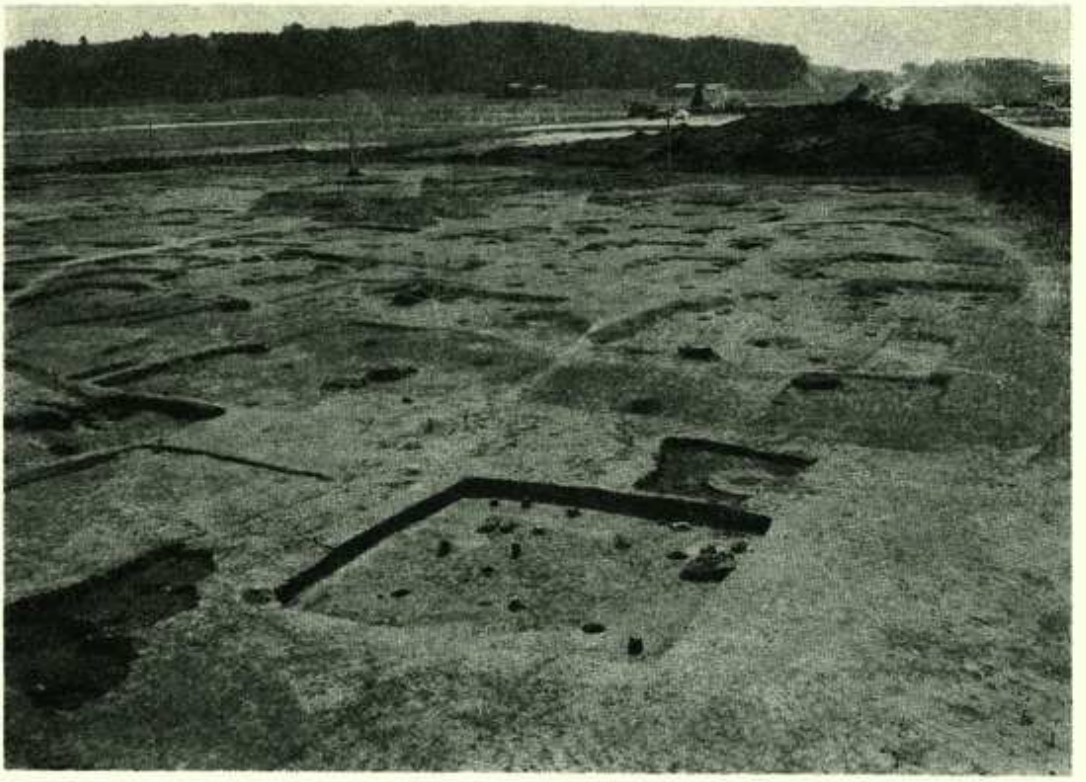
平野部には、標高105～130mを測る生野山、大久保、山崎山の三紀独立丘陵が、あたかも大和三山のごとく横たわりここが、又古代における遺跡の宝庫とし知られている。

当後張遺跡は、この三独立丘陵中の大久保山北西に存し、男堀川を挟んで対峙している。

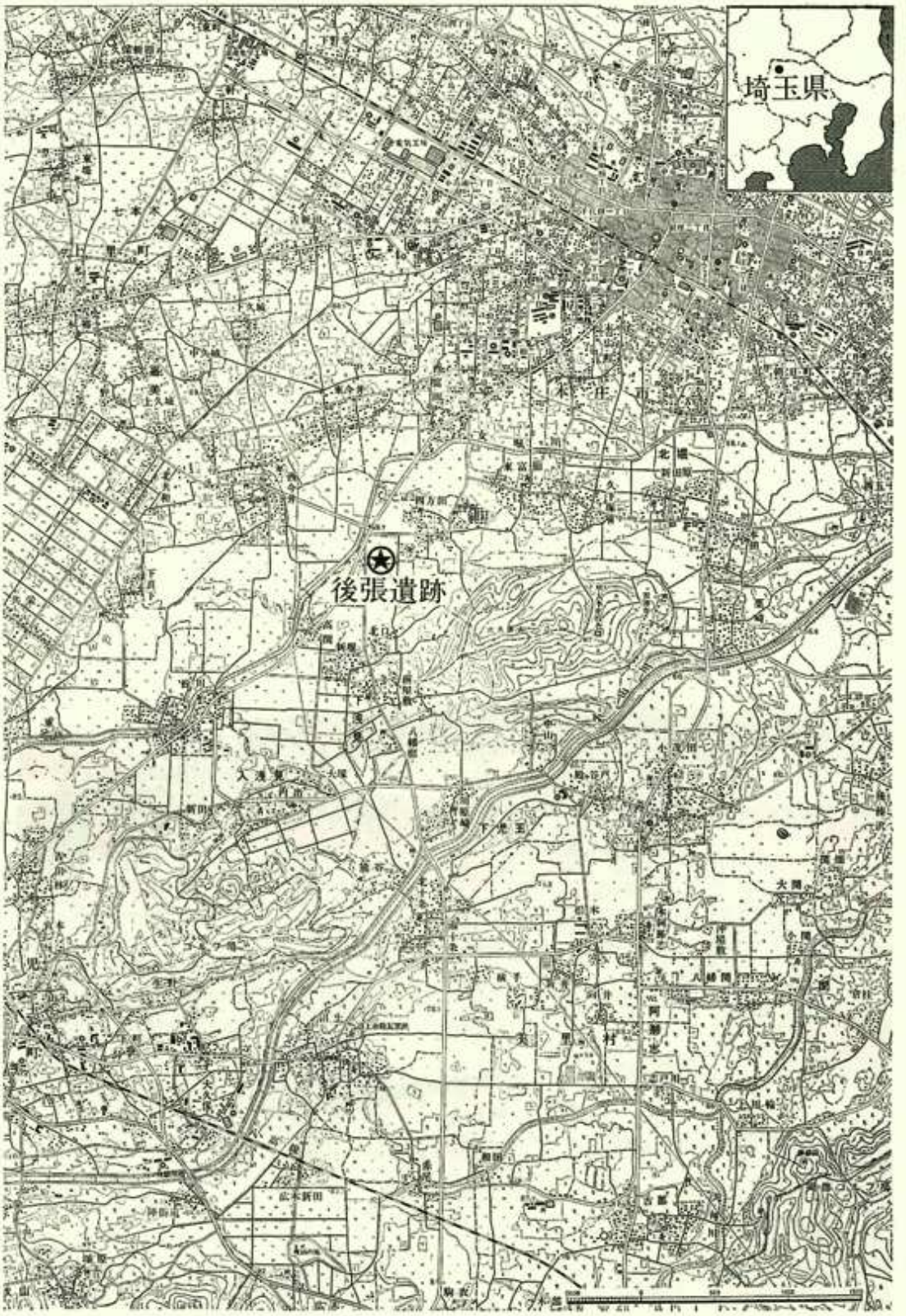
遺跡北方に広がる上里町・本庄市街は、地形的には、神流川により形成された扇状地の扇央部から扇端部に位置している。

この神流川扇状地は、関東山地の結晶片岩地域を出はずれる段丘と、沖積地の二つの扇状地から成り、東は生野山を境に見馴川扇状地と隣接し、西は神流川左岸で庚申山丘陵で境されている。

現在の神流川に沿って作られている沖積扇状地と、それより離れて広がる洪積扇状地との比高差は5m以下である。この洪積扇状地には関東ローム層が堆積し、当遺跡を含め隣接する古墳時代の集落である愛宕・諏訪・二本松遺跡等は全てこのロームを切って竪穴住居跡が構築されている。



第4図　遺跡より大久保山を臨む



第5図 遺 跡 の 位 置

この扇状地は、鬼石町浄法寺付近の扇頂部の標高は約100 m、上里町金久保から本庄市諏訪町に至る扇端部の標高は約50mで、神流川流路と同様約 N—20°—E の方向で北東へゆるやかな傾斜を保っている。

さて、本後張遺跡の地形は大きくは上記扇端部に属し、北東へ傾斜を示し、標高68.00～67.70mを測る。しかし、この地は北方を女堀川で浸食され、ここに水田が開けでるため、厳密には本庄市諏訪地域とは水田を離れて画している。

女堀川右岸に立地する後張遺跡は、一部を除きロームが基盤であり、女堀川の自然堤防的地形を成し、これが東方の四方田、東富田へと連なって、古墳時代の集落を形成している。

調査以前の遺跡の現況は、水田であったが、明治初期の地形図によると、竪穴住居跡が発掘された範囲は、ほぼ全域が畑地を成しており、古老の言によると、瓦土として削平されたとの事である。これよりすれば東方に建立されている真福寺と同一地形を成し、古くから集落立地条件を備えていた事もうなずける。

遺跡付近の微地形は、前述の様に東西に伸びる自然堤防であり、ちなみに、削平された今日における地形は、遺跡北方100 mで70cm、南東で90cmの比高差を示し、往時ではこの差が大きかった事が前述する古図からも推測される。

可耕地としては、南に広がる水田地帯が考えられる。南方約500 mには女堀川上流高関から取り入れる悪水的男堀川が東流し、本遺跡からの比高差1～1.5 m程で、この取水形態等が水田経営の技術的側面を十分看取できそうである。

いずれにしろ、女堀川そのものが文献に表われて来るのは中世であり、この川の性格は不明であるが、本遺跡内で旧河川も検出しており、元女堀川が存在した可能性は十分予想される。おそらく後張遺跡は女堀・男堀とのかかわりの中で、水田経営が存続したものであろうし、5世紀中葉に於ける技術革新とこの微地形とのかかわりの中で検討する必要があろう。

なお、当遺跡から西方に自然堤防状に伸びる微高地上に五領期の集落が近年検出されており、これに加え関越道路地内南方約600 mに飯玉東遺跡が調査され、五領期と推定される方形周溝墓、集落が既に報告されている。

参考文献

渡部景隆・引田章臣　『埼玉県神流川扇状地の水質地学的研究』　秩父自然科学博物館研究報告14号
宮崎朝雄他　『中堀・耕安地・久城前』　埼玉県遺跡発掘調査報告書第15集
玉口時雄　『埼玉県本庄市西富田遺跡調査報告』　史観第65・66・67号合冊　1962
駒宮史朗・大和修　『本郷東・愛宕』　埼玉県遺跡発掘調査報告書第7集　1976
増田逸朗他　『下田・諏訪』　埼玉県遺跡発掘調査報告書21集　1979
駒宮史朗　『雷電下・飯玉東』　埼玉県遺跡発掘調査報告書第22集　1979

Ⅲ 遺跡の概要

A地区

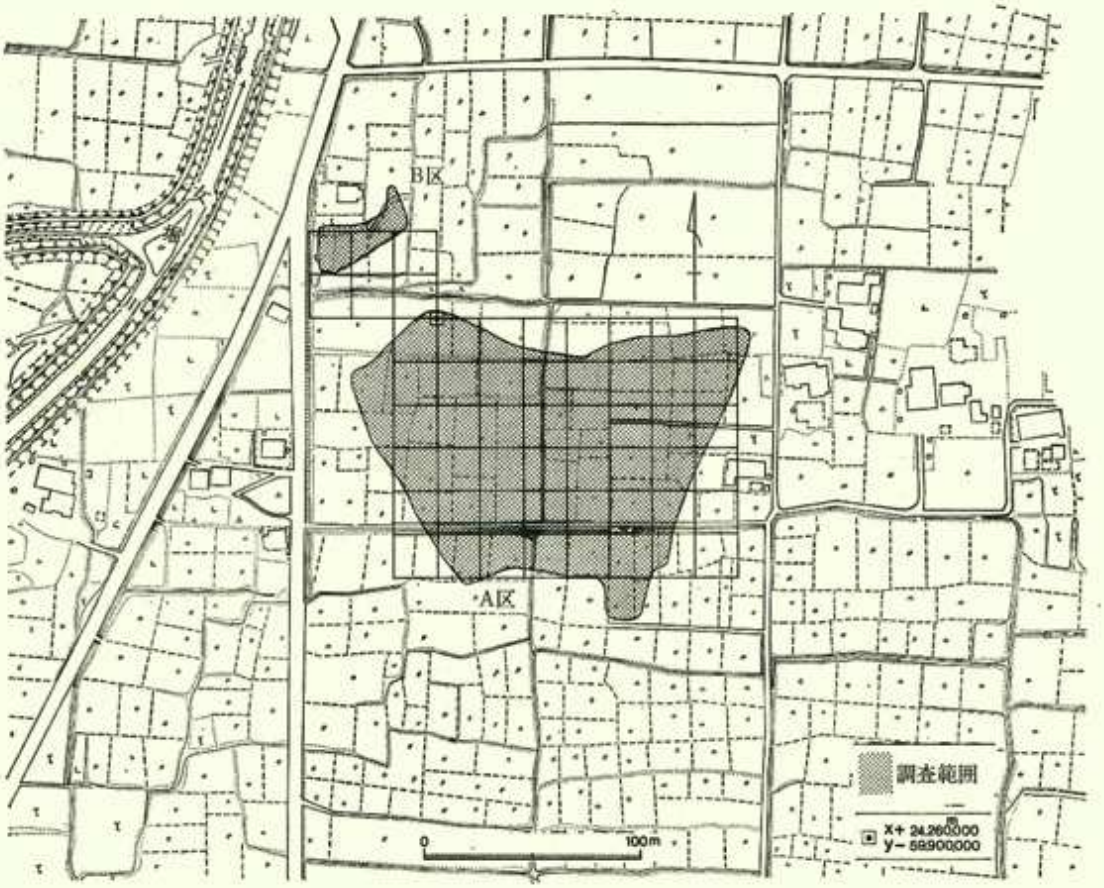
調査区は、インターの分岐点に当たり、その範囲はほぼ台形を呈し、北側で東西180 m、南側で東西100 m、南北幅100 mを測る。

遺跡附近の標高は、調査区西側で68.00 mを測り、東側で67.70 m程で、調査以前の水田面の比高差は30cmを測るのみで、ほとんど傾斜を感じさせない程度である。

遺構の分布状態は、調査区全域に竪穴住居跡が構築されている感はあるが、南側・東側に移るに従って切り合いも少なくなり散在する様である。

調査範囲は、勿論、道路敷内であったが、一部取付道路、排土下等に調査が及んでいない箇所も見られる。

特に、調査区北側の79～86・141・146・155・156号住居跡附近は、盛土が存在したため調査が及



第6図　遺跡付近の地形と調査範囲

んでおらず、これに加え、四側取付道路下の56～60、63・64号住居跡附近も同様な条件で完掘していない。

しかし、南側に関しては、地形もなだらかながら傾斜を示し、部分的にトレンチを設定したが、ほぼ今回の発掘区域が集落の南限である結論を得た。

なお、調査区西側の1～46号住居跡の隣接地は地形的に差程落ちる事はないが、幅10m以上の旧河川が埋没しており、この関係か竪穴住居跡の広がりは見られなかった。

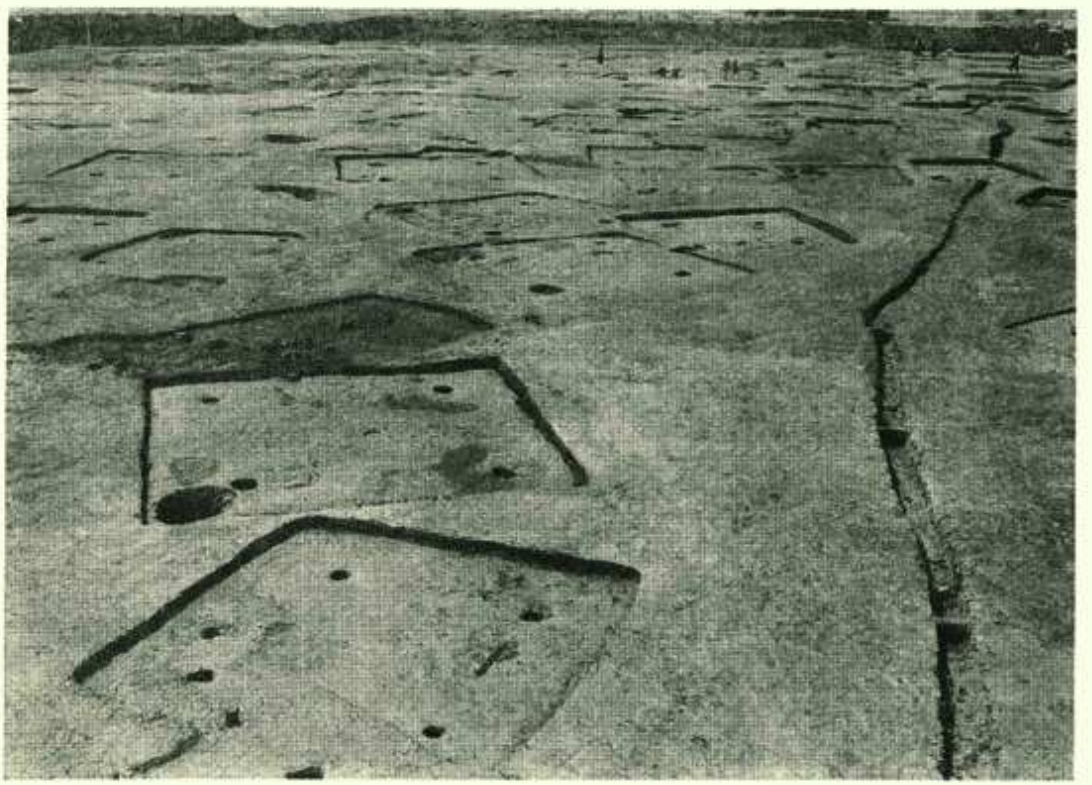
この様な調査時の諸状況を勘案すると、北側と西側の一部を除き、集落の広がりは南側がほぼ限界で、東側も竪穴の数は少なくなるものと考えられる。

大まかに、調査区西側は密で、それなりに重複が激しく、1～50号代の住居跡に関しては、そのプランさえおぼつかないものが見受けられる。

特に2～5号、11～14号、18～37号、42～45号、80～85号、96～100号の間の切り合いは、4～5軒の切り合いが多く、古い竪穴に至っては、その帰属する土器さえ明確にし得ないものもあり、竪穴の重複のそれなりの歴史的意義はともかく、土器編年上は少なからず支障を来たす面もいがめない状況であった。

これに比べ、調査区南東側は比較的竪穴住居同士の切り合いは少なく、多くて2～3軒程度であった。この事は全測図を見てもわかる通り、当集落では古い竪穴が南東に多く分布する様であり、鬼高期の集落の大部分が北西寄りに多いことと少なからず関連するものと見られる。

集落の時代については、後半の整理結果を待たねばならないが、調査時の所見としては、A地区



第7図　竪穴住居跡群（東方より）

の大部分の竪穴住居跡の時期は五領期後半より、鬼高Ⅰ式に亘るものであり、一応、該期集落の経続的居住地として本遺跡を理解する事も可能である。

竪穴以外の遺構としては、北側上東西に走る溝が見られ、和泉期の土師器を包含していた。

土壙は、調査区南西から中央、東北側にも見られる。

古墳時代以外の遺構として、平安時代の竪穴、中近世の館跡と推定される溝も検出されている。

＜遺構＞

古墳時代

竪穴住居跡	188軒（五領～鬼高Ⅰ）
溝跡	1本
土壙	37基
井戸跡	2基

歴史時代

竪穴住居跡	2軒（平安）
館跡	1軒
土壙	2基

B区

A区北西約20m離れた地点を約300㎡程調査し、溝を検出する。

当調査区はA区1号住居跡北方の集落の広がりを確認するためと、現在の畦畔と条里遺構との関連を追求する目的で実施された。

調査区に7本のトレンチを設定した結果、幅6mを測る南北に走る溝（旧河川？）とこれに連なる幅1.3m程の溝が検出され、北東に伸びている事が判明したが、調査範囲中では東西に方位を取る溝は無かった。

また、調査区東側溝上からは、羽釜を有する竪穴状遺構が発見され、溝は当住居跡より古い事が判明した。

＜遺構＞

竪穴住居跡	1軒（平安）
溝跡	4本（平安）

Ⅳ 遺構及び遺物

1. 住 居 跡

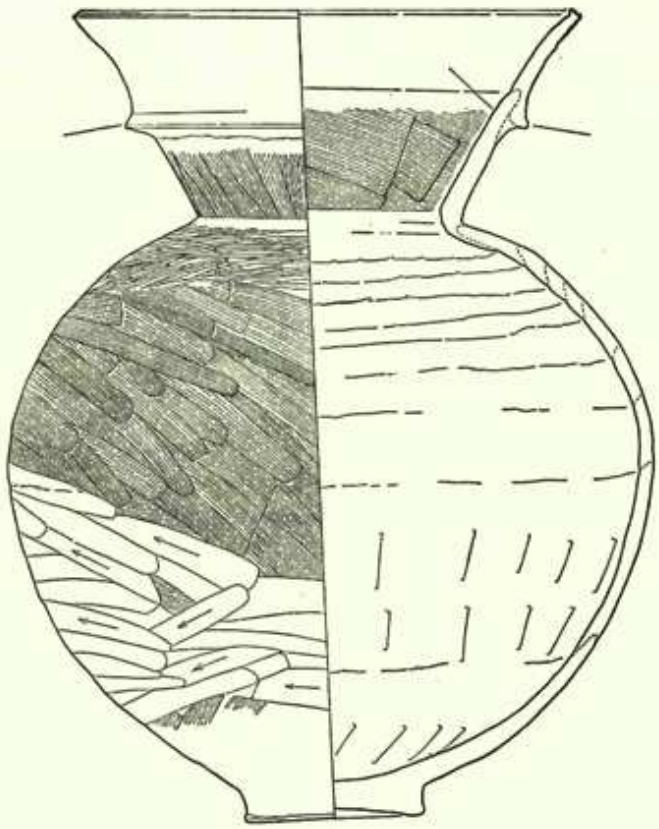
住居No	規模（m）長辺×短辺×壁高	形態	主軸方向	炉（位置）	柱穴	壁 溝	貯蔵穴（位置）	重複関係	備 考
6住	（ ）×4.16×0.14	方 形	不 明	不 明	0	有 残存部全周	不 明	2住に切られる。	北側一部のみ検出。
10住	4.26×4.16×0.20	方 形	N-73°-W	地床炉 中央西寄り	4	無	無	9住に一部切られる。	西側炉は付近に遺物集中出土。
14住	（ ）×4.88×0.17	方 形	不 明	地床炉 北壁付近	2	無	不 明	9・12・13住に切られる。	北側部分のみ検出。
17住	5.35×3.20×0.13	長方形	N-40°-W	不 明	2	無	無	18住に一部切られる。	南西部床面軟弱。
30住	6.20×6.00×？	方 形	不 明	不 明	0	無	不 明	29・32住に切られる。	東側一部のみ検出。
31住	4.80×4.60×？	方 形	N-30°-W	不 明	2	有 全 周	有 東南部隅	30住と重複。	周溝によりプランを確認。
41住	不 明	方形？	不 明	不 明	0	無	不 明	11・21住に切られる。	南西側一部のみ検出。
44住	（ ）×（ ）×0.14	方形？	不 明	不 明	0	無	無	42・43住に切られる。	北西側一部のみ検出。
47住	（ ）×（ ）×0.23	方形？	不 明	不 明	2	無	無	43・45・46住に切られる。	北東側一部のみ検出。
51住	7.2×7.05×0.22	方 形	N-139°-W	地床炉 中央南寄り	4	有 全 周	南 南西部隅	50住に切られる。	炉北側中央部に小ピット有り。
57住	3.80×4.02×0.20	不整方形	N-19°-W	地床炉	4	無	無	56・58住に切られる。	南側に入口施設有。
60住	（ ）×6.87×0.33	方形？	不 明	地床炉	2	有 南・西壁	有 南東部隅	59住に切られる。	北東部は攪乱。
64住	8.15×（ ）×0.22	方形？	N-15°-W	地床炉 中 央	2	無	有 南東部隅	63住に切られる。	西側は調査区域外。
65住	（ ）×（ ）×0.18	方形？	不 明	不 明	1	無	不 明	64住に切られる。	北東側一部のみ検出。
71住	4.75×3.60×0.20	長方形	N-83°-W	地床炉？ 南西部	4	有 全 周	有 南東部隅	70住と接する。	炉は掘り込みが無く焼土が散乱しカマド状。
72住	6.00×5.90×0.15	方 形	N-7°-W	地床炉 中央北寄り	4	有 全 周	有 南西部隅	70住に切られる。	
74住	5.65×5.20×0.16	方 形	N-93°-W	地床炉 中央西寄り	4	有 全 周	無	無	
75住	5.50×5.15×0.17	方 形	N-36°-W	地床炉 中央北寄り	4	有 全 周	無	旧75住に貼っている。	貼り床（3.8m四方）下に旧住居検出、拡張住居？

住居No.	規模（m）長辺×短辺×壁高	形態	主軸方向	炉（位置）	柱穴	壁溝	貯蔵穴（位置）	重複関係	備考
77住	5.35×5.10×0.17	不整方形	N-20°-W	地床炉 中央北寄り	4	無	有 南東部隅		北東部に焼土。
79住	5.70×5.65×0.16	方形	N-50°-W	地床炉 中央西寄り	4	有 南壁1部無し	無	78住に一部切られる。	
82住	(　)×(　)×0.30	方形？	不明	不明	2	無	不明	80・84住に切られる。	北東側一部のみ検出。
93住	4.35×4.10×0.24	方形	N-8°-W	地床炉 中央北寄り	4	有 全周	無	92住に切られる。	
95住	5.10×4.50×0.16	不整方形	N-40°-W	地床炉 中央北寄り	5	無	有 北西部隅		
98住	4.60×4.50×(　)	方形	N-7°-W	地床炉 中央北寄り	4	有 一部欠	有 南西部隅	96・99住に切られる。	中央部のみ検出。
100住	5.65×5.30×0.35	方形	N-67°-W	地床炉 中央西寄り	4	有 ほぼ全周	有 南東部隅	99住に切られる。	
106住	4.35×3.80×0.32	方形	N-80°-W	地床炉 中央東寄り	4	有 全周	無	105住に切られる。	中央部に小ピット。
113住	3.15×(　)×0.35	方形？	N-3°-E？	地床炉 中央北寄り	1	無	不明	112住に切られる。	
114住	5.05×4.85×0.15	方形	N-14°-W	地床炉 中央南寄り	4	無	無	無	
123住	4.25×(　)×0.10	方形？	不明	不明	0	有 残存部全周	不明	124住に切られる。	北東部のみ検出。
126住	7.15×7.00×0.30	方形	N-88°-W	地床炉 中央西寄り	4	有 北・東壁欠	有？ 北西部隅	125住に切られる。	
129住	6.15×5.90×0.20	方形	N-8°-W	地床炉 中央北寄り	4	有 全周	有 南東部隅	128住に一部切られる。	中央部貼床。
130住	5.75×5.60×0.32	方形	N-87°-E	地床炉 中央東寄り	4	無	無	131住と重複。	
131住	5.10×5.00×0.10	方形	N-81°-E	地床炉 中央東寄り	4	無	有 南東部隅	130住と重複。	炉内焼土少量。
133住	3.85×(　)×0.06	方形	不明	不明	0	有 残存部全周	不明	南部を水路に切られる。	黒色土中に構築。
134住	4.85×(　)×0.20	方形？	不明	不明	1	無	有？ 南西部隅	水路に切られる。	北側一部のみ検出。
135住	不明	不明	不明	不明	0	不明	不明	無	黒色土中に遺物分布により確認。
136住	6.80×6.55×0.20	方形	N-16°-W	地床炉 中央北寄り	4	有 ほぼ全周	有 南西部隅	無	
137住	4.75×(　)×0.05	方形？	不明	地床炉 北東部隅	4	有 残存部全周	不明	溝に切られる。	

住居№	規模（m）長辺×短辺×壁高	形態	主軸方向	炉（位置）	柱穴	壁溝	貯蔵穴（位置）	重複関係	備考
138住	4.20×3.85×0.10	不整方形	不明	地床炉2ケ中央北・南寄り	4	無	有2ケ？南西・北西隅	無	炉、貯蔵穴（？）とも2ケ。建て換えか？
139住	3.30×3.00×0.05	方形	N-16°-W	地床炉中央北寄り	4	無	無	無	
140住	5.20×4.95×0.07	方形	N-8°-W	地床炉中央北寄り	4	無	南西部隅	無	中央部に焼土が分布。
145住	5.70×5.60×0.10	方形	N-51°-E	地床炉中央北寄り	4	有ほぼ全周	南東部隅	144・146住に切られる。	
152住	6.25×5.90×0.10	方形	N-40°-E	地床炉中央北寄り	4	有東壁のみ	有南部隅	151住に切られる。	
153住	6.70×6.35	方形	N-43°-W	地床炉中央北寄り	4	有ほぼ全周	有南西部隅	151住に切られる。	
154住	5.80×5.14×0.07	方形	N-50°-W	地床炉中央北寄り	4	無	有北東部隅	無	
157住	6.90×（ ）×0.10	方形	不明	不明	1	無	不明	156住に切られる。	中央にピット1ケのみ。住居跡か？
158住	6.05×6.03×0.20	方形	N-60°-E	地床炉中央北東寄り	4	有全周	有北東部隅	159住と接する。	
159住	（ ）×4.15×0.06	長方形？	不明	不明	1	無	不明	158住に接する。	ピット1ケのみ。住居跡か？
161住	4.95×4.60×0.22	方形	N-8°-E	地床炉中央北寄り	4	無	無	160住に切られる。	南側に入口施設有り。
162住	7.30×6.90	方形	N-12°-W	地床炉中央北寄り	4	有全周	有南西部隅	160住に切切られる。	南側に入口施設有り。
165住	（ ）×（ ）×（ ）	方形？	不明	地床炉	8	無	不明		柱穴と炉のみ確認。2軒か？
166住	3.34×3.10×（ ）	不整方形	不明	無	1	無	無		炉、柱穴が検出できず住居跡か不明。
167住	4.40×4.20×0.12	方形	N-95°-W	地床炉中央西寄り	4	無	無		
168住	5.12×4.70×0.17	方形	N-90°-W	地床炉中央西寄り	4	無	無		
170住	4.85×4.65×0.16	方形	不明	無	4	有西壁のみ	有西部隅		
172住	6.10×5.75×0.17	方形	N-5°-W	地床炉中央北寄り	4	有全周	有南西部隅	171住に接している。	
174住	4.50×4.40×0.15	方形	N-4°-W	地床炉中央北寄り	4	無	有南西部隅	175住を切っている。	
175住	5.02×4.35	方形	N-87°-W	地床炉中央西寄り	3	有残存部全周	有南西部隅	174住に切られる。	

住居No.	規模（m）長辺×短辺×壁高	形態	主軸方向	炉（位置）	柱穴	壁溝	貯蔵穴（位置）	重複関係	備考
176住	6.80×6.75×0.18	方形	不明	地床炉2ヶ東寄り・西寄り	4	無	無	177住に切られる。	
177住	5.80×5.15×0.16	方形	N-7°-E	地床炉北西寄り	4	有全周	無	176住を切っている。	
178住	4.40×4.40×0.10	方形	N-95°-W	地床炉中央西寄り	4	無	無	179住と接している。	
179住	5.35×5.12×0.11	方形	N-5°-W	地床炉中央北寄り	4	無	有南西部隅	178住と接している。	
180住	5.40×4.90×0.20	方形	N-65°-E	地床炉東寄り	4	無	有北西部隅		
181住	4.90×4.10×0.35	方形	N-18°-W	地床炉中央北寄り	4	無	有?南西部		
182住	4.30×3.85×0.15	方形	N-30°-W	地床炉中央北寄り	4	有北・東壁のみ	有南西部		
183住	7.10×6.90×0.17	方形	N-8°-W	地床炉中央北寄り	4	無	有南西部隅		
184住	6.70×6.55×0.21	方形	N	地床炉2ヶ中央北寄り	4	有全周	有南西部隅		南側に入口施設有り。
185住	4.70×( )×0.21	方形	不明	不明	2	有残存部全周	不明		東側調査区域外。
187住	7.10×7.05×0.14	方形	N-8°-W	地床炉2ヶ中央北寄り	4	有東壁のみ	有南東部隅		
188住	( )×( )×( )	方形?	不明	地床炉中央北寄り	4	無	無		柱穴、炉のみ検出。

注　主軸方向は炉を中心にした。柱穴は検出数である。



第8図　壺形土器（131号住居跡出土）

2 土　　器

6号住居跡出土土器（第3図）

器種	番号	形　態　の　特　徴	外　面　の　観　察
鉢	1	口縁部短く立ち上がる。	体部クシ目調整。

10号住居跡出土土器（第3～5図）

壺	1	二重口縁を呈す。口縁端部は平坦。	口縁部横ナデ。
壺	2	口縁部内彎気味に立ち上がる。最大径を胴部中央にもち，底部は弱い上げ底。	口縁部横ナデ。頸部ナデ。胴部篦削りの後ナデか。底部周辺指頭による押え。底部篦削りの後ナデ。
壺	3	口縁部内彎気味に開く。	口縁部・胴部上端ナデ。胴上部篦削り。
壺	4	口縁部外反する。大型で作りは雑。	口縁部横ナデ。胴上部篦削りの後ナデ。
小型壺	5	口縁部中程で内彎気味に開く。胴部は球形を呈し，底部は平底。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ，中央部・下部篦削り。底部篦削り。
小型壺	6	胴部最大径を中央にもつ。底部は丸底。	胴部篦削り。底部篦削り。
坩	7	胴部中央が強く張る。底部弱い上げ底。	胴上部・中央部ナデ，下部篦削り。底部ナデ。
坩	8	胴部中央が強く張る。底部は丸底。	胴部上半ナデ，下半篦削り。
坩	9	胴部最大径を中央にもつ。底部僅かに窪む。	胴部上半ナデ，下半篦削り。
坩	10	胴部最大径を中央にもつ。底部は上げ底。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ，下半篦削り。底部篦削り。底部周辺に黒斑。
坩	11	胴部最大径を中央より僅かに上にもつ。底部は僅かに突出し平底を呈す。	胴上部・中央部ナデ，下部篦削り。底部ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
口縁部横ナデ。体部は丁寧なナデ。	A	黄褐色	口径(11.2)	口縁部10%、体部20%残存。

胴上部、部分的に指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋F	茶褐色	口径(14.3) 残存高 8.5	口縁部40%残存。
頸部篦ナデ。胴部ナデ。底部にのみ篦ナデの跡を残す。	A＋B＋C＋D＋E＋F＋粗砂粒	黄褐色	口径(16.4) 底径 7.4 胴部最大径25.1 器高27.4	口縁部40%、胴部50%、底部100%残存。
胴上部ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	黄褐色	口径16.4 残存高12.3	口縁部100%、胴上部30%残存。№8
胴上部粗いナデ。粘土接合痕を多く残す。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	口径24.7 残存高25.6	口縁部・胴上部60%残存。
胴上部指頭による押え、中央部・下部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径10.5 底径 3.7 胴部最大径15.2 器高13.6	口縁部60%、胴部70%、底部100%残存。№7
胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	胴部最大径12.5 器高10.3	胴部・底部100%残存。№14
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径 3.3 胴部最大径 8.8 残存高 5.6	胴部・底部100%残存。№9
胴部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	胴部最大径48.3 器高 5.6	胴部・底部100%残存。№9
胴部上半指頭による押え、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	底径 3.9 胴部最大径 8.7 残存高 6.1	胴部60%、底部100%残存。
胴部指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	底径 3.5 胴部最大径 8.0 残存高 7.0	口縁部20%、胴部・底部100%残存。№10
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径 2.4 胴部最大径 9.6	胴部・底部100%残存。№10

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
杯	12	口縁部僅かに内彎気味に立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部ナデ。
杯	13	丸底を呈す。口縁部内面に稜をもつ。	口縁部横ナデ。体部上半篦削りの後ナデ、下半篦削り。
手捏	14	口縁部短く外折する。	口縁部・体部指頭による押え。
高杯	15	杯部の稜を篦削りによって作りだす。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。
高杯	16	二段に開く裾部。	裾部上段ナデ、下部横ナデ。
高杯	17	口縁部直線的に開く。杯部の稜は篦削りによる作り出しか。	口縁部横ナデ。
高杯	18		柱状部ナデ。
高杯	19		杯下部ナデ。柱状部ナデ。
高杯	20		杯下部・柱状部篦削りの後ナデか。
高杯	21		杯下部篦削りの後ナデ。柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	22		杯下部篦削り。柱状部・裾部篦磨き。脚端部付近のみ横ナデ。
高杯	23		杯下部篦削りの後ナデ。柱状部篦磨き。
高杯	24	裾部で僅かに屈曲して開く。	柱状部・裾部暗文状の篦磨き。
高杯	25		脚部篦磨き。
高杯	26		柱状部・裾部篦磨き。
甕	27	口縁部外反気味に開く。	口縁部横ナデ。胴上部篦削りの後ナデ。
甕	28	口縁部外反する。	口縁部横ナデ。胴上部篦削りの後ナデか。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(14.7) 残存高 4.7	口縁部40%、体部30%残存。
体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径13.2 器高 5.1	口縁部・体部50%残存。
口縁部指頭による押え。体部篦ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	口径 7.7 器高 5.1	完形。No.4
杯部の器面が剥落して荒れている。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	淡褐色	口径10.4 残存高 7.1	口縁部30%、杯下部100%残存。No.15
裾部上段ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	底径20.4 残存高 4.0	裾部40%残存。
	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(9.8) 残存高 4.5	口縁部40%残存。
柱状部上端ナデ、以下は指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高 9.5	柱状部100% 残存。
柱状部上端ナデ、以下は指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高10.4	柱状部100% 残存。
柱状部強い絞り目を残す。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高 8.5	杯下部90%、柱状部100%残存。No.13
柱状部上半指ナデの後絞り、下半篦削り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高 9.9	柱状部100%残存。No.7
柱状部上部ナデ、中央部指頭による押えの後ナデ、下部篦削り。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径14.2 残存高11.6	柱状部100%、裾部50%残存。No.18
柱状部上端ナデ、上部指ナデの後絞り、以下を篦削り。杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高11.1	柱状部100% 残存。No.3
柱状部上半指ナデの後絞り、下半指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径12.4 残存高10.0	柱状部100%、裾部30%残存。
脚部ナデ。	A＋B＋C＋D	橙褐色	残存高 6.9	脚部60%残存。
柱状部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	残存高 5.6	柱状部100%残存。
胴上部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	黄褐色	口径17.2 残存高 9.0	口縁部・胴上部20%残存。
胴上部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(20.0) 残存高 6.9	口縁部60%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
甕	29	口縁部内彎気味に開き端部近くで僅かに外方向に屈曲。	口縁部篦削りの後横ナデ。胴部篦削りの後ナデ。
甕	30	口縁部短く立ち上がって外反する。	口縁部横ナデ。胴上部ハケ目整形の後ナデ、中央部篦削りの後ナデ。
甕	31	口縁部外反する。最大径を胴部中央にもち、底部は平底。	口縁部・胴部上端横ナデ。胴上部・中央部短いハケ目整形の後部分的に篦削りとナデ、胴下部篦削りの後部分的にナデ。底部篦削り。
甕	32	口縁部短く立ち上がってから外反する。	口縁部横ナデ。胴部粗いハケ目整形の後篦削りか。
台付甕	33	脚台部直線的に開く。内面の折り返し乱れる。	脚台部ナデ。

14号住居跡出土土器（第7図）

鉢	1	口縁部短く内彎気味に開く。底部は上げ底。	口縁部横ナデ。胴部篦削り。底部は篦削りか。
坩	2	胴部ソロバン玉状を呈す。底部は上げ底。	口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴部ハケ目整形の後ナデ。中央部のみ部分的に篦削り。底部ナデ。
高杯	3	口縁端部近くで僅かに内屈。杯部に明瞭な段をもつ。	口縁部ハケ目整形の後横ナデ。杯下部丁寧なナデ。口縁部に黒斑。

17号住居跡出土土器（第9～12図）

壺	1	口縁部直線的に開く。最大径を胴部中央より僅かに上にもつ。底部はドーナツ状の粘土を貼付する。	口縁部横ナデ。胴部上半丁寧なナデ、下半粗いナデ。底部ナデ。胴部下半に黒斑。
壺	2	口縁部外反気味に開く。最大径を胴部中央もにつ。	口縁部横ナデ。胴部上半丁寧なナデ、下半粗いナデ。
壺	3	やや長胴を呈し、胴下部で強く窄まる。	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後ナデか。
壺	4	口縁部直線的に開き端部で立ち上がる。	口縁部横ナデ。胴上部丁寧なナデ。
小型壺	5	口縁部内彎気味に開く。最大径を胴部中央にもつ。底部は上げ底。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ、中央部・下部篦削り。底部篦削り。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(33.5) 残存高16.8	口縁部・胴上部20%残存。
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴部ナデ。	A＋B＋C＋D粗砂粒	黄褐色	口径19.4 残存高15.1	口縁部40%、胴上部30%残存。No.2
口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。胴部ナデ。底部指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	口径17.0 底径 4.4 胴部最大径23.2 器高24.3	口縁部60%、胴部70%残存。No.16
口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋粗砂粒	赤褐色	口径19.7 残存高15.1	口縁部・胴部上半40%残存。No.2
脚台部内面指ナデ。接合部下面から器肉と同じ胎土の粘土を貼付。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	黄褐色	口径19.4 残存高 7.5	脚台部70%残存。No.12

胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋小礫	赤褐色	口径12.8	完形。No.1
胴部上半ナデ、下半粗い篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋小礫	赤褐色	底径 3.2 胴部最大径10.9 残存高 9.5	胴部・底部100%残存。
杯底部ナデ。ホゾをもつ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径19.3 残存高 6.6	口縁部50%、杯下部100%残存。No.3

胴部やや粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径19.3 底径 7.9 胴部最大径27.4 器高33.4	口縁部・胴部40%、底部100%残存。No.3
胴部上半粗い指ナデか、下半丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色 (橙褐色)	口径17.4 胴部最大径25.7 残存高24.5	口縁部80%、胴部60%残存。No.8
胴部ナデ。部分的に篦ナデか。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	淡褐色	胴部最大径20.9 残存高21.1	口縁部10%、胴部40%残存。
胴上部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径17.2 残存高 6.7	口縁部80%、胴上部20%残存。No.25
胴上部・中央部ナデ、下部指ナデか。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(12.6) 底径 4.1 胴部最大径14.1 器高12.4	口縁部40%、胴部50%、底部100%残存。No.15

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
坩	6	口縁端部近くで僅かに内屈。口径と胴径がほぼ等しい。底部は平底。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ、以下篦削り。底部篦削り。
坩	7	口縁端部近くで僅かに内屈。口径と胴径がほぼ等しい。底部は平底。	口縁部横ナデ。胴部は上端を除き篦削り、上端はナデ。底部篦削り。
坩	8	口縁端部が僅かに外屈。口径と胴径がほぼ等しい。底部は平底。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。底部篦削り。
坩	9	丸底を呈す。	胴部・底部篦削り。胴部上端のみナデ。
鉢	10	口縁部横ナデにより弱い段をもつ。平底を呈す。作りが雑。	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後ナデか。底部ナデ。
小型甕	11	口縁部外反。底部は上げ底。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ、中央部・下部篦削り。底部ナデ。
小型甕	12	口縁部外反。底部は平底であるが作りが雑。	口縁部横ナデ。胴部ハケ目整形の後部分的にナデ。底部篦削り。口縁部・胴部・底部に黒斑。
高杯	13	口縁部二段に外反する。	口縁部横ナデ。杯下部篦削りの後ナデ。柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	14	杯部に弱い段をもつ。柱状部から裾部への移行ゆるやか。	口縁部横ナデ。杯下部・柱状部篦削りの後ナデか。裾部横ナデ。
高杯	15	杯部に段をもつ。柱状部から裾部への移行ゆるやか。	口縁部・杯下部・柱状部摩滅が著しく不明。裾部横ナデ。
高杯	16	口縁部外反する。柱状部はエンタシス状を呈す。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。柱状部篦削りの後ナデ。裾部篦削りの後横ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴部上半ナデ、下半篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径9.6 底径1.7 胴部最大径9.5 器高9.4	口縁部70%、胴部・底部100%残存。No.11
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径9.2 底径2.9 胴部最大径8.9 器高8.6	口縁部100%、胴部70%、底部40%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D細砂粒	橙褐色	口径8.2 底径3.1 胴部最大径8.1 器高8.9	口縁部40%、胴部90%、底部100%残存。No.11
胴部上半指頭による押えの後ナデ、下半篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	胴部最大径7.2 残存高4.7	胴部70%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径14.4 底径6.0 器高8.4	ほぼ完形。No.19
胴部上半ナデ、下半指ナデか。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(12.3) 底径3.4 胴部最大径12.6 器高10.8	口縁部40%、胴部・底部100%残存。No.4
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	褐色（赤褐色）	口径10.0 底径5.5 胴部最大径10.1 器高9.7	口縁部40%、胴部50%、底部100%残存。No.22
杯底部ナデ。柱状部ナデ、上端に絞り目残す。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	口径(21.8) 底径(21.2) 器高15.4	杯部30%、柱状部50%、裾部20%残存。No.17　焼成良好。
杯部器面が剥落して荒れている。柱状部指頭による押え。上端のみナデ。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径18.8 器高17.1	杯部70%、柱状部100%、裾部60%残存。No.4
口縁部不明。杯底部ナデ。柱状部指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径17.8 器高11.2	杯部70%、柱状部100%、裾部60%残存。No.6
口縁部・杯下部器面が剥落して荒れている。柱状部上半ナデ、下半指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	口径(15.8) 底径(12.5) 器高14.8	杯部40%、柱状部100%、裾部20%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	17	裾部ゆるやかに開く。	杯下部篦削り。柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	18	柱状部から裾部へゆるやかに移行して開く。	杯下部篦削り。接合部横方向のナデ。柱状部篦削り。裾部横ナデ。
高杯	19	杯部に明瞭な段をもつ。	口縁部横ナデ。杯下部篦削りの後ナデ。柱状部ナデ
高杯	20		柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	21	柱状部から裾部へ移行する部分に篦削りによる段をもつ。	杯下部篦削り。柱状部篦削りの後ナデ。裾部篦削りの後横ナデ。
高杯	22		杯下部篦削り。柱状部不明。裾部横ナデ。
高杯	23		杯下部篦削り。柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	24	杯部に弱い段をもつ。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部不明。裾部横ナデ。
甕	25	口縁部外反気味に開き、端部に凹面をもつ。最大径を胴部中央より下にもち僅かに下膨れを呈す。	口縁上端横ナデ。頸部は粗いナデ。胴上部・中央部ナデ、下部篦削り。
甕	26	胴部最大径を中央にもつ。平底を呈す。	胴部上半篦削りの後ナデ、下半篦削り。底部篦削り。
甕	27	口縁部外反気味に開き、口縁部上端に横ナデにより段をつける。	口縁部横ナデ。胴上部・中央部ハケ目整形の後ナデ、下部篦削りの後ナデか。
甕	28	平底を呈す。	胴部下半篦削りの後ナデ。底部篦削りの後ナデ。
甕	29	口縁部外反し端部が尖る。	口縁部横ナデ。胴部上半篦削りの後ナデ。
甕	30	口縁部外反する。頸部の屈曲ゆるやか。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削りの後ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
杯底部ナデ。柱状部上半絞りの目を残す。下半篦削り。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	底径12.0 残存高10.5	杯下部・柱状部100%、裾部40%残存。No. 6
杯底部器面が剥落して荒れている。柱状部上半絞り目残す。下半指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	底径14.4 残存高11.5	杯下部・柱状部100%、裾部60%残存。
杯底部ナデ。柱状部上端ナデ、以下は弱い指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径18.5 残存高12.8	杯部80%、柱状部50%残存。No.5、8
柱状部指頭による押えの後ナデ。上端はナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径13.7 残存高10.0	柱状部100%、裾部40%残存。No.20
杯底部ナデ。器面荒れている。柱状部指頭による押えの後、部分的に篦削り。上端のみナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	底径14.0 残存高11.4	杯下部・柱状部100%、裾部50%残存。No.10
杯底部ナデ。柱状部上端ナデ、以下指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	底径(13.3) 残存高11.4	杯下部・柱状部100%、裾部60%残存。No.23
杯底部器面が剥落して荒れている。柱状部上端ナデ、以下指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	残存高12.3	杯下部・柱状部100%、残存。No.2
杯底部ナデ。柱状部上端ナデ、以下は指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径(14.6) 残存高14.5	杯下部・柱状部100%、裾部30%残存。
口縁部横ナデ。胴部ナデ、部分的に粗い篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	黄褐色 (淡褐色)	口径(18.8) 胴部最大径25.0 残存高25.0	口縁部・胴部40%残存。No.9
胴部上半篦ナデか。下半ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	黄褐色 (赤褐色)	底径7.0 胴部最大径23.6 残存高21.5	胴部40%、底部80%残存。
胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	褐色	口径17.8 胴部最大径20.8 残存高20.2	口縁部40%、胴部50%残存。
胴部下半粗いナデ。底部指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	底径7.3 残存高11.3	胴部下半60%、底部100%残存。
胴部上半ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径16.6 残存高11.5	口縁部60%、胴部上半20%残存。No.25
胴部粗いナデ。粘土接合痕残す。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	口径(16.8) 胴部最大径20.4 残存高14.0	口縁部・胴部40%残存。No.11

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
甕	31	口縁部直立気味に外反する。頸部の屈曲ゆるやか。底部は平底を呈す。	口縁部横ナデ。胴部は全体的に丁寧にナデているが、胴下部と底部周辺は箆削りの後ナデ。底部箆削りの後ナデ。
甕	32	口縁部短く外反する。胴部中央に最大径をもち底部にかけて窄まる。	口縁部横ナデ。胴部ナデ、中央部のみ箆削り。底部箆削りの後ナデ。

30号住居跡出土土器（第13図）

高杯	1	口縁部外反気味に開き端部近くで内彎し、端部は僅かに立ち上がる。	口縁部横ナデ。杯下部・柱状部箆削りの後ナデ。柱状部下端・裾部横ナデ。口縁部に黒斑。
坩	2	口縁部外反する。平底を呈す。作りが雑。	口縁部・胴部上端横ナデ。胴部上半ナデ、下半粗い箆削り。底部ナデ。
小型甕	3	口縁部近くで外反気味に開く。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半箆削り。

31号住居跡出土土器（第14図）

壺	1	口縁端部近くで内屈する。胴部最大径をほぼ中央にもつ。上げ底を呈す。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半箆削り。底部ナデ。
小型壺	2	器肉が厚く作りが雑。	口縁部横ナデ。胴部ナデ、中央部のみ箆削りか。
甑	3	胴中央部が僅かに張る。	胴部上半箆削りの後ナデ、下半箆削り。
椀	4	口縁部で外折する。丸底を呈す。	口縁部横ナデ。体部上半ナデ、下半箆削り。
椀	5	口縁部で外折する。丸底を呈す。	口縁部横ナデ。体部ナデ。底部のみ箆削り。
椀	6	口縁部で外折する。丸底を呈す。	口縁部横ナデ。体部ナデ。底部のみ箆削り。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴部上端のみ指ナデを残す。他は粘土接合痕を残すが丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	褐色	口径15.4 底径6.4 胴部最大径18.9 器高18.4	口縁部70%、胴部80%、底部100%残存。No.3、7
胴部ナデ、部分的に篦削り。底部指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径14.0 底径5.2 胴部最大径19.4 器高18.8	口縁部80%、胴部70%、底部100%残存。

杯部は器面が剥落して荒れている。柱状部は下端の指頭による押えを除き指ナデの後絞り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径17.5 底径14.1 器高15.7	杯部・柱状部80%、裾部90%残存。
胴部指ナデ。	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径9.0 底径3.7 胴部最大径7.8 器高8.8	口縁部40%、胴部・底部100%残存。
頸部に部分的にハケ目整形痕を残す。胴部粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径11.2 胴部最大径11.9 残存高7.4	口縁部50%、胴部上半70%残存。

胴部上半ナデ、下半篦ナデ。底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋粗砂粒	茶褐色	口径29.7 底径7.4 胴部最大径23.9 器高25.2	口縁部・胴部50%、底部100%残存。貯蔵穴。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径(13.2) 残存高6.6	口縁部・胴部10%残存。貯蔵穴。
胴上部ナデ、中央部篦削り。孔端部篦削り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	胴部最大径24.2 底径8.5 残存高24.5	胴部60%残存。貯蔵穴。
体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	茶褐色	口径15.2 器高6.2	ほぼ完形。貯蔵穴。
体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径13.4 器高6.0	口縁部・体部60%残存。貯蔵穴。
体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径12.4 器高6.3	ほぼ完形。貯蔵穴。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	7	口縁部内彎気味に開く。杯部の段が小さい。	口縁部横ナデ。杯下部・柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。口縁部・裾部に黒斑。
高杯	8	脚端部反る。	柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	9	脚端部反る。	柱状部ナデ。裾部横ナデ。

41号住居跡出土土器（第15図）

壺	1	肩部なだらか。	篦による幾何学的文様。
小型壺	2	口径と胴部最大径がほぼ等しく、口縁部は内彎気味に開く。平底を呈す。	口縁部指頭による押え。胴部から底部にかけて篦削り、その後底部とその周辺部を残しナデ。
甑	3	複合口縁を呈す。	不明。
高杯	4	柱状部下端に等間隔に3孔有す。	縦位の丁寧な篦磨き。
高杯	5	柱状部から裾部へ移行する部分で僅かに屈曲して広がり脚端部は僅かに反る。	縦位の篦磨き。裾部のみ部分的に篦削り。
高杯	6	杯部に段をもつ。杯部と接合部は太く、柱状部はやや短め。	不明。

44号住居跡出土土器（第17図）

壺	1	頸部で強く屈曲しやや開き気味に立ち上がる。二重口縁を呈すと思われる。	頸部縦位の篦削りの後、部分的にハケ目調整。
壺	2	頸部で強く屈曲し真っ直ぐ立ち上がる。平底を呈す。二重口縁を呈す。	頸部縦位の篦磨き。胴部下半縦位の篦磨き。
壺	3	一旦立ち上がり大きく開く。複合口縁を呈す。	口縁部横ナデ。頸部横位のナデ。
壺	4	直線的に開く。複合口縁を呈す。	口縁部横ナデ。
壺	5	口縁部強く外反する。複合口縁を呈す。	口縁部横ナデ。頸部から口縁部直下まで粗いハケ目整形の後ナデ。
坩	6	ソロバン玉状の胴部をもち、頸部で強く屈曲。上げ底を呈す。	胴部上半ナデ、下半篦削り。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
杯底部ナデ。柱状部ナデ。ホゾをもつ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径17.5 底径13.4 器高12.8	杯部70%、柱状部100%、裾部70%残存。貯蔵穴。
柱状部は上端の篦削りを除いてナデ。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	底径11.7 残存高 7.3	柱状部90%、裾部80%残存。貯蔵穴。
柱状部上端に粘土を充填する。調整はナデ。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	淡褐色	底径11.3 残存高 7.1	柱状部100%、裾部80%残存。貯蔵穴。

丁寧なナデ。	A＋B＋細砂粒	淡褐色		肩部5%残存。
篦削りの後ナデ。	A＋B	褐色（赤褐色）	口径(12.0) 器高 9.0	口縁部・胴部20%残存。
不明。	A＋B＋C＋F	淡褐色	口径(20.0)	口縁部10%残存。
上端に絞り目、下半横位の篦削り。	A＋B＋C	淡褐色	残存高10.3	柱状部100% 残存。
ホゾをもち上半は指ナデであるが上端のみ絞り目残す。下半に粘土接合痕を残す。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	底径13.7 残存高10.0	脚部のみ50%残存。焼成良好。
上半を篦先で削り出し、下半を指ナデ。	A＋B	赤褐色	残存高 9.6	杯底部・柱状部60%残存。

頸部横位のハケ目調整。胴部ナデ。	A＋B＋C＋E	黄褐色	残存高 6.9	頸部60%、肩部30%残存。
ハケ目整形の後横位の篦磨きか。底部ハケ目調整。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	底径(5.0) 残存高(17.8)	頸部・底部20%残存。
頸部篦削りの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	口径(19.2) 残存高 4.5	口縁部・頸部20%残存。
	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	口径(17.2) 残存高 3.0	口縁部10%残存。
口縁部・頸部ハケ目整形の後口縁部横ナデ。頸部ナデ。	A＋小礫	赤褐色	口径15.8 残存高 6.0	口縁部・頸部70%残存。
丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋E	褐色	底径 3.3 残存高 6.6	胴部・底部100%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
杯	7	口縁部短く立ち上がり、内面に弱い稜をもつ。丸底を呈す。	口縁部横ナデ。体部を篦削りした後底部とその周辺部を残し、ナデ。
椀	8	体部からゆるやかに外反し口縁端部が肥厚する。丸底を呈す。	口縁部横ナデ。体部ナデ。底部篦削り。
高杯	9	内彎気味に開く口縁。柱状部をもち裾部は短くゆるやかに開く。	口縁部横ナデ。杯下部・柱状部篦削り。裾部横ナデ。
高杯	10		柱状部不明。
高杯	11	柱状部中央に4孔を有す。	柱状部篦磨き。
台付甕	12	接合部から直線的に開き、脚台部内面に折り返しをもつ。	胴下部篦削り。脚台部ナデ。

47号住居跡出土土器（第19図）

S字甕	1	口縁部の屈曲が弱く、段部は著しく退化しゆるやかに外反する。	口縁部横ナデ。肩部縦位のハケ目調整。
S字甕	2	S字状の口縁を呈すが器肉が著しく厚い。	口縁部横ナデ。肩部縦位のハケ目調整。摩滅著しい。
S字甕	3	段部が著しく退化し、僅かに膨みをもち器肉が厚い。	口縁部横ナデ。肩部に縦位の細かい浅いハケ目調整。
S字甕	4	段部から外に開き、口縁端部内面に段をもつ。	口縁部横ナデ。肩部縦位のハケ目調整。
S字甕	5	直線的に開く大型の脚台部。折り返しをもつ。	粗いハケ目調整。
S字甕	6		浅いハケ目調整。
S字甕	7		ハケ目調整。
S字甕	8	直線的に開き、折り返しを僅かにもつ脚台部。	浅いハケ目調整。
高杯	9	円柱状の柱状部で裾部は強く屈曲。	縦位の篦磨き。裾部横ナデ。
高杯	10	直線的に開く柱状部。	不明。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
底部篦ナデ。	A＋B＋C	赤褐色	口径12.2 器高 5.9	口縁部・胴部70%残存。
底部篦ナデ。	A＋B＋C＋D	褐色	口径13.6 器高 7.7	90%残存。
杯部・裾部とも横ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	淡褐色	口径11.3 器高 8.3	杯部・柱状部100%、裾部50%残存。
柱状部上端に絞り目。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高 5.8	柱状部70%残存。
ホゾを指で潰した後横位の篦削り。	A＋B＋C＋細砂粒	淡褐色	残存高10.8	脚部70%残存。
胴部丁寧な篦ナデ。脚台部弱い指ナデ。接合部両面に粘土を貼付。	A＋B＋C＋F＋粗砂粒	淡褐色	底径 8.8 残存高11.2	胴下部40%、脚台部100%残存。

肩部指ナデ様の押え。赤彩。	A＋B＋C	淡褐色	口径(11.2) 残存高 2.7	口縁部20%残存。
残存肩部指ナデ様の押え。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	口径(15.0) 残存高 3.3	口縁部20%残存。
肩部横方向のナデ、部分的にハケ目整形痕を残す。	A＋B＋C＋F	赤褐色	口径(13.4) 残存高 3.4	口縁部30%残存。
肩部指ナデ様の押え。	A＋B＋C＋F＋細砂粒	灰褐色	口径(15.0) 残存高 3.3	口縁部20%残存。
粗い指ナデ。接合部両面は器肉の胎土と僅かに異なる粘土を貼付する。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	底径(9.8) 残存高 7.1	脚台部60%残存。
粗い指ナデ。接合部両面に器肉と同じ粘土を貼付する。	A＋B＋C＋細砂粒	淡褐色	残存高 3.4	脚台部50%残存。 No.4
粗い指ナデ。接合部両面に粘土を指ナデの後に貼付する。	A＋B＋F＋細砂粒	淡褐色	残存高 4.0	脚台部40%残存。
指ナデ。	A＋B＋C	淡褐色	残存高 3.1	脚部20%残存。
横位の篦削り。ホゾを残す。	A＋B＋C	赤褐色	残存高 8.2	柱状部 100 %残存。
不明。	A＋B＋C	橙褐色	残存高 8.8	No.1

51号住居跡出土土器（第21図）

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
壺	1	口縁部外反し端部で立ち上がる。端面は弱い凹面を呈す。端部の作りが雑。	口縁部横ナデ。
壺	2	口縁部外反し端部は平坦。	口縁部横ナデ。胴部は箆削りであるが上端のみ箆削りの後ナデ。
壺	3	口縁部外反する。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ。
小型壺	4	口縁部内彎気味に開く。胴部中央が強く張りだす。底部は弱い上げ底。	口縁部横ナデ。胴上部・中央部ナデ、下部箆削り。底部箆削り。
小型甕	5	丸底を呈す。	胴部上半ナデ、下半箆削りの後ナデ。底部箆削りの後ナデ。
甕	6	口縁部外反する。	口縁部横ナデ。胴部上端ナデ。
坩	7	口縁部内彎気味に開く。上げ底を呈す。	口縁部横ナデ。胴部上端ナデ。胴部上半箆削りの後ナデ。下半箆削り。底部箆削り。
坩	8	口縁部直線的に開く。平底を呈す。	口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴上部・中央部ハケ目整形の後ナデ、下部粗いナデ。底部ナデ。
坩	9	口縁部直線的に開く。平底を呈す。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半箆削り。底部箆削り。
坩	10	口縁部内彎気味に開く。底部は上げ底。	口縁部箆削りの後横ナデ。胴部上半ナデ、下半箆削り。底部ナデ。
坩	11	平底を呈す。	胴部上半ナデ、中央部箆削りの後ナデ、下半箆削り。底部箆削り。
高杯	12	口縁部内彎気味に開く。杯部に弱い段をもつ。口径のわりに杯部が浅い。作りは丁寧。	口縁部中程まで横ナデ、以下ナデ。杯下部箆削りの後ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	灰褐色	口径17.3 残存高 5.7	口縁部70%残存。焼成不良。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径15.2 残存高12.8	口縁部90%、胴部上半60%残存。No.7 焼成良好。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	褐色	口径13.3 残存高 8.0	口縁部 100 %、胴上部70%残存。No.6
胴上部・中央部ナデ、下部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(10.8) 底径 3.7 胴部最大径15.0 器高13.9	口縁部40%、胴部60%、底部100%残存。No.13
胴部上半ナデ、下半篦削り。底部篦ナデ。	A＋B＋C＋D	赤褐色	残存高 8.0	胴部40%残存。
胴部上端ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	口径16.6 残存高 4.6	口縁部70%残存。
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	口径 8.8 底径 2.0 胴部最大径 8.0 器高 9.2	完形。No.5
口縁部は上端のみ横ナデ、他はナデ。胴部上半ナデ、下半篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(9.2) 底径 3.1 胴部最大径 7.9 器高 9.0	口縁部30%、胴部・底部 100% 残存。No.3
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径 8.2 底径 4.0 胴部最大径 7.8 器高 9.9	口縁部60%、胴部70%、底部100%残存。No.3
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴部ナデ。底部指頭による押え。	A＋B＋C＋＋D細砂粒	黄褐色	口径10.0 底径 3.1 器高 6.2	口縁部70%、胴部・底部 100 %残存。No.12
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	褐色	底径 3.0 胴部最大径 7.9 残存高 5.0	胴部・底部 100 %残存。No.1
杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径20.4 残存高 6.5	杯部90%残存。No.6

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	13		柱状部ナデ、粘土接合痕を残す。裾部横ナデ。
高杯	14	口縁部直線的に開く。杯部に段をもつ。	口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。杯下部篦削りの後ナデ、その後暗文状の篦磨き。
高杯	15	口縁端部で僅かに立ちあがる。杯部に段をもつ。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。
高杯	16	脚端部に弱い段をもつ。	柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	17	脚端部反る。	杯下部篦削り。柱状部篦磨き。裾部篦削り。

57号住居跡出土土器（第23図）

坩	1	ソロバン玉状の胴部をもち、丸底を呈す。	上半ナデ、下半篦削り。
手捏	2	僅かに上げ底を呈し、口縁端部は尖る。	体部上部・中央部ナデ、下部篦削り。
甕	3		口縁部横ナデ。
高杯	4		縦方向の篦削り。
椀	5	短く立ち上がり端部の尖る口縁部をもつ。	口縁部から体部上端横ナデ。
椀	6	口縁部僅かに開き、底部は上げ底気味。	口縁部と胴上部横ナデ。以下は篦削り。
甕	7	胴下部から弧をえがいて窄まり突出した平底を呈す。	縦位の篦削り、部分的に横位の篦削り。底部周辺を篦削りの後ナデ。
甕	8	突出した底部。上げ底を呈す。	縦位の篦削り。底部周辺ナデ。
甕	9	最大径を胴中央部にもち頸部でく字状に屈曲する口縁部をもつ。上げ底を呈す。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ、中央部から下部にかけて篦削り。底部周辺はナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
柱状部指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	残存高 7.4	柱状部70%残存。No.9
杯部暗文状の篦磨き。ホゾをもつ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	黄褐色	口径19.2 残存高 7.2	杯部80%残存。
杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(17.0) 残存高 5.2	杯部30%残存。
柱状部指ナデの後絞り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	底径11.6 残存高 9.1	柱状部100%、裾部80%残存。No.11
柱状部篦削り。裾部ナデ。ホゾをもつ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径(11.8) 残存高 8.2	柱状部100%、裾部10%残存。No.14

上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C	橙褐色	胴部最大径 8.2 残存高 6.1	胴部50%残存。
指ナデ。	A＋B＋C	黄褐色	口径 6.4 底径 4.4 器高 4.1	80%残存。No.1
	A＋B＋C	橙褐色	口径(14.2) 残存高 4.8	口縁部50%残存。
絞りの後下半をナデ。その後先の丸い棒状工具によるナデ。	A＋B＋C	橙褐色	残存高 8.1	柱状部60%残存。
体部篦ナデ。底部指ナデ。	A＋B＋C＋F＋細砂粒	橙褐色	口径(11.9)	口縁部・体部30%残存。
口縁部と胴上部横ナデ。底部ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	橙褐色	口径(14.2) 底径(4.8) 器高 6.7	口縁部・胴部50%残存。
ナデ。	A＋B＋C	褐色 (赤褐色)	底径 6.6 残存高 6.0	胴下部40%残存。
ナデ。	A＋B＋C	褐色 (赤褐色)	底径 6.8 残存高 3.5	底部50%残存。
胴上部・中央部は篦ナデ、下部は篦削り。底部はナデ。	A＋B＋C＋粗砂粒	褐色	口径24.3 底径 7.2 胴部最大径25.4 器高30.1	口縁部・胴部70%残存。

60号住居跡出土土器（第25～27図）

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
壺	1	最大径を胴部下半にもつ。下膨れの胴部をもち、肩部は張らず、頸部からゆるやかに外反する。	口縁部横ナデ。胴中央部から口縁部にかけて箆削り後ナデ。頸部に僅かに箆削り痕残す。底部とその周辺部は箆削り。
壺	2	最大径を胴中央部より僅かに下にもち、肩部なだらか。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。胴部は箆削りの後ナデ。頸部箆跡残す。
壺	3	丸い肩部をもち、頸部で強く屈曲し開く。	不明。
甕	4	最大径を胴部下半にもち、肩部が張らず、頸部で「く」字状に屈曲。口縁部は僅かに外反。	口縁部横ナデ。胴中央部から上部にかけて、ハケ目整形の後ナデ。胴部下半部分的に箆削りを行なうが大部分ナデ。
甕	5	最大径を胴部中央より僅かに下にもち、肩部が張らず、外反する口縁部をもつ。	口縁部横ナデ。胴部下半箆削りの後ナデ他の部分はナデ。
壺	6		箆削り。
壺	7	最大径を胴部下半にもち、下膨れを呈す。	底部とその周辺部を部分的に箆削りするが他はハケ目整形の後ナデ。
壺	8	肩部が張らず、頸部で屈曲し外反気味に開く。	口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴部上半ハケ目整形。
坩	9	丸底を呈す。	胴部箆削り。
椀	10	上げ底を呈し、口縁部は強く屈曲して直線的に開く。	口縁部横ナデ。体部箆削り。
鉢	11	口縁部外反し頸部で括れ、胴上部で僅かに張り底部にむかって窄む。上げ底を呈す。	口縁部横ナデ。胴部上半ハケ目整形の後ナデか。胴中央部箆削り。胴部下半ナデ。
甕	12	頸部から屈曲して直線的に開く。器肉厚い。	口縁部横ナデ。
甕	13	ゆるやかに外反し、口縁端部僅かに立ち上がる。	口縁部横ナデ。
甑	14	最大径を胴下部にもち、肩部が張らず、頸部で屈曲して開く。	口縁部から肩部にかけて横ナデ。胴部の大半をハケ目整形した後ナデ。底部周辺を箆削り。
高杯	15	杯部に段をもち、直線的に開き、口縁端部近くで内屈する。柱状部は中央部にやや膨らみをもち広がり、裾部で屈曲して開く。	口縁部横ナデ。杯下部ハケ目整形の後箆削りその後ナデ。柱状部ハケ目整形の後ナデ裾部横ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色		口縁部60%、胴部80%、底部100%残存。No.3－1
胴部粗いナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	口径16.9 胴部最大径26.2	口縁部80%、胴部60%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	残存高11.0	口縁部・胴部30%残存。
胴部上半丁寧なナデ、下半ハケ目調整。底部指頭による押え目立つ	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	褐色		口縁部・胴部90%、底部100%残存。
胴部粗い篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	褐色 （赤褐色）		口縁部30%、胴部40%残存。
篦ナデ。	A＋B＋C	淡褐色	底径5.6 残存高 7.5	胴部下半70%、底部100%残存。
指ナデ。	A＋B＋C	赤褐色	底径 6.2 残存高11.6	胴部下半70%、底部100%残存。No.11
口縁部ハケ目整形の後ナデ。胴部上半ナデ。	A＋B＋C＋F	橙褐色	残存高 6.5	肩部20%残存。
底部ナデ。体部指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	残存高 5.3	胴部70%残存。
体部篦ナデ。	A＋B＋C＋粗砂粒	褐色	口径13.2 底径 4.1 器高 7.9	口縁部40%、体部100%残存。
胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	褐色		口縁部50%、胴部70%、底部100%残存。
	A＋B＋C	褐色	口径(14.2)	口縁部60%残存。
	A＋B＋C	橙褐色	口径(18.0) 残存高 4.4	口縁部50%残存。
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴部ハケ目調整。孔端部篦削り。	A＋B＋C	赤褐色	口径18.9 底径 8.4 器高25.0	口縁部50%、胴部90%残存。
杯底部ナデ。柱状部上半指ナデの後絞り、下半指頭による押え。ホゾをもつ。	A＋B＋C	赤褐色	口径19.1 底径15.2 器高19.8	完形。No.8

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	16	杯部に弱い段をもち、直線的に開く口縁部をもつ。柱状部は裾部に近づくにつれ広がり、裾部に到り屈曲して開く。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	17	杯部に段をもち、直線的に開く口縁部。柱状部は中央部で膨んで広がり、裾部で屈曲して開く。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	18	杯部に段をもち、内彎気味に開く口縁部をもつ。脚部は柱状部中央で僅かに膨んで広がり、裾部で強く屈曲して開く。	口縁部横ナデ。杯下部ハケ目整形の後ナデ。柱状部ハケ目整形の後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	19	杯部に段をもたず、篦削りによって稜を作り出す。口縁部は外反する。柱状部は円柱状を呈しゆるやかに裾部に移行して開く。	口縁部はハケ目整形の後上端を横ナデする。杯下部は篦削り。柱状部は上半を縦方向の篦削り、下半をハケ目整形の後ナデ。裾部は横ナデ。
高杯	20	杯部の段が突出して鍔状を呈す。口縁部は強く外反し水平に開く。裾部は二段に外反する。	口縁部横ナデ。杯下部篦削りの後ナデ。柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。その後暗文状の篦磨き。赤彩。
高杯	21	口縁部外反気味に開き、端部で僅かに立ち上がる。柱状部から裾部へはゆるやかに移行して反る。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。接合部横位のナデ。柱状部篦削りの後ナデて暗文状の篦磨き。裾部篦削りの後横ナデて暗文状の篦磨き。
高杯	22	杯部に段をもち直線的に開くが、口縁端部近くで内彎する。	口縁部横ナデ。杯下部ハケ目整形の後ナデ。
高杯	23	杯部に段をもち、口縁部外面に横ナデによる弱い段をもつ。口縁部内彎気味に開く。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。
高杯	24	柱状部太く、裾部に近づくにつれて開く。	接合部ナデ。柱状部ハケ目整形の後ナデ。
高杯	25	杯部に段をもつ。柱状部から裾部への移行部に小さい段をもつ。脚端部は僅かに反る。	杯下部不明。柱状部ハケ目整形の後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	26	柱状部が太く開いている。	ハケ目整形の後ナデ。
高杯	27	円柱状の柱状部からゆるやかに裾部に移行して開く。	柱状部ナデ。裾部横ナデ。

64号住居跡出土土器（第29図）

甕	1	口縁部外反気味に開く。	口縁部横ナデ。胴上部篦削り。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
杯底部ナデ。柱状部ナデの後篦削り。裾部に篦跡残す。ホゾをもつ。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	口径17.9 底径15.2 器高16.6	完形。
杯底部ナデ。柱状部上半を篦削り、下半は指頭による押えを残す。裾部はハケ目整形の後横ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	淡褐色	口径13.7 底径15.2 器高15.9	杯部・脚部90%残存。No.1
杯底部ナデ。柱状部上半指ナデの後絞り、下半指頭による押え。	A＋B＋C	赤褐色	口径17.4 底径14.4 器高17.1	杯部40%、脚部95%残存。No.5
杯底部ナデ。柱状部横位の篦削り。裾部は上半を篦削りし、以下をハケ目整形の後横ナデ。	A＋B＋C＋F	赤褐色	口径18.4 底径14.5 器高16.3	杯部30%、脚部60%残存。No.1
杯底部ナデ。杯底部と口縁部の境目を篦削りの後ナデ。口縁部横ナデの後暗文状の磨き。杯部赤彩。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	口径20.6 底径19.0 器高16.5	口縁部70%、柱状部100%、裾部90%残存。No.4
口縁部幅の太い暗文状の篦磨き。柱状部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径21.8 底径14.1 器高16.7	杯部80%、柱状部100%、裾部50%残存。No.5
杯底部粗いハケ目整形の後ナデ。	A＋B＋C	淡褐色	口径19.6 残存高 8.3	杯部70%残存。貯蔵穴。
ナデ。ホゾを上から充塡したもの。	A＋B＋C	赤褐色	口径19.6 残存高 6.1	杯部95%残存。貯蔵穴。No.5
柱状部上半指ナデの後絞り、下半は指頭による押え。ホゾをもつ。	A＋B＋C＋F	赤褐色	残存高11.2	柱状部100%残存。No.1
柱状部上半は指ナデの後絞り、下半は指頭による押え。	A＋B＋C＋F	淡褐色	底径14.7 残存高12.1	脚部80%残存。
指頭による押え。柱状部上端は下から粘土充塡その上を指ナデ。	A＋B＋C＋F	赤褐色	残存高10.7	柱状部90%残存。
柱状部指ナデの後絞り。	A＋B＋C＋F	淡褐色	底径 9.7 残存高 7.3	脚部80%残存。No.9

胴上部粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋E	褐色（赤褐色）	口径19.2 残存高 5.9	口縁部・胴上部20%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
坩	2	ソロバン玉状の胴部をもち、底部は上げ底。口縁部は直線的に開く。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。
坩	3	胴部最大径を中央部よりやや上にもち、底部は上げ底。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。
高杯	4	口縁部二段に外反する。	口縁部横ナデ。
高杯	5	杯部の稜は篦削りによって作り出す。口縁部は外反し端部近くで内屈する。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。
高杯	6	柱状部から裾部の屈曲は強くない。裾部は膨みをもち大きく開く。	柱状部篦削り。裾部篦削りの後横ナデ。
手捏	7	口縁部が直立し胴中央部が張る。	平底を呈す。指頭による押え。
手捏	8	口縁端部は尖る。脚端部に折り返しをもつ。	指ナデ。

65号住居跡出土土器（第30図）

坩	1	球形の胴部をもち口縁は外反する。	胴部篦削りの後上部ナデ。口縁部横ナデの後粗い篦磨き。
高杯	2		接合部ナデ。柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。

71号住居跡出土土器（第32～42図）

壺	1	二重口縁を呈す。	口縁部横ナデ。頸部篦削りの後ナデ、その後暗文状の篦磨き。
壺	2	二重口縁を呈す。口縁端部が弱い凹面を呈す。	口縁部横ナデ。
壺	3	二重口縁を呈す。	不明。
壺	4	複合口縁を呈す。	口縁部横ナデ。頸部暗文状の篦磨き。
壺	5	口縁部外反する端部が下方向へ僅かに肥厚。	口縁部横ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
底部指ナデ。胴部指頭による押え。	A＋B＋C	赤褐色	口径 9.5 底径 3.0 器高 9.2	口縁部20%、胴部・底部100%残存。No.2
底部指ナデ。胴部ナデ	A＋B＋C	褐色	口径 9.8 底径 3.6 器高10.0	口縁部70%、胴部60%、底部100%残存。No.3
	A＋B＋C	赤褐色	口径24.2 残存高 6.0	杯部40%残存。
口縁部篦削りの後横ナデか。杯底部ナデ。	A＋B＋C	黄褐色	口径20.6 残存高 6.2	杯部95%残存。
接合部分に指による押えを残し柱状部の大半を篦削りする。	A＋B＋C	橙褐色	底径14.4 残存高 9.8	脚部100%残存。No.14
指ナデ。	A＋B＋C＋F	橙褐色	口径 4.8 底径 4.2 器高 5.5	完形。
指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋F	黄褐色	口径 4.6 底径 3.7 器高 5.0	完形。
胴上部指頭による押え、以下を粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色（黒色）	口径 9.6 器高10.4	完形。胴部に黒斑。No.3
絞りの後ナデ。	A＋B＋C＋粗砂粒	橙褐色	残存高 9.0	柱状部50%残存。
口縁部・頸部暗文状の篦磨き。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径(19.5) 残存高 6.5	口縁部20%残存。
頸部篦削りの後ナデ。	A＋B＋C＋E＋F＋細砂粒	橙褐色	口径(17.8) 残存高 3.4	口縁部10%残存。No.22
口縁部篦削りの後横ナデか。頸部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	残存高 5.1	口縁部20%残存。
口縁部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	口径(17.5) 残存高 5.1	口縁部10%残存。
	A＋B＋C＋D＋細砂粒	淡褐色	口径(17.2) 残存高 4.4	口縁部30%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
壺	6	口縁部直線的に開く。端部は凹面を呈す。	口縁部横ナデ。
甕	7	口縁部強く外方向へ屈曲。	口縁部横ナデ。胴部上端箆削りの後ナデ。
甕	8	口縁部強く外反する。胴部中央に最大径をもち強く張りだす。平底を呈す。	口縁部・胴部上端粗いハケ目整形の後ナデ。胴部粗いハケ目整形の後箆削り。底部周辺のみ粗いハケ目整形痕をそのまま残す。
壺	9	口縁部外反する。作りが雑。	口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。胴部上端粗いハケ目整形の後ナデ。口縁部・胴部上端に黒斑。
甕	10	胴部最大径を中央にもつが肩部が張らず下膨れの感を呈す。平底を呈す。	胴上部・中央部ハケ目整形の後ナデ。下部箆削りの後ナデ。底部箆削り。
壺	11	口縁部外反する。最大径を胴中央部より僅かに下にもつ。底部は平底。	口縁部箆削りの後横ナデ。胴下部に部分的に箆削り跡を残すが他は丁寧なナデ。胴中央部に黒斑。
壺	12		胴上部丁寧なナデ、中央部箆削りの後ナデ。
小型甕	13	口縁部外反気味に開く。	口縁部横ナデ。胴部上半箆削りの後ナデ。
壺	14	口縁部直立気味に外反する。作りが非常に粗く、歪んでいる。底部中央が窪む。	口縁部横ナデ。胴部粗い箆削りの後ナデ底部箆削り。胴部下半に黒斑。
甕	15	口縁部外反気味に開く。	口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。胴部粗いハケ目整形。
壺	16	丸球の胴部をもつ。上げ底を呈す。	胴部箆削りの後丁寧なナデ。底部箆削りの後ナデ。
甕	17	口縁部が長く、外反する。底部の作り雑。	口縁部横ナデ。胴部箆削りの後上端と下端のみをナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
口縁部篦ナデの後横ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(15.2) 残存高 5.4	口縁部100%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋粗砂粒	黄褐色	口径(17.5) 残存高 6.3	口縁部20%残存。No.1
口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。胴部上半粗い条線を残すナデ、下半粗いハケ目整形。	A＋B＋C＋D＋F＋粗砂粒	灰褐色	口径18.0 底径 8.4 胴部最大径27.0 器高27.3	口縁部90%、胴部70%、底部100%残存。
口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。胴部上端粗いハケ目整形の後ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	黒褐色	口径(20.3) 残存高 8.1	口縁部30%、胴上部20%残存。No.2
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	淡褐色	底径 7.0 胴部最大径24.2 残存高22.3	胴部50%、底部80%残存。No.21
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	口径19.7 底径 8.4 胴部最大径30.2 器高35.6	口縁部90%、胴部70%、底部100%残存。焼成良好。
胴上部ナデ。粘土接合痕を残す。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高 9.2	胴上部40%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色（淡黒色）	口径(12.4) 胴部最大径15.1 残存高11.1	口縁部90%、胴部上半40%残存。 No.14、30
胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋小礫	赤褐色	底径 6.8 胴部最大径22.2 残存高25.0	口縁部10%、胴部・底部100%残存。
口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(23.2) 残存高15.8	口縁部10%、胴部上半40%残存。 No.19、34
胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径 7.2 胴部最大径23.6 残存高22.3	胴部70%、底部100%残存。焼成良好。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒。	淡赤褐色	口径18.0 底径 6.1 胴部最大径22.8 器高25.3	口縁部70%、胴部80%、底部90%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
甕	18	口縁部の開きが弱い。最大径を胴部中央にもつが張りが弱く扁球形を呈す。	口縁部・胴部上端横ナデ。胴部篦削りの後上部と下部のみをナデ。底部篦削り。
甕	19	口縁部強く屈曲して外反する。	口縁部横ナデ。胴部上端ナデ。
甕	20	口縁部中程で外方向へ屈曲。	口縁部横ナデ。胴上部篦削りの後ナデ。
甕	21	口縁部外反する。	口縁部・胴部上端横ナデ。胴上部篦削りの後ナデ。
甕	22		口縁部横ナデ。胴上部ナデ。
甕	23		口縁部横ナデ。胴上部ナデ。
甕	24		口縁部横ナデ。胴上部ナデ。
甕	25	口縁部中程で外方向へ屈曲。	口縁部横ナデ。胴上部篦削りの後ナデ。
壺	26	口縁部直立気味に開くが、端部近くで外方向へ僅かに屈曲。	口縁部横ナデ。胴部上端篦削りの後ナデ。
甕	27	口縁部外反する。	口縁部・胴部上端横ナデ。胴上部粗く浅いハケ目調整。
甕	28	口縁部外反する。頸部に横ナデによると思われる弱い稜をもつ。	口縁部横ナデ。胴上部ハケ目整形の後部分的にナデか。
甕	29	頸部に横ナデによると思われる弱い稜をもつ。	口縁部横ナデ。胴部粗いハケ目調整。
壺	30	口縁部直立気味に開く。	口縁部横ナデ。胴部上部ナデ。
甕	31		口縁部横ナデ。胴上部ハケ目整形の後ナデ。
壺	32	口縁部直線的に開く。	口縁部横ナデ。胴上部粗いナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
口縁部篦ナデの後横ナデ。胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋粗砂粒	赤褐色	口径15.2 底径 5.8 胴部最大径20.7 器高24.2	口縁部80%、胴部50%、底部20%残存。
胴部上端ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒。	赤褐色	口径(15.7) 残存高 4.1	口縁部10%残存。 №21
胴上部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	口径(14.2)	口縁部40%、胴上部20%残存。
胴上部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	黒褐色	口径16.2 残存高 8.9	口縁部80%、胴上部50%残存。
胴上部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(16.5) 残存高5.4	口縁部20%残存。
胴上部丁寧な篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径(18.4) 残存高 8.6	口縁部30%、胴上部20%残存。№29
胴上部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径19.0 残存高 9.2	口縁部30%、胴上部10%残存。
胴上部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	茶褐色	口径(13.6) 残存高 4.9	口縁部20%残存。
胴部上端ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(14.2) 残存高 4.9	口縁部10%残存。
胴部粗いナデ、上端のみ指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径(20.0) 残存高11.4	口縁部・胴上部20%残存。
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴上部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(17.7) 残存高 8.8	口縁部30%、胴上部20%残存。
口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(21.0) 残存高 7.3	口縁部20%残存。
胴部上端指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径(24.0) 残存高 5.0	口縁部10%残存。
胴上部粗い縦方向の篦削り。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	橙褐色	口径(13.5) 残存高 8.2	口縁部・胴上部10%残存。
口縁部篦ナデの後横ナデ。胴上部粗い篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	褐色	口径(15.8) 残存高 9.6	口縁部・胴上部40%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
壺	33	口縁部直立気味に開く。	口縁部横ナデ。胴部上半篦削りの後ナデ。
甕	34		口縁部横ナデ。胴部上半篦削りの後ナデ。
甕	35		口縁部横ナデ。胴上部篦削りの後ナデ。
甕	36	口縁部短く開く。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ。
甕	37		口縁部横ナデ。胴上部篦削りの後ナデ。
甕	38	口径に最大径をもち、胴上部の胴部最大径の部分から強く窄む。	口縁部横ナデ。胴部粗いハケ目調整。
S字甕	39	口縁部しっかりした段をもち立ち上がり気味に開く。	口縁部横ナデ。頸部篦削り。胴部上端篦削りの後粗いハケ目調整。
台付甕	40	脚端部内面に折り返しをもつが弱い。	脚台部ナデ。
S字甕	41	脚端部内面に折り返しをもつ。	鋸歯文状のハケ目を残すがやや乱れていると思われる。
台付甕	42		ハケ目整形の後ナデ。
台付甕	43	脚端部内面に折り返しをもつ。	脚台部ナデ。
台付甕	44	脚端部内面に弱い折り返しをもつ。	脚台部ナデ。
小型壺	45	口縁部外反気味に開く。最大径を胴部中央より僅かに下にもつ。底部の作りが雑。	口縁部横ナデ。胴部ナデ。底部粗い篦削り。
小型壺	46	口縁部外反気味に開く。最大径を胴部中央にもつ。上げ底を呈す。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。底部篦削り。胴中央部に黒斑。
坩	47	口縁部直線的に開く。最大径を胴部中央にもつ。丸底を呈す。	口縁部横ナデ。胴上部・中央部ナデ、下部篦削り。胴部に黒斑。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴部粗い篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	褐色（赤褐色）	口径(15.5) 残存高13.2	口縁部20%、胴部上半30%残存。
胴部上半ナデ。粘土接合痕を残す。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	茶褐色	口径(20.8) 残存高 9.0	口縁部40%残存。
胴上部粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	口径(15.4) 残存高 6.4	口縁部20%残存。
胴上部粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	口径17.0 残存高 7.4	口縁部10%、胴上部20%残存。№3
胴上部粗いナデの後部分的に篦削り。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	口径(14.0) 残存高10.4	口縁部40%、胴上部30%残存。
胴上部篦削りの後ナデ、中央部から下部にかけてハケ目整形の後、部分的にナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径(32.2) 胴部最大径31.0 残存高22.4	口縁部・胴部40%残存。№1、3、5
胴部上端ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋粗砂粒	黄褐色	口径(13.8) 残存高 3.1	口縁部20%残存。№21
脚台部上半を指ナデしてその後ナデ。接合部は砂粒を多く含む粘土を少量両面に貼付。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	赤褐色	底径10.4 残存高 6.4	脚台部80%残存。
脚台部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	黄褐色	底径10.4 残存高 4.5	脚台部20%残存。
ナデ。折り返しの上も強くナデる。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	黄褐色	底径10.1 残存高 5.3	脚台部30%残存。
脚台部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	底径（8.2） 残存高 5.0	脚台部40%残存。
脚台部指ナデの後ナデか。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	底径(16.0) 残存高 4.9	脚台部70%残存。
胴部ナデ。底部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	口径13.7 胴部最大径14.2 器高15.4	口縁部60%、胴部80%、底部100%残存。№6
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D	橙褐色	口径11.4 底径 4.0 胴部最大径13.7 器高14.4	口縁部80%、胴部・底部100%残存。
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径 8.3 胴部最大径 9.6 器高 8.7	完形。№1

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
坩	48	胴部最大径を中央にもつ。	胴上部・中央部ナデ、下部篦削り。底部ナデ。胴部中央に黒斑。
坩	49	胴部最大径を中央より上にもつ。平底を呈す。	胴上部ナデ、以下篦削り。底部篦削り。胴上部から底部に黒斑。
坩	50	口縁部内彎気味に開く。	口縁部横ナデ。胴上部・中央部ナデ、下部篦削り。
坩	51	上げ底を呈す。	胴上部・中央部ナデ、下部篦削り。底部ナデ。
坩	52	口縁部直線的に開く。器高のわりに底径が大きく、中央が窪んで上げ底を呈す。	口縁部横ナデ。胴下部篦削りの後ナデ。上部・中央部はナデ。
坩	53	胴部中央が強く張り出す。上げ底を呈す。	胴部上半ナデ、下半篦削りの後ナデ。底部ナデ。胴部下半に黒斑。
小型壺	54	胴部最大径を中央より下にもち丸底を呈す。	胴部上半篦削りの後丁寧なナデ、下半篦削り。
小型壺	55		胴中央部ナデ、下部篦削りの後ナデ。
甕	56	複合口縁を呈す。	口縁部下半に指頭による押えの後口縁部全体をナデる。胴部ナデ。
甕	57		胴部ナデ、底部周辺のみ篦削り。
甕	58	胴部が僅かに膨む。	口縁部横ナデ。胴部粗い篦削りの後ナデ。
高杯	59	口縁部強く屈曲して開く。脚部は「ハ」字状に開く。	口縁部横ナデ。胴部ハケ目整形の後ナデ。杯下部・柱状部粗いハケ目整形の後ナデ。
小型甕	60	口縁部強く外方向へ屈曲。底部の作りが雑。	口縁部横ナデ。胴部粗いハケ目整形の後ナデて部分的に再びハケ目調整。底部ハケ目調整。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径 3.9 胴部最大径10.2 残存高 7.5	胴部70%、底部100%残存。No.4
胴部ナデ。底部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	黄褐色（黒色）	底径 2.6 胴部最大径 9.6 残存高 7.4	胴部・底部100%残存。
口縁部暗文状の篦磨き。胴部ナデ。底部指頭による押え。中央が窪む。	A＋B＋C＋D＋F細砂粒	赤褐色	口径 8.2 胴部最大径 8.9 器高 9.0	完形。No.4
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	底径 2.2 胴部最大径 7.8 残存高 5.2	胴部・底部100%残存。
胴部ナデ。底部は部分的に指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	褐色	口径 9.0 底径 6.0 胴部最大径 8.5 器高 8.2	口縁部50%、胴部・底部100%残存。No.6
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	底径 2.2 胴部最大径 8.9 残存高 4.7	胴部・底部100%残存。
胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	胴部最大径13.0 残存高 9.0	胴部50%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	残存高 4.1	胴部20%残存。
口縁部・胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	橙褐色	口径(19.8) 残存高 5.7	口縁部・胴部20%残存。
胴部篦ナデ。孔端部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径 7.0 残存高19.3	胴部30%残存。
胴部上半篦削りの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	褐色	口径18.5 底径 6.4 器高19.7	口縁部70%、胴部80%残存。No.22
胴部上半ナデ、下半粗い条痕を残すナデ。底部ナデ。柱状部指ナデ、部分的に篦ナデ。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(17.8) 残存高16.1	口縁部40%、胴部60%、柱状部100%残存。No.23
口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	口径11.8 底径 4.8 器高 9.9	口縁部80%、胴部・底部100%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
椀	61	口縁部で屈曲して短く直線的に開く。	口縁部・胴部上端横ナデ。底部周辺のみ篦削りか。体部から底部にかけて器面が剥落して不明。底部の窪みはナデ。
椀	62	口縁部で短く外折。底部は平底。	口縁部・体部上部横ナデ。体部中央部ナデ、下部篦削り。底部ナデ。
椀	63	口縁部で短く外反気味に開く。平底を呈す。	口縁部・体部上端横ナデ。体部上部・中央部ナデ。下部篦削り。底部篦削り。
椀	64	口縁部で強く屈曲して外反気味に開く。平底を呈す。	口縁部・体部上端横ナデ。体部・底部ナデ。
椀	65	口縁部で屈曲する。平底を呈す。	口縁部・体部上端横ナデ。体部・底部ナデ。
椀	66	横ナデによって口縁部を作り出す。上げ底を呈す。薄いドーナツ状の粘土を貼付か。	口縁部・体部上端横ナデ。体部・底部ナデ。口縁部から底部にかけて黒斑。
椀	67	口縁部の器肉厚い。	口縁部指ナデ。体部ナデ。
椀	68	口縁部でゆるやかに屈曲して開く。上げ底を呈す。	口縁部・体部上端横ナデ。体部は篦剝りの後中央部のみナデ。底部篦削り。
椀	69	平底を呈すが、篦削りによる粗い作り。全体的に器肉が厚く、作りが雑。	口縁部横ナデ。体部中央篦削りの後ナデ、下部篦削り。底部篦削り。
椀	70	口縁部短く外反気味に立ち上がる。底部の作り雑であるが全体的には作りが丁寧。	口縁部・体部上端横ナデ。体部丁寧なナデ。底部粗い篦削り。
杯	71	平底を呈す。口縁部は内傾気味に立ち上がり、端部は丸くおさめる。	口縁部横ナデ。体部篦削りの後ナデ。底部篦削りの後ナデ。
手捏	72	口縁部を横ナデによって作り出す。平底を呈す。	口縁部横ナデ。胴部・底部ナデ。
高杯	73	口縁部外反気味に開き、端部で立ち上がる。杯部に段をもつ。	口縁部横ナデ。杯下部目の細かいハケ目整形の後ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
体部ナデ。底部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径12.3 底径 2.4 器高 7.1	ほぼ完形。
体部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(11.8) 底径 3.8 器高 5.9	口縁部・体部20%、底部100%残存。
体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径12.8 底径 4.0 器高 7.5	口縁部20%、体部30%、底部80%残存。
体部丁寧な指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径12.9 底径 5.0 器高 6.9	口縁部80%、体部90%、底部100%残存。No.17
体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(10.3) 底径 5.4 器高 5.9	口縁部40%、体部70%、底部100%残存。No.11
体部ナデ。底部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色 (赤褐色)	口径10.2 底径 4.4 器高 5.8	ほぼ完形。No.2
口縁部・体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径11.4 残存高 5.6	口縁部30%、体部20%残存。
体部ナデ。器面が剥落して荒れている。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径10.7 底径 3.6 胴部最大径11.3	口縁部80%、体部・底部100%残存。No.5
体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径11.8 底径 3.1 器高 9.0	口縁部10%、体部30%、底部100%残存。
体部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	茶褐色	口径10.8 体部最大径11.7 器高 6.3	完形。No.5
体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	口径13.2 底径 3.6 器高 4.2	口縁部30%、体部50%、底部100%残存。
胴部粗いナデ。粘土接合痕を残す。	A＋B＋C＋D＋F	茶褐色	口径 6.2 底径 3.8 器高 5.2	口縁部・体部・底部90%残存。No.35
杯底部ナデ。黒斑あり。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径19.0 残存高 5.9	口縁部・杯下部40%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	74	口縁部外反気味に開き端部近くで僅かに内屈。杯部に段をもつ。作りが雑。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。
高杯	75	口縁部内彎気味に開く。	口縁部横ナデ。杯下部ハケ目整形の後ナデか。
高杯	76	口縁部内彎気味に開く。	口縁部ハケ目整形の後横ナデ。杯下部ハケ目整形の後ナデ。
高杯	77	口縁部内彎気味に開き、内面に横ナデによる段をなす。杯部の段が乱れる。作り雑。	口縁部横ナデ。杯下部篦削りの後ナデ。
高杯	78	口縁部直線的に開く。杯部に段をもつがやや乱れている。作り雑。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。
高杯	79	口縁部外反気味に開く。杯部に稜をもつ。	口縁部ハケ目整形の後横ナデ。杯下部篦削りの後ナデ。
高杯	80	杯部に弱い段をもつ。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。
高杯	81	杯部に明瞭な段をもつ。丁寧な作り。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。
高杯	82	口縁部内彎気味に開き端部が立ち上がる。	口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。杯下部暗文状の篦磨き。
高杯	83	裾部二段に開き端部が上下に肥厚。	上段横位のナデの後暗文状の篦磨き。下段横ナデの後暗文状の篦磨き。
高杯	84	口縁部直線的に開く。杯部の段は弱く不明瞭。	口縁部横ナデ。杯下部・柱状部篦削りの後ナデ。
高杯	85	口縁部直線的に開き、端部は凹面を呈す。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。柱状部ナデ。口縁部に黒斑。
高杯	86	口縁部内彎気味に開き端部内面に段をもつ。杯部の段不明瞭。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。
高杯	87	口縁部外反する。杯部の段が小さい。	口縁部篦磨き。杯下部ナデ。
高杯	88	口縁部内彎する。作りが雑。	口縁部上端のみ横ナデ。杯下部ナデ。
高杯	89		柱状部ナデ。裾部横ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
杯底部ナデ。ホゾをもつ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径18.8 残存高 6.2	杯部90%残存。
口縁部粗い条線のつくナデの後上半を横ナデ。杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(19.0) 残存高 4.8	口縁部10%、杯下部40%残存。№2
口縁部粗い条線のつくナデの後上半を横デナ。杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(18.2) 残存高 4.9	口縁部10%、杯下部40%残存。
杯底部ハケ目整形の後部分的にナデ。ホゾをもつ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径16.8 残存高 7.5	口縁部50%、杯下部90%残存。
杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黒色（褐色）	口径(17.8) 残存高 6.4	口縁部40%、杯下部80%残存。
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。杯底部ハケ目整形の後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径(19.0) 残存高 5.3	口縁部30%、杯下部40%残存。
杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径（8.6） 残存高 4.2	口縁部・杯下部10%残存。№28
杯底部ナデ。柱状部指ナデの後絞り。	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径15.6 残存高 7.4	口縁部90%、杯下部50%残存。№10、26
口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	口径20.3 残存高 5.2	口縁部70%、杯下部60%残存。赤彩か。
横ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	底径18.2 残存高 2.6	裾部80%残存。赤彩か。
口縁部横ナデの後粗い暗文状の篦磨き。杯底部ナデ。柱状部指ナデの後絞り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径18.0 残存高11.1	口縁部40%、杯下部70%、柱状部100%残存。
杯底部ナデ。柱状部篦削りの後上端を指ナデしてホゾの頭を潰す。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径18.4 残存高11.5	杯部80%、柱状部100%残存。
杯底部ナデ。	A＋B＋C＋粗砂粒	黄褐色	口径21.4 残存高 5.2	口縁部30%残存。
器面が剥落して荒れている。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径20.0 残存高 6.3	口縁部100%、杯下部80%残存。№4
口縁部上端のみ横ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色（赤褐色）	口径14.6 残存高 6.3	杯部90%残存。№14
柱状部粗い条線を残すナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	底径10.5 残存高 4.6	脚部80%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	90		柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	91	口径が小さく杯部が浅い。杯部の段は不明瞭。作り雑。	口縁部・杯下部摩滅が著しく不明。
高杯	92	裾部二段に開き脚端部は平坦。	柱状部・裾部上段暗文状の篦磨き。裾部下段横ナデ。
高杯	93		柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	94		柱状部不明。裾部横ナデ。
高杯	95		杯下部・柱状部ナデ。柱状部に粘土接合痕を残す。
高杯	96	裾部に移行する部分で強く屈曲して開く。	柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	97	裾部二段に開く。	裾部下段横ナデ。
高杯	98	杯部に段も稜ももたない。	杯下部・柱状部暗文状の篦磨き。裾部横ナデの後暗文状の篦磨き。
高杯	99	口縁部直線的に開く。杯部に弱い段をもつ。	口縁部横ナデ。段をナデる。杯下部・柱状部ナデ。
高杯	100	口縁部外反気味に開く。杯部に段をもつ。裾部は水平に開く。	口縁部横ナデ。杯下部・柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	101	口縁部内彎気味に開く。杯部に段をもつ。柱状部から裾部へゆるやかに移行して開く。	口縁部上半横ナデ、下半篦削りの後ナデ。杯下部・柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	102	口縁部内彎気味に開く。杯部に明瞭な稜をもたない。	口縁部上端のみ横ナデ。杯下部ナデ。柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	103	口縁部外反気味に開く。杯部に弱い段をもつ。	口縁部横ナデか。杯下部篦削り。柱状部ハケ目調整。裾部横ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
柱状部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径(11.1) 残存高 6.6	脚部40%残存。
口縁部暗文状の篦磨きか。	A＋B＋C＋F	橙褐色	口径12.2 残存高 3.7	杯部60%残存。
柱状部指頭による押えの後ナデ。裾部上段篦ナデ、下段横ナデ。柱状部上端に粘土を貼付して指ナデしたと思われる。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	底径17.2 残存高13.4	柱状部100%、裾部90%残存。
柱状部指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	底径(14.5) 残存高 7.8	柱状部100%、裾部30%残存。
柱状部篦削りの後ナデか。上端に絞り目残す。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	底径(14.4) 残存高10.0	柱状部100%、裾部20%残存。№9
柱状部指頭による押えの後ナデ。裾部ハケ目整形の後ナデ。杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径(14.5) 残存高11.4	杯下部・柱状部100%、裾部30%残存。
柱状部篦削り。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	底径13.5 残存高 8.9	柱状部100%、裾部40%残存。№13
	A＋B＋C＋D＋F	赤褐色	底径18.6 残存高 2.2	裾部60%残存。
柱状部指頭による押えの後絞り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	底径(11.4) 残存高12.7	杯下部・柱状部100%、裾部20%残存。№11
杯底部ナデ。柱状部上半ナデ。下半指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(18.2) 残存高12.8	杯部50%、柱状部100%残存。
杯部器面が剥落して荒れている。柱状部上半指ナデの後ナデ、下半指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径18.6 底径(14.3) 器高15.9	杯部60%、柱状部100%、裾部20%残存。№2、18
杯底部器面が剥落して荒れている。柱状部指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(18.8) 底径(12.8) 器高10.7	杯部30%、柱状部100%、裾部70%残存。
口縁部・杯底部篦磨き。柱状部指頭による押えの後絞り。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	茶褐色	口径19.0 底径(14.4) 器高14.3	杯部90%、柱状部100%、裾部20%残存。№36
杯底部ナデ。柱状部粗い篦削り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(19.9) 底径(14.8) 器高18.6	杯部20%、柱状部100%、裾部60%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	104		柱状部ハケ目調整。裾部横ナデ。
高杯	105		柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	106		杯下部・柱状部ナデ。
高杯	107		柱状部篦削りの後ナデか。
高杯	108		柱状部篦削りの後ナデか。裾部篦削りの後横ナデと思われる。器面の摩滅著しい。
高杯	109		柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	110		柱状部ハケ目整形の後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	111		杯下部篦削り。柱状部ハケ目様の条線を残すナデ。
高杯	112		柱状部ハケ目様の条線を残すナデ。
高杯	113		杯下部・柱状部篦削りの後ナデ。
高杯	114		柱状部暗文状の篦磨き。裾部横ナデの後暗文状の篦磨き。
高杯	115		口縁部不明。杯下部篦削り。柱状部篦削りか。
高杯	116	柱状部に3孔を有す。	柱状部篦磨き。
高杯	117		口縁部横ナデ。杯下部・柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	118	柱状部から裾部へゆるやかに屈曲して開く。	柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	119		柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
柱状部上端指ナデ、以下は箆削り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径15.4 残存高12.2	柱状部80%、裾部10%残存。
柱状部上端指ナデ、以下は指頭による押えの後ナデ。裾部ハケ目整形の後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高10.9	柱状部100%残存。
柱状部指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	残存高10.2	柱状部90%残存。
柱状部下端を除き指ナデの後絞り。下端は指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	黄褐色	残存高 7.2	柱状部90%残存。
柱状部箆削り。杯底部ナデ。	F＋粗砂粒	黄褐色	残存高 9.9	柱状部100%、裾部20%残存。
柱状部指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	残存高 7.3	柱状部80%、裾部20%残存。
柱状部上半指ナデの後絞り、下半指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	残存高 8.6	柱状部100%残存。
柱状部上端指ナデの後絞り、以下指頭による押えの後箆削り。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	残存高10.9	杯下部30%、柱状部100%残存。No.3
柱状部指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高 7.6	柱状部100%残存。No.33
柱状部上半指ナデの後絞り、下半指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋F	茶褐色	残存高 8.8	杯下部20%、柱状部100%残存。No.37
柱状部上半箆削り、下半指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高 9.5	柱状部100%残存。
杯底部ナデ。柱状部上端ナデて指頭による押えの後箆削り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高 7.4	杯下部40%、柱状部60%残存。
杯底部ナデ。状柱部箆削り。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	残存高 5.9	柱状部50%残存。
柱状部上半指ナデの後絞り、下半指頭による押えの後ナデ。ホゾをもつ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	底径11.7 残存高13.8	口縁部10%、杯下部60%、柱状部100%、裾部20%残存。
柱状部上半指ナデの後絞り。下半ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	底径13.6 残存高 9.6	柱状部100%、裾部80%残存。
柱状部上半指ナデの後絞り。下半ナデ。ホゾを潰した可能性あり。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	底径13.4 残存高 9.6	柱状部100%、裾部90%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	120		柱状部ナデ。裾部横ナデ。

72号住居跡出土土器（第44～49図）

壺	1	球形の胴部をもち、頸部は長く、外反する。粘土を貼付し口縁部をなす。口縁端部やや窪む。	口縁部横ナデ。頸部ナデ。胴部丁寧なナデ。
壺	2	下膨れの胴部をもち、肩部は張らない。口縁部は直線的に開く。	口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴上部ハケ目整形の後ナデ。中央部箆削りの後ナデ、下半部箆削り。
壺	3	胴部が窄まり突出した平底をもつ。	胴中央部ナデ、下部箆削り。
壺	4	二重口縁を呈す。	口縁部、頸部ハケ目整形の後暗文状の箆磨き。
壺	5	平底を呈す。	胴中央部ナデ、下部箆削り。
壺	6	胴下半部が窄まり僅かに上げ底を呈す。	粗い縦位のナデ。
壺	7	突出した底部。	胴下半箆削りの後ナデ。
壺	8	やや下膨れの胴部を呈す。口縁部は外反し端部は僅かに内屈する。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ、以下箆削り。
小型壺	9	僅かに肩部が張り平底を呈す。口縁部は直線的に開く。	口縁部ハケ目整形の後ナデ。胴上半ハケ目整形の後ナデ、下半箆削り。
小型壺	10	球形の胴部を呈し口縁部はなかほどで外反する。	口縁部横ナデの後ハケ目調整か。胴部ハケ目調整。
小型壺	11	最大径を胴中央部よりやや下にもつ下膨れの胴部を呈す。口縁部は外反気味に開く。	口縁部横ナデ。胴上半ナデ、下半箆削りの後ナデ。
小型壺	12	頸部で「く」字状に屈曲し外反気味の口縁部をもつ。	口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴部ハケ目調整。
小型壺	13	最大径を胴中央部よりやや下にもつ下膨れの胴部。底部は平底。口縁部は、なかほどで外反する。	口縁部横ナデ。胴上半箆削りの後ナデ、下半箆削り。底部周辺のみ指ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備器
柱状部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径(14.8) 残存高 6.0	柱状部70%、裾部30%残存。

口縁部から頸部にかけて横ナデの後暗文状の篦磨き。胴部下半丁寧なナデ。	A＋B＋C	赤褐色	口径26.8 胴部最大径(28.8) 残存高29.5	口縁部から胴部にかけて25%残存。胴部に黒斑。有段口縁。
口縁部ハケ目整形の後横ナデ、部分的に篦ナデ。胴部下半斜位の粗いナデ。中央部から上部にかけて横位のナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	赤褐色	口径29.0 胴部最大径26.7 残存高31.7	口縁部100%、胴部70%残存。No.35
胴中央部粗い篦削りの後ナデ、以下は丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	橙褐色	底径 8.8 残存高20.2	胴下半部70残存。胴部に黒斑。
口縁部・頸部ハケ目整形の後口縁部は横ナデ。頸部はナデ。	A＋B＋C＋粗砂粒	橙褐色	口径20.3 残存高 8.0	口縁部、頸部90%残存。口縁内面に黒斑。
胴部篦削りの後ナデ。底部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋小礫	橙褐色 (淡黒色)	底径 4.8 残存高 7.6	胴部60%、底部20%残存。No.30
胴部指ナデ。底部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋小礫	黒色 (赤褐色)	底径 4.2 残存高10.6	胴部下半50%残存。
丁寧な篦ナデ。	A＋B＋C	褐色	底径 7.7 残存高 4.8	胴部下半60%、底部100%残存。
胴部粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋小礫	褐色	口径(20.2) 胴部最大径(24.2) 残存高20.7	口縁部60%、胴部30%残存。No.16—2
口縁部篦削りの後横ナデ。胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	口径(14.6) 底径 4.5 器高19.9	口縁部・胴部50%、底部80%残存。
口縁部篦ナデの後横ナデか。胴上部指頭による押え、以下は篦ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	口径(14.2) 残存高13.4	口縁部40%、胴部60%残存。
頸部に篦ナデ。胴上部指頭による押え、中央部は指ナデするが上半分をナデ消す。	A＋B＋C	淡褐色	口径(12.8) 胴部最大径15.2 器高15.3	口縁部20%、胴部70%残存。
口縁部篦ナデの後横ナデか。胴部ナデ。	A＋B＋C	褐色	口径(13.6) 残存高15.3	口縁部20%、胴部30%、底部20%残存。No.28
口縁部篦ナデの後横ナデ。胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	淡褐色	口径14.3 底径 6.4 器高15.4 胴部最大径14.8	口縁部90%、胴部80%残存。No.16、23

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
小型壺	14	口縁部は頸部から屈曲して開く。底部は平底。	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後粗いハケ目調整。
小型壺	15	やや下膨れで平底を呈す。	胴部ハケ目調整。
小型壺	16	作り雑。	胴上部指ナデ、下部篦削り、部分的に指頭による押え。
小型壺	17	直線的に開く。口縁部なかほどに凹線が巡る。	口縁部横ナデ。
坩	18	口径が胴径を凌ぎ、口縁部は長く直線的に開く。	口縁部篦削りの後横ナデ。胴部篦削り。
坩	19	口径が胴径を凌ぐ。胴部は球形を呈し、口縁部は内彎気味に開く。	口縁部篦削りの後横ナデ。胴部篦削りの後上半のみナデ。頸部にハケ目整形痕残る。
坩	20	口径が体径を凌ぐ。体部は球形を呈し、底部は上げ底。口縁部は内彎気味に開く。	口縁部横ナデ。胴中央部から下部にかけて篦削り。
坩	21	口径が胴部最大径を凌ぐ。胴部最大径を中央にもち、平底を呈す。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。底部ナデ。
坩	22	口径が胴径を僅かに凌ぐ。底部は平底。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。
坩	23	口径と胴径がほぼ同じ。口縁部は僅かに外反する。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。
坩	24	口縁部直線的に開く。胴部最大径を中央より上にもち、平底を呈す。作りが雑。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ、中央部・下部篦削り。底部篦削り。
坩	25	口径と胴径がほぼ同じ。底部は上げ底。口縁部は内彎して開く。	口縁部横ナデ。胴部を篦削りした後上部をナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
口縁部ハケ目整形の後ナデ。胴部粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	口径10.1 底径 6.0 器高12.4 胴部最大径11.7	口縁部20%、胴部50%残存。
粗いナデ。	A＋B＋C	黄褐色 （黒色）	底径(6.8) 残存高11.8	胴部・底部30%残存。胴部下半に黒斑。
粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	胴部最大径16.5 残存高13.2	胴部40%残存。No.36
横ナデの後縦位の暗文状の筆磨き。	A＋B＋C	赤褐色	口径 9.4 残存高 4.9	口縁部70%残存。
口縁部ハケ目整形の後ナデ。胴部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	口径(8.8) 底径(2.2) 器高 6.3	口縁部30%、胴部60%残存。
胴部指ナデ。	A＋B＋C	淡褐色	口径 8.0 器高 6.5	口縁部・胴部90%残存。No.19
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴部ナデ。底部にハケ目整形痕残る	A＋B＋C	橙褐色	口径 8.2 底径 2.0 器高 8.3	口縁部80%、胴部90%残存。
口縁部横ナデ。胴部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径 8.8 底径 2.2 胴部最大径 7.3 器高 8.1	口縁部90%、胴部・底部100%残存。
胴部上半指頭による押え。下半ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径 9.8 底径 4.4 器高 4.4	口縁部40%、胴部100%残存。
胴部指ナデ。	A＋B＋C	橙褐色	口径 9.2 底径 2.4 器高10.1	口縁部70%、胴部100%残存。
胴部粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径 9.8 底径 3.4 胴部最大径 8.9 器高 9.5	口縁部90%、胴部・底部100%残存。No.1
胴部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径 9.1 底径 4.0 器高 8.6	完形。No.12

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
坩	26	口径と胴径がほぼ同じ。底部は平底を呈し、口縁は外反する。	口縁部横ナデ。胴上部篦削りの後ナデ、以下は篦削り。その後ナデられている可能性有り。
坩	27	胴径と口径がほぼ等しい。底部はやや窪む。口縁部直線的に開く。	口縁部横ナデ。頸部にハケ目整形痕を残す。胴部上半ナデ、下半篦削り。
坩	28	胴部は球形を呈し、口縁部短く直線的に開く。	口縁部ナデ。頸部から胴上部ハケ目整形の後ナデ。以下を篦削り。
坩	29	胴径と口径がほぼ等しい。扁球形の胴部をもち、口縁部は直線的に開く。	口縁部横ナデ。胴上部から中央部ナデ、下部篦削り。下部も後にナデている可能性あり。
坩	30	口径と胴径がほぼ同じ。口縁部外反する。	口縁部横ナデ。胴部を篦削りの後、上部から中央部ナデ。
坩	31	胴部は球形を呈し底部は上げ底。	胴部上半ナデ、下半篦削り。
坩	32	胴部が張り、底部はやや窪む。	胴部篦削りの後上半のみナデ。
坩	33		胴部に粗いハケ目調整。
坩	34	胴部が張り、底径が大きい。頸部で強く括れる。	胴部上半ナデ、下半篦削りの後ナデ。
高杯	35	段をもち内彎して開く口縁部。端部は尖る。	口縁端部近くを横ナデの後全体を篦磨き。
高杯	36	口縁部の器肉薄く、強く外反する。	口縁部横ナデ。段の部分にハケ目整形痕残る。杯下部ナデ。
高杯	37	稜をもち外反する口縁部。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。
高杯	38	弱い段をもち直線的に開く口縁部。	篦削りで段を作り出し口縁部を横ナデ。柱状部縦位の篦磨き。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋F	橙褐色	口径4.3 底径3.2 器高8.9	口縁部10%、胴部100%残存。№33
底部篦ナデ。胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径(8.7) 底径3.4 胴部最大径9.4 器高8.2	口縁部10%、胴部70%残存。№13
口縁部ハケ目整形。胴上部指頭による押え、以下はハケ目調整。	A＋B＋C＋D＋E	褐色	口径(8.6) 器高6.9	口縁部30%、胴部50%残存。№22
胴部ナデ。	A＋B＋C	黄褐色	口径(8.6) 底径(3.6) 胴部最大径10.0 器高8.8	口縁部20%、胴部40%残存。
胴部指ナデ。	A＋B＋C	橙褐色	口径(11.2) 残存高7.1	口縁部10%、胴部30%残存。
胴部上半指頭による押え、下半篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	底径3.0 残存高7.6	胴部90%残存。
底部指ナデ。頸部にハケ目整形痕残す。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	底径3.8 残存高6.1	胴部70%残存。
頸部ハケ目調整痕残る。胴部ナデ。	A＋B＋C	褐色	胴部最大径(8.3) 残存高4.8	胴部40%残存。
指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	褐色	底径5.2 胴部最大径8.9 残存高7.2	胴部・底部50%残存。№22
口縁端部近くにハケ目整形頸を残すが他は篦磨き。	A＋B＋C	黄褐色	口径14.0 残存高5.8	杯部80%残存。№32、35
杯底部ナデ。ホゾをもつ。	A＋B＋C	橙褐色	口径19.2 残存高7.5	杯部70%残存。
底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	口径20.1 残存高5.9	杯部70%残存。色調の違う粘土がサンドウィッチ状になって器壁をなす。№16—2
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。柱状部指ナデの後絞り。杯底部から入れたと思われるホゾを残す。	A＋B＋C＋F	赤褐色	口径(19.1) 残存高12.8	杯部20%、柱状部100%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	39	段をもち直線的に開く口縁部をもつ。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。
高杯	40	杯部は篦削りで稜を作りだし口縁部なかほどで僅かに屈曲して開く。	口縁部横ナデ。僅かにハケ目整形痕残す。杯下部篦削り。
高杯	41	篦削りで稜を作りだし口縁部は外反する。	口縁部横ナデの後篦削りして稜を作りだす。
高杯	42	稜をもち口縁部は外反する。	不明。
高杯	43		丁寧な縦位の篦磨き。
器台	44		柱状部篦磨き。
高杯	45	柱状部なかほどで開く。3孔を有す。	杯下部・柱状部とも縦位の篦磨き。
高杯	46	外反する脚部。	篦削りの後ナデ。
高杯	47	柱状部なかほどで僅かに膨らむ。3孔を有す。	縦位の篦磨き。
高杯	48	柱状部が長く、裾部へゆるやかに移行して開く。	柱状部不明。裾部不明。
高杯	49	ゆるやかに開く柱状部。	柱状部縦位の篦磨き。
高杯	50	裾部に近づくにつれて、ゆるやかに開き柱状部に4孔を有す。	縦位の丁寧な篦磨き。
高杯	51	柱状部が太く長い。上下に2孔づつ千鳥状に4孔を有す。	杯下部篦削り。柱状部ハケ目調整。
高杯	52	杯部に段をもつ。	細かいハケ目調整。
高杯	53	柱状部から裾部への移行ゆるやか。	杯下部ハケ目調整。柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	54	外反する脚部。端部は上方向へ肥厚する。	上部から中央部ナデ。下部横ナデ。
高杯	55		柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	56	柱状部中央で膨らむ。	篦削りか。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
杯底部ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	口径(17.0) 残存高 6.6	杯部30%残存。
横ナデの後暗文状の篦磨き。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	赤褐色	口径(11.6) 残存高 5.6	杯部40%残存。
部分的に篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	黄褐色	口径(18.6) 残存高(18.6)	杯部30%残存。
不明。	A＋B＋C	橙褐色	口径(12.0) 残存高 7.4	杯部50%残存。
篦削り。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	底径11.8 残存高 7.2	脚部80%残存。No.25
柱状部ナデ、上端のみ絞り目残す。	A＋B＋C	黄褐色	残存高 4.7	脚部20%残存。No.26
杯底部篦磨き。柱状部篦削り。	A＋B＋C	黄褐色	残存高 7.3	柱状60%部残存。
横位の篦削り。	A＋B＋C	橙褐色	残存高 7.8	脚部30%残存。
ハケ目整形の後上半を篦削り。	A＋B＋C	橙褐色	残存高 5.7	柱状部80%残存。
柱状部上端に絞り目残す。以下は横位のナデ。	A＋B＋C＋F＋細砂粒	橙褐色	底径10.8 残存高12.3	柱状部 100 %、裾部70%残存。No.6
篦削り。ホゾをもつ。	A＋B＋C＋	黄褐色	残存高 9.9	柱状部80%残存。No.3
弱く指ナデしているが、絞り目を残す。	A＋B＋C	橙褐色	残存高10.5	柱状部70%残存。
杯底部粗いナデ。柱状部指頭による押え。ホゾの先端を指で潰す。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	赤褐色	残存高12.7	柱状部 100 %残存。No.34
柱状部上半絞り目残す。以下はナデ。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	残存高11.9	杯下部70%、柱状部100%残存。No.38
絞りの後ナデ。ホゾをもつ。	A＋B＋C	黄褐色	残存高11.0	柱状部 100 %残存。
上部絞り目残す。中央部ナデ。	A＋B＋C	淡褐色	底径(13.9)	脚部30%残存。No.23
柱状部上部から中央部にかけて絞り目を残すが下部は指ナデ。	A＋B＋C	橙褐色	残存高10.8	柱状部70%、裾部10%残存。No.7
上部から中央部指ナデの後絞り、下部は指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	残存高 9.0	柱状部 100 %残存。No.24

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	57	二段の裾部をもち脚端部を上方向に肥厚する。柱状部に4孔を有す。	柱状部・裾部上段篦磨き。裾部下段横ナデ。
甕	58	外反し端部は僅かに内屈する口縁部。	口縁部横ナデ。胴部篦削り。
甕	59	外反し端部は僅かに内屈する口縁部。	口縁部横ナデ。胴部篦削り。
甕	60	外反する口縁部。端部肥厚する。	口縁部横ナデ。胴部ハケ目整形の後ナデ。
甕	61	口縁部は直立し、長胴を呈す。非常に作りの粗い甕。	底部の篦削りを除き他は粗いハケ目調整。胴部に黒斑。
甕	62	胴中央部から窄まる。	胴部篦削りの後ナデ。
甕	63		粗いハケ目整形の後ナデ。
杯	64	球形の体部をもち口縁端部は丸い。作り雑。	口縁部横ナデ。底部指ナデ。
甑	65	底部中央に1孔有す。	底部篦削り。
S字甕	67	段部がしっかりしている。口縁部短く外反気味に開く。脚台部内面に折り返しをもつが弱い。	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後クシ目調整。脚台部クシ目調整。
S字甕	68	肩部が張り、口縁端部が僅かに立ち上がる。	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後ハケ目調整。胴部下半に篦削り残す。
S字甕	69	口縁端部は僅かに内屈し端部内面に弱い段をもつ。	口縁部横ナデ。胴部横位の篦削りの後クシ目調整。
S字甕	70	口縁端部は僅かに内屈し端部内面に弱い段をもつ。段部内面の屈曲強い。	口縁部横ナデ。胴部横位の篦削りの後ハケ目調整。
S字甕	71	接合部から内彎気味に開き脚端部内面に折り返しをもたない。鋸歯状の文様乱れる。	胴下部ハケ目調整。脚台部ハケ目調整。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
柱状部篦削り。裾部指頭による押えが残る。	A＋B＋C＋D＋E	淡褐色	底径 8.4 残存高 7.2	柱状部60%、裾部90%残存。№24
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	褐色	口径(25.2) 残存高 9.4	口縁部20%、胴上部20%残存。
胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	褐色	口径18.8 残存高 8.9	口縁部・胴上部10%残存。№29
胴部ナデ。	A＋B＋C＋小礫	淡褐色	口径18.3 残存高 7.2	口縁部15%、胴上半部30%残存。
粗いハケ目調整。	A＋B＋C＋D	淡褐色	口径15.8 胴部最大径23.1 器高35.2	口縁部・胴部60%残存。№11
胴部ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	胴部最大径25.9 残存高16.7	胴部50%残存。
ナデ。	A＋B＋C＋粗砂粒	淡褐色	残存高 6.5	胴部40%残存。スス付着。№30
体部ナデ。	A＋B＋C	淡褐色	口径12.6 器高 6.5	口縁部70%、体部80%残存。
粗いナデ。	A＋B＋C	橙褐色	底径 6.0 残存高 3.3	底部 100 %残存。
胴部上半指ナデ様の押え、下半篦ナデ。脚台部指頭による押え。胴部と脚台部の接合部に両面から器肉と異なる粘土を貼付する。	A＋B＋C＋小礫(多量に含む)	淡褐色	口径11.7 底径 7.8 胴部最大径17.5 器高22.8	口縁部10%、脚台部30%欠くのみ。№18
胴部指ナデ様の押え。底部に篦ナデの跡を残す。接合部両面に器肉の胎土と異なる粘土を貼付する。	A＋B＋C＋D	淡褐色	口径(13.0) 胴部最大径19.3 残存高19.5	口縁部10%、胴部70%残存。№8
指ナデ様の押え。	A＋B＋C＋粗砂粒	褐色	口径(14.0) 残存高 3.1	口縁部20%、胴上部10%残存。
指ナデ様の押え。	A＋B＋粗砂粒(多量に含む)	淡褐色	口径(13.0) 残存高 5.1	口縁部20%、胴上部10%残存。№35
胴部ナデ。脚台部ナデ。接合部両面から粘土を貼付していると思われるが、器肉の胎土と同じである。	A＋B＋C	赤褐色	底径 7.8 残存高 5.8	脚台部50%残存。№39

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
S字甕	72		ハケ目調整。
S字甕	73		ハケ目調整。
台付甕	74	胴部が張り口縁部は頸部で「く」字状に屈曲して短く直線的に開く。脚台部は内彎気味に開き端部に折り返しをもつ。	口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴部篦削りの後ハケ目調整。脚台部ハケ目整形の後ナデ。
S字甕	75	直立気味に開くS字状口縁。肩部は張りが弱い。	口縁部横ナデ。頸部に横位の篦削りが残る。胴部篦削りの後篦磨き。
S字甕	76	接合部から直線的に開く脚台部。	接合部分に僅かにハケ目整形痕を残すがほとんどナデ。

74号住居跡出土土器（第51・52図）

小型壺	1	口縁部内彎気味に開くと思われる。	口縁部・胴部篦磨き。器面の摩滅著しい。
小型壺	2		口縁部摩滅著しい。横位の篦磨きの可能性あり。胴部篦削りの後横位の篦磨き。
高　杯	3	口縁部内彎する。柱状部から裾部へゆるやかに移行する。作りが雑。	接合部から口縁部にかけて篦削りして端部周辺のみを横ナデ。柱状部篦削り。裾部横ナデ。
高　杯	4	裾部に移行する部分で強く屈曲して直線的に開く。柱状部に3孔を有す。	柱状部不明。裾部横ナデ。
高　杯	5		杯下部・柱状部不明。
高　杯	6		接合部上端の窪みのみナデ、その周辺を篦削り。脚部上部篦削り。
高　杯	7	脚部が「ハ」字状に開く。	脚端部周辺のみ横ナデ。他は不明。
坩	8	口径が胴径を凌ぐ。丸底を呈し、作りが丁寧。	口縁部縦位の篦磨き。胴部・底部横位の篦磨き。頸部横位のナデ。赤彩か。
坩	9	口縁部内彎気味に開く。丸底を呈す。	口縁部・胴部・底部篦磨き。頸部のみ横位のナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
指ナデ。接合部両面から器肉の胎土と異なる粘土を貼付。	A＋B＋C	淡褐色	残存高 2.5	脚台部20%残存。
底部篦ナデ。脚台部指ナデ。接合部両面に器肉と異なる胎土の粘土を貼付。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	残存高 3.2	脚台部15%残存。
胴部ナデ。脚台部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	褐色	口径16.1 底径 9.0 胴部最大径20.6 器高23.6	口縁部30%、胴部15%残存。No.20
胴上部指ナデ様のナデ、中央部ナデ。	A＋B＋C	褐色	口径10.2 胴部最大径14.2 残存高10.9	口縁部100%、胴部40%残存。No.14、15
指ナデ。	A＋B＋C	赤褐色	底径 8.4 残存高 5.2	脚台部100%残存。No.21
胴部上半篦削り、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	胴部最大径14.5 残存高12.5	口縁部・胴部40%残存。No.19
口縁部暗文状の篦磨き。胴上部は上端を除きナデ、上端は指頭による押えで爪跡が残る。胴中央部は指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋F＋粗砂粒	黒褐色	胴部最大径15.2 残存高11.5	口縁部10%、胴部上半60%残存。No.16
口縁部中程から杯底部にかけてナデ。柱状部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋F	橙褐色	口径(12.2) 底径 7.9 器高10.9	杯部40%、柱状部・裾部100%残存。No.11
柱状部指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D	橙褐色	底径(11.5) 残存高 7.0	柱状部40%、裾部30%残存。No.6焼成良好。
杯底部ナデ。柱状部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高 6.1	杯下部100%、柱状部20%残存。No.18
脚部ナデ。	A＋B＋C＋F	黒褐色（茶褐色）	残存高 3.6	脚部50%残存。No.10
脚部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	底径(9.1) 残存高 4.0	脚部40%残存。
口縁部暗文状の篦磨き。胴部篦磨き。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径23.7 胴部最大径14.7 器高14.8	口縁部70%、胴部90%残存。No.2
口縁部・胴部篦磨き。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径15.8 器高 8.1	口縁部・胴部40%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
手捏	10	坩の形状を呈す。	口縁部横ナデ。胴部ナデ。
坩	11	丸底を呈すと思われる。薄い丁寧な作り。	口縁部箆削りの後横ナデ。胴部箆削りの後ナデ。
坩	12	口縁部内彎気味に開く。丸底を呈す。	口縁部箆削りの後横ナデ。胴部・底部箆削りの後ナデ。
器台	13		口縁部横ナデの後箆磨き。
器台	14		口縁部横ナデ。
S字甕	15	段部が弱く、口縁部は立ち上がり気味に開く。	口縁部横ナデ。胴部上端ハケ目調整。
S字甕	16	段部が弱く、口縁部の屈曲も弱い。	口縁部横ナデ。胴部上端クシ目調整。
S字甕	17	口縁部・胴部上端ともに器肉が厚く作りが雑。	口縁部横ナデ。胴部上端箆削りの後ナデか。
S字甕	18	脚台部内面に折り返しをもつ。	ハケ目調整痕を鋸歯状に残すが乱れている。
S字甕	19		ハケ目調整痕を鋸歯状に残すがやや乱れている。
S字甕	20		ハケ目調整。
S字甕	21		ザックリしたハケ目。鋸歯状を呈すがやや乱れている。
S字甕	22		粗いハケ目調整。鋸歯状を呈すがやや乱れている。
S字甕	23	脚台部内面に折り返しをもつが弱い。	粗いクシ目調整。脚端部周辺横ナデ。
S字甕	24	脚台部内面に折り返しをもつが弱い。	脚台部粗いハケ目調整の後ナデか。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴部ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	褐色	口径(5.3) 器高 3.8	口縁部30%、胴部60%残存。
口縁部横ナデ。胴部箆削りの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径(14.4) 残存高 6.4	口縁部30%、胴部20%残存。
口縁部横ナデ。胴部・底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(11.2) 器高 4.9	口縁部40%、胴部・底部60%残存。No.7
口縁部横ナデの後箆磨き。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	口径(9.6) 残存高 2.3	器受部20%残存。 No.2
	A＋B＋C＋D	黄褐色	口径 9.2 残存高 2.0	器受部20%残存。
胴部上端ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	褐色 (赤褐色)	口径(11.2) 残存高 2.9	口縁部20%残存。 No.8
胴部上端ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	茶褐色	口径(12.2) 残存高 4.5	口縁部20%残存。
胴部上端ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	口径16.0 残存高 3.7	口縁部30%残存。
脚台部上半指ナデ、下半ナデ。折り返しは指頭による押え。接合部両面から僅かに色調の異なる粘土を貼付。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	底径(10.8) 残存高 7.3	接合部、脚台部30%残存。
接合部両面から砂粒を多く含む粘土を貼付し下面を指ナデ、上面はナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	残存高 5.0	接合部100%残存。 No.4
指ナデ。接合部に下面から胎土を貼付し上面はナデ、下面を指ナデ。貼付する粘土は器壁と同じ胎土。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	黄褐色	残存高 3.6	接合部50%残存。
接合部下面から、色調が同じで砂粒を多く含む粘土を貼付して指ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	残存高 4.7	接合部70%残存。
接合部下面から器肉と同じ胎土を貼付しているものと思われる。下面は指ナデ、上面はナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	残存高 3.8	接合部100%残存。
接合部両面に砂粒を多く含む粘土を貼付した後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	底径(10.4) 残存高 5.9	接合部100%、脚台部20%残存。No.8
脚台部ナデ。接合部下面に器肉と同じ粘土を貼付。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	底径(10.2) 残存高 7.3	脚台部40%残存。 No.15

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
S字甕	25	脚台部内面に折り返しをもつが弱い。	接合部篦削りの後ナデ。脚台部ナデ。
台付甕	26	脚台部内面に折り返しをもつ。作り雑。	脚台部篦削り。
台付甕	27	脚台部内面に折り返しをもたない。	脚台部篦削りの後ナデ。
S字甕	28	脚台部内面に折り返しをもつが弱い。	ハケ目調整。鋸歯状のハケ目は乱れる。
台付甕	29	脚台部が「ハ」字状に開き、脚端部内面に折り返しをもたない。	脚台部粗いハケ目調整。脚端部周辺のみ横ナデ。

75号住居跡出土土器（第54図）

壺	1	二重口縁を呈す。	口縁部横ナデによって段をつける。胴上部篦削り。
小型壺	2	扁球形の胴部。底部は平底。	胴中央部から上部にかけてナデ。以下は篦削り。
壺	3	胴部最大径を胴中央部より僅かに上にもち窄まって底部に至る。	胴部篦削りの後ナデ。底部篦削り。
高杯	4	杯部に弱い段をもち口縁部は外反気味に開く。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。
高杯	5	円柱状の柱状部。	縦方向の篦磨き。
高杯	6	柱状部僅かに開く。杯部に段をもつ。	杯下部篦削りの後ナデ。柱状部篦削りの後ナデか。
高杯	7	杯部に稜をもつ。	杯下部篦削りの後ナデ。柱状部篦削りの後ナデ。
高杯	8	杯部に段をもち、柱状部短い。	口縁部横ナデ。杯下部・柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	9	二段に開く裾部。	柱状部ナデ、光沢あり。裾部ハケ目整形の後ナデ。

77号住居跡出土土器（第56図）

高杯	1	口縁部直線的に開く。	口縁部横ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
接合部両面に砂粒を多く含む粘土を貼付。脚台部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	底径(10.2) 残存高 6.6	接合部50%、脚台部40%残存。No.3
脚台部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	底径(7.3) 残存高 5.2	接合部100%、脚台部40%残存。No.3
脚台部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	底径 7.4 残存高 5.0	接合部・脚台部30%残存。
接合部に粘土を貼付しない。指ナデ。折り返しは指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	黄褐色	底径 8.4 残存高 6.3	脚台部60%残存。No.16
脚台部篦ナデの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	底径 9.7 残存高 6.8	接合部100%、脚台部30%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	黄褐色	口径(22.6) 残存高 8.6	口縁部10%残存。
胴部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	底径 4.4 胴部最大径(14.4) 残存高 9.8	胴部30%残存。
胴上部指頭による押え。以下をナデる。	A＋B＋C＋F	橙褐色	胴部最大径17.8 残存高12.5	胴部30%残存。
杯底部ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	橙褐色	口径19.0 残存高 5.3	口縁部30%残存。
横位の篦削り。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	残存高 8.8	柱状部100% 残存。
杯底部ナデ。柱状部上半絞り目残し、下半を篦削りする。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	残存高10.9	杯下部70%、柱状部100%残存。
杯底部ナデ。柱状部指ナデの後絞り。ホゾの周りは篦削り。	A＋B＋C＋F	赤褐色	残存高12.6	杯部20%、柱状部40%残存。
杯底部篦ナデの後ナデか。柱状部上半指ナデ、下半部指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	底径(14.8) 残存高12.1	杯部30%、柱状部100%、裾部30%残存。
柱状部指頭による押え。裾部ハケ目整形の後ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	淡褐色	残存高 6.3	柱状部40%、裾部30%残存。
口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。	A＋B＋C＋細砂粒	橙褐色	口径(19.4) 残存高 4.5	口縁部30%残存。内面にスス付着。No.1

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	2	杯部に弱い段をもち口縁部は直線的に開く。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。柱状部篦削りの後ナデか。裾部横ナデ。
高杯	3	篦削りによって弱い稜を作りだす。口縁部直線的に開く。	口縁部ハケ目整形の後上半を横ナデ。杯下部篦削り。接合部は篦削りの後ナデ。
高杯	4		篦削り。
高杯	5	弱い段をもつ。	口縁部篦削りの後横ナデ。杯下部篦削り。
高杯	6		接合部ナデ。柱状部ハケ目調整。
甕	7	底部弱い上げ底を呈す。	胴部ナデ。
壺	8	上げ底を呈す。	胴部下端篦削り。底部篦削りの後ナデ。
台付甕	9	脚台部外反気味に開く。	脚台部篦削り。脚端部横ナデ。

79号住居跡出土土器（第58・59図）

甕	1	口縁部「く」字状に屈曲して開く。胴部最大径を中央部より僅かに上にもつ。底部は上げ底	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後ナデ。
台付甕	2	接合部は太く大きいが脚は短い。内面に数カ所布目を残す。	脚台部を篦削りした後下半を横ナデ。
甕	3	口縁部外反する。	口縁部横ナデ。胴部ナデ。
杯	4	小型壺の転用と考えられる。底部は僅かに窪む。口縁端部に沈線様の溝が巡る。	体部篦削りの後ナデ。
鉢	5	形態不整。底部僅かに窪む。体部に擬凹線をもつ。	口縁部粗いハケ目整形の後横ナデか。底部とその周辺は篦削り。
S字甕	6	脚端部内面に折り返しをもつが、著しく退化している。鋸歯状の文様乱れる。	浅いハケ目調整。

内面観の察	胎土	色調	法量	備考
柱状部絞りの後指ナデ。	A＋B＋C	橙褐色	口径18.8 底径13.5 器高15.8	口縁部90%、柱状部100%、底部60%残存。No.9、10、11
杯下部ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	橙褐色	口径20.0 残存高 7.5	杯部90%残存。No.2、14
指頭による押え。ホゾを杯底部から充填する。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	残存高 7.9	柱状部70%残存。No.13
杯底部篦ナデ。接合部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	残存高 6.6	杯部40%残存。
杯下部篦ナデ。柱状部絞り目を上部に残す。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	残存高 5.3	柱状部50%残存。No.16
篦削りの後ナデか。部分的に篦跡が残る。	A＋B＋C	褐色	底径 7.0	胴部下半60%残存。
底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	褐色 （橙褐色）	底径 3.8 残存高 2.0	底部90%残存。No.1
底部篦ナデ。脚台部上半指ナデ。下半指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋E	黄褐色	底径11.3 残存高 9.4	脚台部70%残存。No.15

胴部ナデ。	A＋B＋C	淡褐色	口径16.4 底径 5.2 胴部最大径19.0 器高21.1	口縁部100%、胴部60%残存。焼成良好。No.14、18
底部ナデ。脚台部上半指頭による押え。接合部下面指ナデ。	A＋B＋C＋粗砂粒	橙褐色	底径12.0 残存高 7.3	脚台部90%残存。No.12
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	淡褐色	口径(15.9) 残存高 6.8	口縁部20%残存。No.3
体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	底径 5.1 器高 5.7	体部80%残存。No.22
体部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	口径17.7 底径 2.8 器高 7.8	口縁部70%、体部60%残存。
脚端部指頭による押え。接合部の両面に砂粒の多い粘土を貼付。	A＋B＋C＋細砂粒	黄褐色	底径 7.2 残存高 6.4	脚台部100%残存。No.5

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
壺	8	肩部張らず、口縁部外反する。	口縁部横ナデ、指頭による押え。胴中央部篦削り。
壺	9	突出した底部。上げ底を呈す。	胴部篦削りの後ナデ。底部とその周辺は丁寧にナデる。
小型壺	10	口縁部外反気味に開く。胴部は中央部が強く張る。底部を篦削りで作りだす。	口縁部横ナデ。胴上半ナデ、下半篦削り。
坩	11	口径と胴径がほぼ同じ。丸底を呈す。	口縁部横ナデ。胴上半ハケ目整形の後ナデ、下半篦削り。
高杯	12	弱い段をもつ。口縁部は外反し、端部で僅かに内屈する。	口縁部横ナデ。杯下部篦削りの後ナデ。
高杯	13	弱い段をもつ。口縁部は内彎気味に開く。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。
高杯	14	段をもち、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。
高杯	15	弱い段をもち、口縁部は直線的に開く。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。柱状部ナデ。
高杯	16	弱い段をもち、口縁部は外反気味に開く。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。
高杯	17	口縁部一度強く外方向に屈曲してから外反気味に開く。	口縁部横ナデ。
高杯	18	柱状部から裾部へゆるやかに移行して開く。	柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	19	柱状部中央が僅かに膨らみエンタシス状を呈し、裾部へゆるやかに移行して短く開く。	柱状部篦削りの後ナデ、篦跡多く残す。裾部横ナデ。
高杯	20		杯下部篦削り。接合部篦削り。共に後でナデている可能性有り。
高杯	21	柱状部から裾部へゆるやかに移行して短く開く。	柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	22	柱状部から裾部に移行する部分で強く屈曲し水平に開く。器面著しく摩滅。	柱状部ナデ。裾部横ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴部粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径21.4 残存高16.4	口縁部40%、胴部上半20%残存。No.13
ナデ。	A＋B＋C＋小礫	黒褐色 （黄褐色）	底径 6.1 残存高13.3	胴部下半60%残存。No.13
胴部ナデ。	A＋B＋C	黄褐色	口径11.8 底径 3.4 胴部最大径14.1 器高14.8	口縁部60%、胴部80%残存。No.2
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	褐色	口径 8.0 器高 8.5	口縁部80%、胴部40%残存。No.6
	A＋B＋C＋細砂粒	橙褐色	口径19.4 残存高 5.1	杯部80%残存。No.10、11
口縁部横ナデ。	A＋B＋C＋D	橙褐色	口径18.4 残存高 5.6	杯部80%。No.1
	A＋B＋C＋D	橙褐色	口径(19.3) 残存高 6.1	杯部40%残存。No.22
口縁部下端は部分的に篦ナデか。	A＋B＋C＋D＋E	黄褐色 （赤褐色）	口径(18.2) 残存高 8.8	杯部100%残存。No.24
杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径15.3 残存高 6.2	杯部70%残存。No.9
	A＋B＋C＋D	黄褐色	口径(18.2)	杯部30%残存。No.22
柱状部上端指ナデ、以下は指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	底径15.3 残存高13.8	柱状部40%、裾部30%残存。No.10、11
柱状部上半絞り目残し、下半篦削り。	A＋B＋C＋D	橙褐色	底径11.4 残存高11.9	柱状部100%、裾部30%残存。No.23
杯底部ナデ。柱状部粘土の巻き上げ痕残すと思われる。	A＋B＋C＋D	赤褐色	残存高 5.0	杯下部90%残存。No.4
柱状部巻き上げ痕残す。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	底径11.4 残存高 6.5	柱状部50%、裾部80%残存。No.20
柱状部指ナデの後絞り。ホゾの周辺部のみ篦削り。	A＋B＋C＋細砂粒	赤褐色	底径13.8 残存高 9.4	脚部100%残存。No.21

82号住居跡出土土器（第61図）

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	1	柱状部から裾部へゆるやかに移行する。	柱状部不明。
高杯	2	柱状部から裾部へゆるやかに移行する。	柱状部篦削りの後ナデか。裾部横ナデ。
高杯	3	柱状部から裾部へゆるやかに移行する。	柱状部ナデ。裾部篦削りの後横ナデ。
高杯	4	柱状部から裾部へゆるやかに移行する。	柱状部から裾部にかけて篦削り。
坩	5	胴部が強く張り、底部は平底を呈す。	胴上半ナデ、下半篦削り。
坩	6	ソロバン玉状の胴部を呈し、底部は上げ底。	胴上半ナデ、下半篦削り。
椀	7	底部は上げ底。口縁部は胴部からゆるやかに移行し外反する。	口縁部横ナデ。胴上半ナデ、下半篦削り。底部はナデ。
甕	8	口縁部は外反する。最大径をほぼ胴中央部にもつ。	口縁部横ナデ。胴上部から中央部にかけて篦削りの後ナデ、下部はハケ目整形の後ナデ。
甕	9	口縁部は外反気味に開く。最大径をほぼ胴中央部にもつ。	口縁部横ナデ。凹線が巡る。胴部篦削り。

93号住居跡出土土器（第63図）

小型壺	1	胴部最大径を中央部より僅かに下にもち下膨れを呈す。底部は平底で突出している。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。胴上部から中央部にかけて丁寧なナデ。以下は篦削り。
小型壺	2	球形の胴部をもち、底部は丸底。	胴部篦削り。胴部上端は口縁部と同時に横ナデ。
甕	3	肩部がなだらかで胴中央部が張る。口縁部は外反気味に短く開く。	口縁部横ナデ。胴中央部は篦削りの後ナデ。他の部分はナデられているが、頸部に篦跡がみられる。胴部下半にスス付着。
坩	4	口縁部に最大径をもち、胴部はソロバン玉状を呈す。	口縁部横ナデ。胴部上半ハケ目整形の後ナデ、下半篦削り。底部ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
指頭による押え。巻き上げ痕残す。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	残存高 7.9	柱状部100％残存。
指頭による押え。巻き上げ痕残す。接合部に小石。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	赤褐色	底径13.3 残存高 9.6	柱状部100％、裾部70％残存。No.3
指頭による押え。巻き上げ痕残す。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	底径12.4 残存高 9.8	柱状部100％、裾部60％残存。No.5
指頭による押え。巻き上げ痕残す。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	残存高 9.9	柱状部100％、裾部40％残存。No.6
胴部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	黄褐色	底径 2.7 残存高 4.5	胴部50％残存。No.6
胴下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	底径 2.5 残存高 4.6	胴部90％残存。No.1
胴上半篦削り、下半篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径(12.0) 器高 8.0	口縁部20％、胴部40％残存。No.8
胴上部から中央部にかけてナデ、下部はハケ目整形の後ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	淡褐色	口径17.9 底径 6.5 器高26.5	口縁部・胴部70％残存。No.12—1
胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋小礫（多量に含む。）	黄褐色	口径17.2 底径 6.8 器高26.6	口縁部、胴部70％残存。No.9—1

胴部ナデ。	A＋B＋C	橙褐色	口径12.4 底径 5.3 器高15.1	口縁部80％、胴部80％、底部100％残存。No.9
胴部上端指頭による押え。以下粗いナデ。底部窪む。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	褐色	胴部最大径12.6 残存高10.3	口縁部10％、胴部80％、底部100％残存。No.7
ナデ。	A＋B＋C	褐色	口径15.9 底径 7.1 胴部最大径22.9 器高26.2	口径部90％、胴部・底部60％残存。No.2
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴部上半指頭による押え、下半指ナデ。	A＋B＋C	淡褐色	口径 9.0 底径 3.8 器高 8.2	口縁部70％、胴部・底部100％残存。No.1

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
椀	5	口縁部は直線的に開き、底部は上げ底。	胴部を篦削りした後口縁部と体部上半を横ナデ。底部・胴部下半に黒斑。赤彩。
高杯	6	柱状部から裾部への移行部で強く屈曲して水平に開く。	柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	7		柱状部篦削りの後ナデか。
高杯	8		柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	9	接合部で強く括れ、柱状部中央で膨らむ。	柱状部ナデ。裾部と柱状部下端横ナデ。
高杯	10	柱状部から裾部への移行部で強く屈曲して水平に開く。形態不整。	柱状部ナデ。裾部横ナデ。裾部上端に篦跡残す。
鉢	11	底部は上げ底。胴部からゆるやかに口縁部へ移行して開く。	口縁部と胴部上端横ナデ。胴部上半篦削りの後ナデか。下半篦削り。
甑	12	口縁部ゆるやかに開く。	口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。胴部上端に粗いハケ目を残し以下はナデ。

95号住居跡出土土器（第65～70図）

壺	1	複合口縁を呈し、端部は平坦。	口縁部横ナデ。胴部上端ナデ。
壺	2	球形の胴部をもち、口縁部は頸部で強く屈曲して開く。	口縁部横ナデ。胴部ナデ、中央部は篦削りか。胴部下端にはハケ目整形痕もみられるが、後でナデている。胴部下半に黒斑。
甕	3	胴部最大径を中央にもち、肩部は張らない。底部は平底。	胴部上半篦削りの後ナデ。下半篦削り。底部篦削り。
甕	4	胴部に最大径をもち、口縁部外反する。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。胴部に黒斑。黒色有機物付着。
甕	5	胴部中央に最大径をもち、肩部が張る。口縁部外反気味に開く。	口縁部と胴部上端横ナデ。胴部不明。底部篦削り。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
底部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒（多量に含む）	黄褐色	口径11.2 底径 6.1 器高 5.9	口縁部20%、体部100%残存。
柱状部上端指ナデ、以下を指頭による押え。粘土接合痕残す。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	底径(13.6) 残存高 9.8	柱状部100%、裾部20%残存。No.40
上半指ナデ、下半篦削り。粘土接合痕残す。	A＋B＋C＋D＋E	黄褐色	残存高 9.8	柱状部100%残存。No.7
柱状部上半指ナデ、下半指頭による押え。粘土接合痕残す。	A＋B＋C	橙褐色	残存高 9.8	柱状部100%、裾部10%残存。No.11
柱状部上端絞り目、以下は篦削り。ホゾをもつと思われる。	A＋B＋C	褐色	残存高10.2	柱状部100%、裾部20%残存。No.12
柱状部上半篦削り、下半ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	褐色	底径(12.0) 残存高 8.2	柱状部80%、裾部30%残存。
胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋E	褐色	口径14.3 底径 2.4 器高 8.9	口縁部80%、胴部100%、底部10%残存。No.8
胴部ナデ。	A＋B＋C	橙褐色	口径19.4 残存高12.1	口縁部80%、胴部上半60%残存。No.6

頸部にハケ目整形痕残す。胴部上端指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	橙褐色	口径20.9 残存高 7.0	口縁部60%残存。No.22、23
胴部粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径18.3 胴部最大径28.4 残存高28.3	口縁部80%、胴部60%残存。No.25、32
胴部ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	淡褐色	底径 7.2 胴部最大径25.4	胴部50%、底部100%残存。No.6
胴部ナデ。	A＋B＋C＋粗砂粒	淡褐色	口径15.4 底径 4.2 胴部最大径24.3 器高26.9	口縁部90%、胴部70%、底部100%残存。No.21
胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋小礫	褐色	口径(14.9) 底径 6.6 胴部最大径23.5 器高25.3	口縁部30%、胴部50%、底部100%残存。No.8

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
甕	6	球形の胴部をもち、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。胴上部から中央部にかけてナデ、下部篦削り。胴下部に黒斑。
甕	7	球形の胴部をもち、口縁部は外反する。底部は上げ底。	口縁部横ナデ。胴部中央と底部とその周辺部篦削り。他はナデ。底部の窪みはナデ。胴部下半に黒斑。
甕	8	球形の胴部をもち、口縁部は外反。頸部の器肉厚い。底部は上げ底。	口縁部横ナデ。胴上部から中央部にかけてナデ、下部篦削り。底部篦削り。
甕	9	胴部中央に最大径をもち肩部は張らず、口縁部は外反気味に開く。底部は上げ底。	口縁部横ナデ。胴上部から中央部にかけてナデ、下部は篦削りの後ナデか。底部はナデ。
甕	10	胴部中央に最大径をもち肩部は張らず、口縁部は外反する。	口縁部と胴部上端横ナデ。胴部上半篦削りの後ナデか、下半篦削り。底部篦削り。
甕	11	胴部に最大径をもち肩部が張らず、口縁部は一旦立ち上がって外反する。	口縁部横ナデ。胴上部から中央部にかけてナデ、下部篦削り。胴部に黒斑。
甕	12	頸部で短く立ち上がり直線的に開く。	口縁部横ナデ。胴部ナデ。
小型壺	13	胴部中央に最大径をもち、口縁部は内彎気味に開く。底部は平底。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。底部ナデ。
小型壺	14	口径と胴径がほぼ等しい。底部中央が僅かに窪む。口縁端部僅かに外屈。	口縁部横ナデ。胴上部から中央部にかけてナデ、下部は篦削り。
小型壺	15	最大径を胴部にもち肩部が張る。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。胴部ナデ、中央部に篦削り残す。篦削りの他ナデか。胴上部に黒斑。
小型壺	16	胴中央部が強く張り底部は僅かに窪む。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴部丁寧な篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	橙褐色	口径18.0 胴部最大径19.3 残存高17.3	口縁部50%、胴部70%残存。No.14
胴部ナデ。底部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	褐色	口径19.7 底径 7.0 胴部最大径23.9 器高24.2	口縁部90%、胴部70%残存。No.25
胴部丁寧なナデ、部分的に篦削り。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	褐色	口径18.5 底部 4.7 胴部最大径20.9 器高21.8	口縁部70%、胴部80%、底部100%残存。No.19
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	橙褐色	口径18.3 底径 6.5 胴部最大径23.8 器高26.4	口縁部90%、胴部70%、底部30%残存。No.57
胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	淡褐色	口径17.9 底径 6.9 胴部最大径23.2 器高25.0	口縁部、胴部80%、底部100%残存。No.33
胴中央部指ナデ様の押え。	A＋B＋C	橙褐色	口径15.8 胴部最大径19.5 残存高21.1	口縁部90%、胴部60%残存。No.64
胴部指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋E＋F	黄褐色	口径(20.3) 残存高 7.8	口縁部30%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	口径14.7 底径 5.1 胴部最大径15.3 器高15.9	口縁部90%、胴部・底部100%残存。No.38
胴部上端指頭による押え、底部は指ナデ、他はナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径11.9 底径 5.5 胴部最大径11.6 器高13.6	口縁部30%、胴部70%、底部100%残存。No.48
胴部粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	淡褐色	口径12.5 底径 6.7 胴部最大径15.5 器高14.2	口縁部90%、胴部80%、底部100%残存。No.12、20
胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径11.3 底径 4.7 器高13.8	口縁部90%、胴部80%、底部100%残存。No.53

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
小型壺	17	胴部中央が強く張る。底部僅かに窪む。	篦削りの後ナデか。部分的に篦磨き様のナデの痕跡残す。胴上部から中央部にかけて黒斑。
小型壺	18	口縁部が大きく開き、口径が胴径を凌ぐ。	口縁部横ナデ。胴部ナデ、下半は篦削りの後ナデか。
小型壺	19	胴部最大径を中央部より僅かに下にもつ。底部は丸底。	胴部ナデ。底部篦削り。胴部上端に部分的に篦削りがみられる。底部に黒斑。
坩	20	口径が胴径を凌ぐ。口縁部は直線的に開き、端部に段をもつ。	口縁部と胴部上端を横ナデ。胴部篦削り。
坩	21	底部は平底。	胴上部から中央部ナデ。胴下部篦削り。
椀	22	口縁部直線的に開く。底部は上げ底。	口縁部と胴上部横ナデ。胴中央部から下部篦削り。底部ナデ。
椀	23	口縁部外反する。底部は平底。	口縁部と胴上部横ナデ。胴中央部から底部篦削り。
椀	24	頸部で強く屈曲して開く口縁部。底部は尖り気味。	口縁部と胴上部横ナデ。頸部にハケ目整形痕残る。胴中央部ナデ、下部・底部篦削り。
坩	25	口縁部外反気味に開く。底部窪む。	口縁部と胴上部横ナデ。胴中央部ナデ、下部・底部篦削りの後ナデ。
高杯	26	小型の壺形土器に高杯の脚部をつけている。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ。胴部下半から柱状部は篦削りの後ナデ。
高杯	27	杯部に明瞭な段をもち口縁部は外反し端部は弱い凹面を呈す。柱状部から裾部へゆるやかに移行して開く。	口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。杯下部篦削り。柱状部から裾部にかけて暗文状の篦磨き。口縁部と裾部に黒斑。
高杯	28	杯部に段をもつ。口縁端部弱い凹面を呈す。柱状部から裾部へゆるやかに移行して開く。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。口縁部に黒斑。
高杯	29	杯部に段をもつ。口縁端部弱い凹面を呈す。柱状部から裾部へゆるやかに移行して開く。	口縁部上半横ナデ。柱状部ナデ。裾部横ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴部篦ナデ、上部から中央部にかけては丁寧である。	A＋B＋C＋F＋細砂粒	橙褐色（灰褐色）	底径 3.2 胴部最大径14.5 残存高11.2	胴部・底部100％残存。№27
胴部上半指頭による押え、下半ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	口径14.5 残存高10.8	口縁部80％、胴部40％残存。№32
篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	胴部最大径12.6 残存高 8.5	胴部50％、底部100％残存。№1
胴部ナデ。底部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	淡褐色	口径10.2 底径 3.5 胴部最大径 9.0 器高10.5	口縁部90％、胴部・底部100％残存。№2
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	淡褐色	底径 3.5 胴部最大径 8.0 残存高 6.0	胴部・底部100％残存。№60
口縁部から胴部横ナデ。底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径11.4 底径 4.1 器高 7.3	口縁部60％、胴部100％残存。№50
口縁部と胴部上端横ナデ。胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	灰褐色（淡褐色）	口径(12.7) 底径 4.8 器高 8.7	口縁部30％、胴部60％、底部100％残存。
口縁部横ナデ。胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋小礫	赤褐色	口径10.5 胴部最大径11.0 器高 8.6	完形。№36
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	赤褐色	口径11.8 底径 4.1 器高10.6	口縁部60％、胴部・底部100％残存。№14
胴部粗いナデ。柱状部巻き上げ痕残す。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径13.8 残存高17.0	裾部を欠くのみ。№43
口縁部暗文状の篦磨き。柱状部指頭による押え。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径20.1 底径16.1 器高15.5	杯部・脚部90％残存。№61
口縁部横ナデ。杯底部ナデ。柱状部上端ナデ、下端のみ指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径17.8 底径13.3 器高16.0	杯部90％、柱状部100％、裾部40％残存。№7
口縁部上半横ナデ、下半と杯底部ナデ。柱状部指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径17.4 底径13.5 器高11.5	杯部90％、脚部100％残存。№63

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	30	杯部に弱い段をもち口縁部は内彎気味に開く。	口縁部上半横ナデ。杯下部不明。柱状部篦磨きか。
高杯	31	杯部に弱い段をもち口縁部は内彎気味に開く。柱状部から裾部に移行する部分で強く屈曲して開き、脚端部僅かに反る。	口縁部・杯下部不明。柱状部暗文状の篦磨き。裾部横ナデの後暗文状の篦磨き。口縁部から杯下部にかけて黒斑。
高杯	32	杯部に弱い段をもつ。柱状部から裾部に移行する部分で強く屈曲して開く。	口縁部中程まで横ナデ。柱状部暗文状の篦磨き。裾部横ナデの後暗文状の篦磨き。裾部に黒斑。
高杯	33	杯部に段をもち、口縁部は内彎気味に開く。柱状部から裾部へゆるやかに移行して開く。	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。柱状部ハケ目整形の後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	34	杯部に弱い段をもち、口縁部は外反気味に開く。柱状部から裾部へ移行する部分で強く屈曲して開く。	口縁部横ナデ。柱状部ナデ。裾部横ナデか。器面が荒れている。
高杯	35	杯部の稜を篦削りによって作りだす。口縁部は外反する。柱状部は中程で膨らみはじめ裾部に移行する部分で強く屈曲して広がり、中程で強く外反し脚端部で僅かに内屈する。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	36	杯部の段を篦削りによって作りだす。柱状部から裾部へゆるやかに移行し脚端部は僅かに反る。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部篦削りの後ナデ。裾部横ナデ。
高杯	37	杯部の稜を篦削りによって作りだす。柱状部から裾部へ移行する部分で屈曲し外反する。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部ナデ。裾部横ナデ。その後全面に暗文状の篦磨き。
高杯	38	杯部に弱い段をもち口縁部は内彎気味に開き端部で立ち上がる。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	39	口縁部二段に外反する。柱状部から裾部へゆるやかに移行して開き脚端部で内屈する。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部ナデ。裾部横ナデ。その後全面に暗文状の篦磨き。
高杯	40	杯部に段をもち、口縁部内彎気味に開き端部僅かに内屈する。	口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。杯下部指ナデ。口縁部に黒斑。
高杯	41	杯部の段が鍔状に張りだす。口縁部は外反し、端部で立ち上がる。	口縁部横ナデ。杯下部ナデ。
高杯	42	杯部に段をもち、口縁端部弱い凹面を呈す。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。赤彩か。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。柱状部下端のみ指頭による押え。他は指ナデの後絞り。	A＋B＋C＋D＋E＋F	橙褐色	口径20.5 残存高15.5	杯部70%、柱状部100%残存。№11
口縁部篦磨きの可能性有り。柱状部下端のみ指頭による押え、他は指ナデの後絞り。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色 (淡褐色)	口径21.0 底径(16.2) 器高12.0	杯部60%、柱状部100%、裾部50%残存。№13
柱状部下端に指頭による押え、他は指ナデの後絞り。裾部上端に篦跡残る。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口部(20.2) 底径15.9 器高18.0	杯部40%、柱状部100%、裾部60%残存。№22
口縁部下半・杯底部ナデ。柱状部下半指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径18.3 底径13.6 器高17.3	杯部70%、脚部90%残存。№52～55
口縁部横ナデか。杯底部ナデ。柱状部指ナデ。裾部横ナデか。	A＋B＋C＋D＋E＋F	橙褐色	口径(15.0) 底径(12.9) 器高16.7	杯部40%、柱状部100%、裾部60%残存。№15
杯底部ナデ。柱状部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	淡褐色	口径18.1 底径13.6 器高17.6	杯部60%、柱状部100%、裾部70%残存。№65
杯底部不明、荒れている。柱状部下半指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径18.0 底径(13.8) 器高15.7	杯部100%、柱状部100%、裾部40%残存。№41
杯底部ナデ。柱状部絞りの後指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径17.7 底径13.0	杯部90%、柱状部100%、裾部70%残存。№10
杯下部ナデ、荒れている。柱状部上半指ナデ。以下を指頭による押え。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径18.8 残存高16.3	杯部70%、柱状部100%残存。№7、9、23
口縁部横ナデ。杯下部ナデの後暗文状の篦磨き。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径18.7 底径(12.0) 器高15.0	杯部70%、柱状部100%、裾部40%残存。№45
杯部荒れている。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径17.2 残存高 7.9	杯部90%残存。№3
杯底部不明。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径19.5 残存高 6.3	口縁部40%残存。№5
口縁部横ナデ。杯底部ナデ	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径16.7 残存高 6.8	杯部100%残存。№18

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	43	口縁部外反する。段も稜ももたない。	口縁部ハケ目整形の後横ナデ。杯下部篦削り、ハケ目整形の後ナデ。
高杯	44	口縁部と杯下部の接合痕がそのまま稜となる。	杯部全体をクシ目整形した後に口縁部上端を横ナデ。稜をナデ。
高杯	45	脚端部下方向へ肥厚。	柱状部ナデ。裾部横ナデの後暗文状の篦磨き。
高杯	46	二段に外反する裾部。	裾部上段は篦削りの後ナデ、下段横ナデの後に暗文状の篦磨き。
甕	47	口径が胴径を凌ぎ胴部は張らない。	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後ナデ。
甕	48	胴部最大径が口径を凌ぐ。やや胴部が張る。	口縁部横ナデ。胴部篦削しの後ナデ。
甕	49	口径と胴部最大径がほぼ等しく、胴部があまり張らない。口縁端部が僅かに内側に肥厚する。	口縁部横ナデ。胴部ハケ目調整。胴部下半に黒斑。

98号住居跡出土土器（第72図）

小型壺	1	球形の胴部をもち、口縁部は立ち上がり気味に外反し端部で僅かに立ちあがる。底部は上げ底。	口縁部篦削りの後横ナデ。胴部篦削りの後ナデ。底部内側をナデ。
小型壺	2	平底の底部。	胴部・底部とも篦削り。
甕	3	平底の底部。	底部篦削り。
坩	4	球形の胴部をもち、口縁部は直線的に開く。底部は平底。	口縁部横ナデ。頸部篦削り跡を残す。胴部上半ナデ、下半篦削り。
坩	5	ソロバン玉状の胴部をもち、口縁部直線的に開く。底部は上げ底。	口縁部篦削りの後横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。底部篦削り。口縁部・胴部に黒斑。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
杯底部荒れる。	A＋B＋C＋D＋E	黄褐色（橙褐色）	口径16.6 残存高 6.1	杯部70%残存。№47
口縁部をクシ目整形した後上半を横ナデ。杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径17.7 残存高 5.5	杯底部60%残存。№37
柱状部絞りの後指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋F	橙褐色	底径16.3 残存高12.5	柱状部100%、裾部80%残存。№5
裾部上段上端篦削り。	A＋B＋C＋D＋E	赤褐色	底径(18.3) 残存高 4.2	裾部30%残存。
胴部上半ナデ。下半篦ナデ。孔端部篦削り。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	黄褐色	口径19.7 底径 3.1 器高17.5	口縁部70%、胴部90%残存。№29
胴部ナデ。孔端部篦削り。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	橙褐色	口径19.5 底径 7.1 胴部最大径22.3 器高25.3	口縁部80%、胴部60%残存。№24
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴部ナデ。孔端部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	赤褐色	口径20.9 底径 6.9 胴部最大径20.3 器高24.3	口縁部・胴部90%残存。№28、30、55、

口縁部横ナデ。胴部ナデ。底部は器面剥落。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	橙褐色	口径11.2 底径 4.3 胴部最大径13.4 器高13.8	口縁部・胴部70%、底部100%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	褐色	底径 5.3 残存高 5.1	底部100%残存。
篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	褐色	底径 5.1 残存高 2.0	底部100%残存。
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径 8.9 底径 2.9 胴部最大径 8.5 器高10.0	完形。№3
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	淡褐色	口径 9.8 底径 3.2 胴部最大径 3.2 器高 8.0	口縁部90%、胴部・底部100%残存。№6

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
椀	6	ソロバン玉状の胴部をもち、口縁部は短く開く。底部は上げ底。	口縁部は横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。底部は篦削りの後指ナデ。
高杯	7	杯部に段をもつ。	口縁部上端横ナデ、以下ナデ。杯下部指ナデ。
高杯	8	柱状部から裾部へゆるやかに移行して開く。	柱状部篦削り。裾部横ナデ。
高杯	9	柱状部から裾部へゆるやかに移行して脚端部僅かに内屈する。	柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	10		杯下部指ナデ。
手捏	11	口縁部に移る部分で括れる。平底を呈す。	口縁部横ナデ。胴部・底部ともナデ。
甕	12	肩部が張らず口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。胴部不明。

100号住居跡出土土器（第74・75図）

甕	1	胴部球形を呈し、口縁部短く外反する。	口縁部横ナデ。胴部篦削り。
甕	2	口縁部の器肉厚い。	口縁部横ナデ。胴部上端から頸部にかけて粗いハケ目調整。
小型壺	3	口縁部短く内彎気味に開き端部で立ち上がる。	口縁部横ナデ。胴部ハケ目整形の後ナデ。
S字甕	4	段部が弱く口縁端部近くの内側に面をもつ。	口縁部横ナデ。胴部タシ目調整。
S字甕	5	脚台部中程が僅かに膨らむ。脚台部内側に折り返しをもつ。	胴部下端ハケ目調整。脚台部ナデ。
S字甕	6	脚台部中程が僅かに膨らむ。脚台部内側に折り返しをもつ。	脚台部上半鋸歯状にハケ目調整痕残す。下半は横ナデ。
台付甕	7	脚台部内側に折り返しをもつ。	脚台部ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴部指ナデ	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径(9.8) 底径 3.0 胴部最大径10.2 器高 6.8	口縁部10%、胴部40%、底部100%残存。
口縁部中程まで横ナデ。以下器面が剥落。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	淡褐色	口径(18.9) 残存高 5.7	杯部30%残存。
柱状部指頭による押え。巻き上げ痕残す。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径12.8 残存高 7.6	柱状部60%、裾部100%残存。No.1
柱状部上端指ナデ、以下指頭による押え。巻き上げ痕残す。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径(13.6) 残存高10.1	柱状部・裾部40%残存。No.40
杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高 2.4	杯下部 100% 残存。
胴部指ナデ。	A＋B＋C＋D	淡褐色	口径 4.5 底径 3.3 器高 5.7	完形。No. 4
胴部ナデ。	A＋B＋C＋粗砂粒	橙褐色	口径16.2 残存高15.3	口縁部60%、胴部40%残存。

胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	褐色 (淡褐色)	口径(12.4) 残存高 3.8	口縁部10%、胴上部20%残存。
口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。胴部粗いナデ。	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径(15.5) 残存高 6.8	口縁部10%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	淡褐色	口径(10.6) 残存高 3.6	口縁部20%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	黄褐色	口径13.2 残存高 3.0	口縁部30%残存。
脚台部指ナデ。接合部下面器肉と胎土・色調の異なる粘土を貼付。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	赤橙色	底径 9.3 残存高 6.5	脚台部 100% 残存。
上半指ナデ、下半横ナデ。接合部下面器肉と胎土・色調の異なる粘土を貼付。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	黄褐色	底径 9.0 残存高 6.6	脚台部 100 %残存。
接合部上面指ナデ。脚台部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	赤褐色	底径 6.6 残存高 4.3	脚台部 100% 残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
坩	8	坩形土器としては非常に大型。	篦削りの後ナデ。
脚付坩	9	口径が胴径を凌ぎ、口縁部が内彎気味に開き端部が僅かに立ち上がる坩形土器に、柱状部から裾部へゆるやかに移行して開く脚部が付く。	口縁部篦磨き。横ナデにより口縁部と胴部の境に段をつける。脚部篦磨き。口縁部と裾部に黒斑。
坩	10	胴部から口縁部にゆるやかに移行する。口縁部はゆるやかに蛇行しながら開く。	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後ナデ。
坩	11	底部は丸底。	胴部篦磨き。
坩	12	口径が胴部最大径を凌ぐ。口縁部内彎気味に開く。	口縁部横ナデ。胴部篦磨き。底部篦削り。
小型壺	13	口縁部S字状を呈す。胴部中央が張る。底部中央僅かに窪む。	口縁部横ナデ。胴部上半篦磨き、下半細かい浅いハケ目調整。底部も同様のハケ目調整。
小型壺	14	胴部最大径を胴部中央より僅かに上にもつ。	口縁部・胴部上端横ナデ。胴部篦削りの後ナデ。
坩	15	胴部最大径を胴部中央より下にもつ。口縁部直線的に開き端部で僅かに内屈する。	口縁部横ナデ。頸部ハケ目整形痕残す。胴部下端を篦削りする。他は篦磨き。
高杯	16	口径が底径を凌ぎ、小型の高杯状の形態を呈す。	器受部篦磨きの後端部近くのみ横ナデ。接合部から脚部にかけて篦削りの後ナデ。脚端部近く横ナデ。
高杯	17		ヘラ磨き。
器台	18		口縁部横ナデ。器受部篦削り
器台	19	小型器台としては大型で器肉が厚い。	器受部横ナデ。接合部から脚部にかけて篦削りの後ナデ、部分的にナデていない。脚端部横ナデ。
器台	20	器受部外反し、口縁部で垂直に立ち上がる。	口縁部横ナデ。
壺	21	底部中央僅かに窪む。	底部ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
ナデ。	A＋B＋C＋D	黄褐色	残存高 4.7	胴部20%残存。
口縁部篦磨き。胴部ナデ。柱状部篦削り。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	口径 9.2 底径 9.1 器高11.5	完形。
胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径(11.7) 残存高 4.6	口縁部・胴部20%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C	黒色	胴部最大径 6.4 残存高 4.0	胴部90%、底部100%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	赤褐色	口径 9.6 胴部最大径18.0 残存高 5.9	口縁部80%、胴部40%残存。
口縁部下半ハケ目整形の後ナデ。胴部上半ナデ、下半ハケ目調整。	A＋B＋C＋F	赤褐色	口径(11.0) 底径 3.5 胴部最大径13.2 器高11.5	口縁部40%、胴部80%、底部100%残存。
胴部上端のみ横ナデ、他はナデ。	A＋B＋C＋D＋F	赤褐色	口径(9.0) 胴部最大径 8.9 残存高 6.3	口縁部・胴部20%残存。
胴上部から中央部ナデ。下部指ナデ。	A＋B＋C＋F	淡褐色	口径27.9 胴部最大径30.5 残存高 9.6	口縁部・胴部90%残存。
器受部・脚部ともナデ。	A＋B＋C＋D	橙褐色	口径10.2 底径 8.4 器高 6.6	器受部・脚部60%残存。No.1
接合部内面ナデ。柱状部篦磨き。	A＋B＋C＋D	褐色	残存高 5.1	柱状部50%残存。
器受部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	口径(8.3) 残存高 2.2	器受部20%残存。
器受部篦ナデの後横ナデか。脚部篦削り。	A＋B＋C＋細砂粒	黄褐色 (淡褐色)	口径10.1 底径10.6 器高 9.9	ほぼ完形。
	A＋B＋C＋E＋細砂粒	黄褐色	口径(13.1) 残存高 1.4	口縁部10%残存。
ナデ。	A＋B＋C＋D	褐色	底径 6.3 残存高 3.4	底部100%残存。

106号住居跡出土土器（第77図）

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	1	口縁部外反気味に開く。杯部に弱い段をもつ。	口縁部横ナデ。杯下部・接合部篦削り。柱状部は下端を除きナデ。柱状部下端・裾部横ナデ。裾部に黒斑。
高杯	2	口縁部外反し、端部は弱い凹面を呈す。杯部に弱い段をもつ。柱状部はエンタシス状を呈す。	口縁部横ナデ。杯下部・柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	3	口縁部直線的に開く。杯部に弱い段をもつ。	口縁部・杯下部・柱状部暗文状の篦磨き。
高杯	4	口縁端部に段をもつ。杯部に段も稜ももたない。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部ナデ。柱状部下端強い横ナデ
高杯	5	口縁端部近くで僅かに内屈。杯部に弱い段をもつ。	口縁部横ナデ。段は横位の強いナデによって作る。杯下部・柱状部篦削りの後ナデ。裾部篦削りの後横ナデ。
高杯	6		柱状部不明。
高杯	7		柱状部ナデ。
高杯	8		柱状部篦削りの後ナデ。裾部篦削りの後横ナデ。
高杯	9	脚部が「ハ」字状に開く。	クシ目整形の後ナデ。下部はクシ目整形の後横ナデ。

113号住居跡出土土器（第79図）

S字甕	1	口縁部はS字状を呈すが、器壁が厚い。肩部は張る。脚台部の鋸歯状の文様は乱れ形骸化するが脚台部内面に折り返しをもつ。	口縁部横ナデ。胴部目の細かい浅いクシ目調整、下半には部分的に篦削りを残す。脚台部部分的にクシ目調整を施した後ナデ。肩部に黒斑。
S字甕	2	口縁端部僅かに立ち上がる。	口縁部横ナデ。胴上部のハケ目調整はかなり乱れる。
S字甕	3	脚台部内面に折り返しをもつ。	鋸歯状のハケ目をもつ。胴下部ナデの部分を残す。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
杯底部粗いナデ、中央のみ指ナデ。柱状部上半指ナデの後絞り、下半指頭による押え。	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径21.0 底径15.6 器高15.8	杯部60%、柱状部100%、裾部60%残存。
口縁部横ナデ。杯底部ナデと思われる。杯底部中央は指頭による押え。柱状部篦削り。	A＋B＋C＋D	橙褐色	口径(18.0) 底径12.0 器高14.9	杯部40%、柱状部100%、裾部70%残存。No.2
口縁部暗文状の篦磨き。杯底部器面が剥落して荒れているが篦磨き。柱状部上端のホゾは篦削りして後その周辺をナデ。	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径(17.6) 残存高 8.0	杯部40%残存。
口縁部横ナデ。杯底部器面が剥落して荒れている。柱状部上端指ナデの後絞り。以下は指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径18.6 残存高13.5	杯部80%、柱状部30%残存。
杯底部ナデ。杯底部中央が剥落。柱状部上半指ナデの後絞り、下半指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径18.2 残存高15.8	杯部50%、柱状部100%残存。No.3
柱状部篦削り、上端のみ指ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	残存高 8.1	柱状部80%残存。
柱状部篦削り。	A＋B＋C＋D＋F	茶褐色	残存高 7.1	柱状部100%残存。
柱状部篦削り。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	残存高 8.3	柱状部100%残存。
上半指ナデの後絞り。下半指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	底径(12.2)	
胴部S字甕特有の指ナデ様の押えを行なわず、ナデを行う。接合部両面に器壁と胎土・色調の異なる粘土を貼付。脚台部はナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋小礫	黄褐色	口径15.5 底径 9.1 胴部最大径22.3 器高28.6	口縁部100%、胴部80%、脚台部100%残存。
口縁屈曲部に篦状工具による刻み。胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋粗砂粒	灰褐色	口径(11.8) 残存高 3.9	口縁部40%、胴部上半10%残存。No.4
指ナデ。接合部両面に器壁と胎土・色調の異なる粘土を貼付。	A＋B＋C＋粗砂粒	黄褐色	底径 9.2 残存高 7.1	胴部下半30%、脚台部100%残存。No.3

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	4	杯部に段をもち器壁の薄い精製土器。	杯部篦磨き。
高杯	5		柱状部篦磨き。

114号住居跡出土土器（第81図）

小型壺	1		口縁部横ナデ。胴上部から中央部ナデ、下部篦削り。
高杯	2	「ハ」字状に開く脚部。	脚部は篦削りの後ナデ。端部のみ横ナデ。
高杯	3		柱状部篦磨き。
高杯	4	脚端部僅かに反る。	柱状部下端篦削り。裾部横ナデ。
高杯	5		柱状部篦磨き。
甕	6	底部から開いてそのまま口縁部に到る。口縁端部尖る。	胴下部のみ篦削りの後ナデ。口縁部・胴上部・中央部・底部ナデ。胴部に黒斑。
甕	7	胴部最大径を中央部にもち扁球形を呈す。	胴部上半ナデ、下半篦削り。
甕	8	上げ底を呈す。	底部ナデ。
甕	9	口縁部強く外反する。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ。
甕	10	口縁部下端が膨らむ。	口縁部横ナデ。胴部ナデ。
S字甕	11	段部が弱く、口縁部は直立気味。	口縁部横ナデ、胴部クシ目調整。
S字甕	12	脚台部内面に折り返しをもつ。	脚台部ナデ、鋸歯状のクシ目乱れる。
S字甕	13	脚台部中央が僅かに膨らむ。脚台部内面に形骸化した折り返しをもつ。	脚台部ナデ。鋸歯状に意識的に篦磨き。

内　面　の　観　察	胎　　土	色　調	法　　量	備　　考
篦磨き。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径14.1 残存高 5.5	杯部90%残存。No.5
篦削り。	A＋B＋C	橙褐色	残存高 6.2	柱状部50%残存。No.2

胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	残存高 9.6	口縁部10%、胴部30%残存。No.1
ナデ。上端部に絞り目を僅かに残す。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	底径12.2 残存高 6.7	脚部70%残存。No.5
部分的に篦削り。	A＋B＋C＋D＋E＋F	黄褐色	残存高 8.0	柱状部40%残存。
柱状部下端ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	底径(20.5) 残存高 3.5	裾部30%残存。No.5
	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高 7.6	柱状部30%残存。
口縁部・胴部上半ナデ、下半篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	橙褐色	口径13.6 底径 4.0 器高 8.9	口縁部30%、胴部60%残存。
丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	橙褐色	胴部最大径19.6 残存高18.7	胴部70%残存。No.1
底部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径 6.7 残存高 2.1	底部100%残存。
胴部上端部分的に篦削り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径18.2 残存高 5.7	口縁部70%残存。
胴上部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	橙褐色	口径15.3 残存高 4.6	口縁部70%残存。
胴部篦削りの後ナデか。	A＋B＋C＋D＋E＋小礫	赤褐色	口径13.4 残存高 4.2	口縁部20%残存。
脚台部ナデ。接合部両面に粘土を貼付、やや多めに砂粒を含むが色調は同じ。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	黄褐色	底径(10.8) 残存高 7.4	脚台部40%残存。No.3
脚台部ナデ。接合部両面に粘土を貼付、砂粒を多く含むが色調は同じ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	赤褐色	底径10.0 残存高 7.2	脚台部100%残存。No.4

123号住居跡出土土器（第83図）

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
坩	1	口縁部直線的に開く。胴部は浅い。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半箆削り。
鉢	2	口縁端部で僅かに内屈する。	口縁部横ナデ。胴部箆削りの後ナデか。
椀	3	口縁部内彎気味に開く。	口縁部横ナデか。体部箆削りの後ナデ。
坩	4	口縁部内彎する。	口縁部横ナデ。脚部ハケ目調整。頸部に箆跡。
壺	5	口縁端部近くで外折。	口縁部ハケ目整形の後横ナデ。
壺	6	上げ底を呈す。	胴部下端箆磨き。底部箆磨き。
壺	7	平底を呈す。	底部箆削り。胴部下端箆削りの後ナデ。
壺	8	底部僅かに窪む。	底部ナデ。胴部下端箆削り。
甑	9		孔端部周辺箆削り、他はナデ。孔端部ナデ。

126号住居跡出土土器（第85図）

坩	1	口縁部直線的に開き、端部で内屈。	口縁部・胴部箆磨き。胴部から口縁部の移行部にハケ目整形痕残す
坩	2	胴部から口縁部への移行部は外面は屈曲が弱く、内面は強く、稜をもつ。口縁端部は凹面を呈す。	口縁部箆削りの後横ナデ。胴部箆削り。
坩	3	口縁部内彎気味に開く。底部は丸底。	口縁部、胴部上端横ナデ。以下をハケ目調整。
坩	4	底部僅かに窪む。	胴部箆磨き。底部箆磨き。胴部から底部にかけて黒斑。
坩	5	口縁部内彎気味に開く。胴部から口縁部への移行部内面に稜をもつ。	口縁部上半横ナデ、下半箆削り。胴部箆削り。
壺	6	平底を呈す。	胴部下端箆削り。底部箆削り。

内　面　の　観　察	胎　　土	色　調	法　　量	備　　考
胴部上半横ナデ。下半ナデ。	A＋B＋C＋D	赤褐色	残存高 5.0	口縁部30%、胴部60%残存。床直。
口縁部横ナデの後筵磨き。胴部筵磨き。	A＋B＋C＋細砂粒	淡褐色	口径(14.5) 残存高 5.8	口縁部10%、胴部20%残存。床直。
口縁部ハケ目整形の後筵磨き。体部筵磨き。	A＋B＋C＋D	黒褐色	残存高 5.3	口縁部20%、体部30%残存。床直。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	茶褐色	口径 (9.7) 残存高 4.4	口縁部・胴部10%残存。
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	茶褐色	口径(12.3) 残存高 3.1	口縁部20%残存。床直。
底部ハケ目調整。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	黒褐色 (黄褐色)	底径 (4.6) 残存高 1.6	底部50%残存。床直。
ナデ。	A＋B＋C＋D	橙褐色	底径 7.5 残存高 2.9	底部 100 %残存。
ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色 (黄褐色)	底径 8.0 残存高 3.5	底部 100 %残存。
筵ナデ。	A＋B＋C＋F	橙褐色	残存高 6.0	胴下部30%残存。

口縁部筵磨き。胴部ナデ。	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径17.4 残存高 9.9	口縁部30%、胴部20%残存。№4
口縁部筵ナデ。胴部ナデ、部分的に筵ナデか。	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径11.0 器高 5.0	口縁部80%、胴部100%残存。№9
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径 8.9 胴部最大径 8.0 器高 5.6	口縁部20%、胴部70%残存。№1
ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径 2.8 残存高 3.0	胴部・底部 100 %残存。№10
胴部ナデ。	A＋B＋C	赤褐色	口径10.9 残存高 5.3	口縁部30%、胴部40%残存。№17
ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	橙褐色	底径 6.2 残存高 4.0	底部80%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	7	椀形の杯部をもつ。杯部下端に稜をもつ。脚部に3孔有す。	杯部篦磨き。杯下部から脚部上端にかけてナデ、以下を目の細かい浅いハケ目調整。
高杯	8	円柱状の柱状部をもつ。裾部に3孔有す。	柱状部・裾部篦磨き。
S字甕	9	内彎気味に開く脚台部。脚台部内面に折り返しをもつ。	胴部篦削りの後浅いハケ目調整。脚台部上部を篦削りして指ナデにより消す。
台付甕	10		胴部下端篦削り。接合部ナデ。脚台部浅いハケ目調整。

129号住居跡出土土器（第86・88図）

壺	1	口縁部直線的に大きく開く。	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後ナデ。
壺	2	胴部最大径を中央部より僅かに下にもつ。底部は突出し僅かに上げ底を呈す。	胴下部篦削りの後ナデ。胴部下端にハケ目整形痕残る。底部ナデ。
小型壺	3	口縁部直線的に開く。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ、以下は篦削り。
壺	4	胴部最大径を中央部より僅かに下にもつ。	胴部篦削りの後ナデか。底部篦削り。
坩	5	胴部最大径を中央部にもち底部は窪む。	胴部篦削り、胴部上端を口縁部と共に横ナデ。底部ナデ。
坩	6	胴部最大径を中央部より僅かに上にもつ。底部は平底。	口縁部・胴上部横ナデ、以下篦削り。底部ナデ。
坩	7	口縁部直線的に開く。胴部最大径を中央部にもち、上げ底を呈す。	口縁部横ナデ。胴上部・中央部ナデ、下部篦削り。底部ナデ。
坩	8	口縁部外反気味に開く。胴部最大径を中央部にもち、底部は僅かに窪む。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。底部ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
杯部篦磨き。脚部篦削り。	A＋B＋C	赤褐色	口径(10.2) 残存高 7.8	杯部・脚部40%残存。 No.3
柱状部絞り目残す。裾部篦削りか。	A＋B＋C	褐色	残存高 8.6	柱状部100%、裾部20%残存。No.8
ナデ。接合部下面は黒色を帯び色調を他と異にするが粘土は貼付していない。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	淡褐色	底径10.0 残存高 7.7	脚台部90%残存。 No.2
脚台部上半篦ナデ、下半浅いハケ目調整。	A＋B＋C＋粗砂粒	橙褐色	口径10.8 残存高 8.0	脚台部60%残存。 No.6

口縁部篦削りの後横ナデか。胴部指ナデ。	A＋B＋C＋D	橙褐色	口径(17.2) 残存高 8.5	口縁部40%、胴上部20%残存。No.13
胴中央部篦削り。下部ナデ。	A＋B＋C＋小礫	橙褐色 (灰褐色)	底径 3.0 胴部最大径20.5 残存高 8.9	胴部下半60%、底部100%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(12.8) 胴部最大径13.9 残存高 8.8	口縁部40%、胴部上半30%残存。No.12
胴部指ナデか。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	底径 3.4 胴部最大径16.0 残存高 6.6	胴部下半40%、底部80%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D	橙褐色	底径 2 8 胴部最大径 9.4 残存高 7.5	胴部70%、底部100%残存。No.12
胴部ナデ。	A＋B＋C	赤褐色	底径 2.8 胴部最大径 8.0	胴部70%、底部100%残存。No.12
口縁部篦削りの後横ナデ。胴部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径10.5 底径 4.4 胴部最大径 9.0 器高 8.4	口縁部50%、胴部70%、底部100%残存。
胴部上半ナデ、下半粗い篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径 (9.8) 底径 1.1 胴部最大径 9.1 器高 7.9	口縁部60%、胴部100%残存。No.3

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
坩	9	口縁部直線的に開く。	口縁部横ナデの後篦磨き。頸部篦削り。
坩	10	口縁部が直行する。最大径を胴中央部にもつ。丸底を呈す。	口縁部・胴上部横ナデ、胴中央部ナデ、下部篦削り。
高杯	11	杯部にナデによる弱い稜をもつ。	口縁部横ナデ。杯下部篦削りの後ナデ。柱状部篦削りの後ナデか。
高杯	12	柱状部下半が大きく膨らみ裾部へ移行する部分で強く屈曲して開く。	柱状部篦削りの後ナデ。柱状部下端に篦跡残る。裾部横ナデ。
高杯	13	柱状部下半が大きく膨らみ裾部へ移行する部分で強く屈曲して開く。	柱状部篦削りの後ナデ。柱状部下端に篦跡残る。裾部横ナデ。
高杯	14	柱状部下半が大きく膨らむが裾部へ移行する部分の屈曲は弱い。	柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	15		柱状部篦磨き。柱状部下端に篦先による刺突。
台付甕	16	内彎して開く脚台部。脚台部内面に折り返しをもたない。	脚台部ナデ。
台付甕	17	口縁部「く」字状に屈曲し外反する。最大径を胴部中央にもち、脚台部内面に折り返しをもたない。	口縁部横ナデ。胴上部・中央部篦削りの後ナデ、下部篦削り。脚台部ナデ。
鉢	18	底部からそのまま開いて口縁部に到る。上げ底を呈す。	口縁部・胴部篦削りの後ナデ。

130号住居跡出土土器（第90図）

壺	1	二重口縁を呈すと考えられる。	頸部ナデ。胴部ハケ目調整。
坩	2	口径が大きく、器高が小さい。頸部の屈曲は篦削りによる作りだしか。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ、以下を篦削り。
甑	3	底部からそのまま口縁部に到る。複合口縁を呈す。	口縁部指頭による押え。胴部ナデの後部分的に指頭による押え。
高杯	4	3孔を有すと思われる。	柱状部篦磨き。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴上部ナデ、中央部篦削り。	A＋B＋C＋D	橙褐色	口径（9.2） 胴部最大径(8.1) 残存高 7.4	口縁部20%、胴部30%残存。№12
胴部上端横ナデ、以下指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径（7.8） 胴部最大径 9.5 器高 9.0	口縁部30%、胴部70%、底部100%残存。№13
杯下部ナデ、部分的に篦ナデか。接合部ホゾを潰す。	A＋B＋C＋D	橙褐色	口径18.8 残存高 8.6	杯部70%残存。№2
柱状部篦削りの後上半を指ナデ。裾部上端に布目圧痕を残す。黒色有機物付着。	A＋B＋C	灰褐色	底径16.2 残存高10.7	柱状部100%、裾部90%残存。№1
柱状部篦削りの後上端をナデ。杯底部ナデ。	A＋B＋C	灰褐色	底径(15.7) 残存高11.5	柱状部100%、裾部30%残存。№8
柱状部篦削りの後上端を棒状工具の先端によるナデ。	A＋B＋C＋F	灰褐色	底径(15.8) 残存高 7.7	柱状部50%、裾部10%残存。
柱状部篦削り、上端を先の丸い棒状工具によるナデ。杯底部篦磨き。	A＋B＋C＋D	橙褐色	残存高 8.0	柱状部100%残存。№9
脚台部上半粗いナデ、下半丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D	橙褐色 （黒色）	底径12.0 残存高 8.2	脚台部70%残存。
胴部上半指ナデ、下半ナデ。接合部上面篦ナデ。脚台部上半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	褐色	口径17.7 器高29.8	口縁部・脚台部100%、胴部70%残存。№7
口縁部・胴部上半ナデ。胴部下半部分的に篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径(21.6) 底径 3.2 器高12.9	口縁部10%、胴部70%残存。

頸部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	淡褐色	残存高 7.5	頸部70%残存。
口縁部と胴部上端を横ナデ、以下はナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径13.3 器高 5.6	口縁部70%、胴部90%残存。
胴部上半ハケ目調整、下半篦削りの後指頭による押え。孔端部は篦による切り込みか。	A＋B＋C＋D	橙褐色	口径21.2 底径 5.6 器高 8.5	口縁部・胴部90%残存。
柱状部篦削りの後ナデ。杯底部ナデ。	A＋B＋C	赤褐色	残存高 5.7	柱状部50%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	5		柱状部篦磨き。
高杯	6		柱状部篦磨き。

131号住居跡出土土器（第92～100図）

壺	1	二重口縁を呈し端部が立ち上がり、弱い凹面をもつ。胴部は球形で、底部は突出して上げ底を呈す。	口縁部横ナデ。頸部ハケ目調整。胴上部篦磨き、中央部から下部にかけては篦削りし、下部はナデているが部分的にハケ目調整痕を残す。底部篦削り。
壺	2	二重口縁を呈し、口縁端部が立ち上がる。	口縁部暗文状の篦磨き。
壺	3	口縁部二段に外反する。	口縁部横ナデ。
壺	4	口縁部中程に段をもち、端部を横ナデによって平坦にする。	口縁部横ナデ。
壺	5	複合口縁を呈し端部つまみ出す。口縁部内面に横ナデによって段をつくる。胴部中央より下に最大径をもち下膨れを呈す。	口縁部横ナデ。頸部ナデ。胴部上半丁寧なナデ、下半篦削りの後ナデ。
壺	6	複合口縁を呈し、底部は突出する。作りが雑で均整がとれていない。	口縁部指頭による押えの後横ナデ。頸部篦削りの後ナデ。胴部上半篦削りの後ナデ、下半篦削り。底部周辺篦削りの後ナデ。
壺	7	複合口縁を呈し、肩部が張る。	口縁部指頭による押えの後横ナデ。頸部ナデ。胴部篦削りの後ナデ。
壺	8	複合口縁を呈す。	口縁部指頭による押えの後横ナデ。頸部篦削りの後ナデ。
壺	9	口縁部外反する。	口縁部横ナデ。
壺	10	口縁部僅かに外反する。	口縁部横ナデ。頸部・胴部削りの後ナデ。
壺	11	口縁部は外反し端部は弱い凹面を呈す。口縁部中程に凹線をもつ。胴部は中央に最大径をもち、底部が突出し上げ底を呈す。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ、中央部ハケ目整形の後ナデ、下部篦削り。底部周辺指頭によるナデ。底部ナデ。胴中央部に黒斑。
壺	12	底部僅かに上げ底を呈す。	胴部篦磨き。底部周辺を篦削り。底部篦削りの後ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
柱状部篦削り。	A＋B＋C＋D	赤褐色	残存高 7.9	柱状部60%残存。
柱状部篦削りの後ナデ。杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D	淡褐色	残存高10.1	柱状部70%残存。

頸部ハケ目調整。胴部上半ナデ、下半篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径19.4 底径 7.0 胴部最大径25.5 器高32.0	口縁部・頸部100%、胴部70%残存。
口縁部暗文状の篦磨き。	A＋B＋C＋細砂粒	灰褐色	口径21.8 残存高 4.9	口縁部70%残存。
	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	橙褐色	口径25.0 残存高 7.6	口縁部20%残存。焼成良好。
	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径22.3	口縁部60%残存。
頸部ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	茶褐色	口径21.8 胴部最大径42.4 残存高32.8	口縁部・頸部100%、胴部40%残存。
頸部篦削りの後ナデ。胴部上端指ナデ、上半篦削り、下半粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	橙褐色	口径13.8 底径（6.0） 器高22.6	口縁部100%、胴部60%、底部20%残存。
頸部ナデ。胴部粗い篦削り。	A＋B＋C＋D＋E	茶褐色	口径(14.6) 残存高12.1	口縁部・頸部20%、胴部上半80%残存。
頸部篦ナデ。胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径17.9 残存高 6.2	口縁部80%残存。
	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径(22.0) 残存高 5.2	口縁部20%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(17.2) 残存高 9.5	口縁部50%、胴上部20%残存。
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴上部ナデ、中央部篦先による細かいナデの後篦削り、下部篦削りの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径19.4 底径 7.4 胴部最大径28.7 器高33.8	口縁部90%、胴部70%、底部80%残存。焼成良好。
胴部ナデ。底部ハケ目調整。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	茶褐色	底径 7.0 残存高13.0	胴部下半20%、底部100%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
台付甕	13	胴中央部が強く張り出す。やや作りが雑。	胴上部篦削りの後ナデ、中央部指ナデ。胴下部篦削りの後ナデ。
小型壺	14	口縁部内彎気味に開く。	不明。
坩	15	口縁部は短く立ち上がる。底部は丸底。	口縁部横ナデ。体部篦削りの後ナデ。
坩	16	口縁部直線的に開く。胴部が浅い。	口縁部上半横ナデ、下半ナデ。胴部篦削り、上端のみナデ。
坩	17	口縁部直線的に開く。底部僅かに窪む。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。
坩	18	平底を呈す。	胴上部・中央部ナデ、下部篦削り。底部篦削り。
坩	19	胴部僅かに下膨れを呈し、底部は上げ底。	口縁部横ナデ。胴上部・中央部ナデ、下部篦削り。
無頸壺	20	肩部が張り、口縁部に対峙して2孔を有す。底部は丸底。	口縁部横ナデ。胴部篦削り。底部篦削り。胴部下半に黒斑。
杯	21	口縁部短く外反する。底部は突出気味で平底を呈す。	口縁部・体部上端横ナデ。体部・底部ナデ。
鉢	22	口縁部外反する。底部上げ底を呈す。	口縁部横ナデ。胴部上半ハケ目整形の後部分的に篦削りしてナデ、下半篦削り。
手捏	23	坩と思われる。体部から口縁部へは粘土の接合痕を残して段を呈す。底部は平底。	口縁部横ナデ。体部・底部篦削りの後ナデ。
手捏	24	底部は平底であるがきわめて雑。底部からそのまま口縁部に至る。	口縁部・体部指ナデ。体部下端・底部篦削り。
手捏	25	底部からそのまま口縁部に到る。底部は平底。	口縁部・体部・底部ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
胴上部篦ナデ、中央部指ナデ、下部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	橙褐色	胴部最大径28.0 残存高23.4	胴部40%残存。
不明。	A＋B＋C	橙褐色	口径13.5 残存高 8.0	口縁部60%残存。
体部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	淡褐色	口径（4.6） 器高 2.4	口縁部10%、体部100%残存。
口縁部横ナデ。胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	赤褐色	口径(12.8) 残存高 5.0	口縁部20%、胴部10%残存。
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径 9.0 底径 2.6 器高 7.6	口縁部90%、胴部80%残存。
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	底径 2.5 胴部最大径 8.9 残存高 5.9	胴部70%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋粗砂粒	赤褐色	底径 2.8 胴部最大径 7.7 残存高 5.9	胴部 100 %残存。
胴部上半ナデ、下半篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋粗砂粒	橙褐色	口径 5.1 器高 8.1	完形。
体部ナデ。	A＋B＋C＋粗砂粒	橙褐色	口径(10.8) 底径 4.0 器高 7.3	口縁部30%、体部60%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D	黒褐色	口径(14.4) 底径 1.8 器高 9.9	口縁部50%、胴部60%残存。
体部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径 6.1 底径 2.4 器高 4.9	口縁部70%、体部100%残存。
口縁部・体部粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	褐色	口径 9.2 底径 5.6 器高 4.1	70%残存。
口縁端部指頭による押え。体部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	口径（5.6） 底径 3.4 器高 3.0	口縁部40%、体部70%、底部100%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
手捏	26	底部からそのまま口縁部に到る。底部は平底	口縁指指頭による押え。体部・底部篦削り。
甕	27	底部からそのまま口縁部に到る。口縁部は内側に肥厚する。	口縁部横ナデ。胴部はナデであるが下端のみ篦削り。底部ナデ。
器台	28	器受部直線的に開く。器肉が厚い。	器受部横ナデ。
高杯	31	口縁部直線的に開く。杯部に明瞭な稜をもつ。接合部が細く窄まり大きく開く。	杯部横ナデ。杯下部篦削りの後ナデ。柱状部ナデ。
高杯	32	口縁部直線的に開き、杯部に明瞭な稜をもつ。	口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。杯下部篦削り。柱状部暗文状の篦磨き。裾部横ナデの後暗文状の篦磨き。
高杯	33	口縁部直線的に開き、杯部に篦削りによる明瞭な稜をもつ。接合部が窄まり細い。	口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。杯下部篦削り。柱状部暗文状の篦磨き。裾部横ナデの後暗文状の篦磨き。
高杯	34	口縁部直線的に開き、杯部に篦削りによる明瞭な稜をもつ。接合部が窄まり細く、柱状部から裾部へ移行する部分の屈曲が強い。	口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。杯下部篦削り。柱状部上部を残し暗文状の篦磨き。裾部横ナデの後篦磨き。
高杯	35	口縁部直線的に開く。杯部に篦削りによる明瞭な稜をもつ。接合部が窄まり細い。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部ナデ。
高杯	36		杯下部ナデ。柱状部ナデ、裾部横ナデの後暗文状の篦磨き。
高杯	37	口縁部直線的に開く。裾部は柱状部からの移行部で強く屈曲して水平に開く。	口縁部篦削りの後横ナデして暗文状の篦磨き、部分的にハケ目整形痕が残る。杯下部篦削り。柱状部暗文状の篦磨き、部分的にハケ目整形痕残す。裾部横ナデの後暗文状の篦磨き。
高杯	38	口縁部外反気味に開く。杯部の稜は弱い。裾部は柱状部からの移行部で強く屈曲して水平に開く。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り、部分的にナデ。柱状部篦磨き。裾部横ナデ。
高杯	39	口縁部直線的に開き、杯下部の径が小さい。	口縁部篦削りの後上端のみ横ナデ。杯下部篦削り。柱状部篦削り。
高杯	40	杯部に稜をもつ。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部篦削り。裾部横ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
指ナデか。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	褐色	口径 5.6 底径 3.4 器高 3.7	口縁部10%、体部40%、底部100%残存。
胴部丁寧な篦ナデ。孔端部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	黄褐色	口径(21.0) 底径 (5.0) 器高 9.9	口縁部40%、胴部30%、底部90%残存。
脚部篦削り。	A＋B＋C＋D＋E＋F	橙褐色	口径(10.8) 残存高 5.2	器受部50%残存。
底部ナデか。柱状部上半指ナデ、下半ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径19.9 残存高15.3	杯部40%、柱状部100%残存。
杯底部ナデか。柱状部篦削りするが上端に絞り目残す。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋F	淡褐色	口径17.7 底径14.1 器高16.6	杯部70%、柱状部100%、裾部20%残存。
杯底部器面が剥落して荒れている。柱状部篦削り。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	口径18.9 底径14.5 器高16.0	杯部60%、柱状部100%、裾部40%残存。
杯底部篦磨き。柱状部篦削りするが、上端に絞り目残す。	A＋B＋C＋F＋細砂粒	茶褐色	口径19.4 底径(15.6) 器高16.3	口縁部60%、柱状部100%、裾部50%残存。
杯底部篦磨き。柱状部篦削りするが、上端に絞り目残す。	A＋B＋C＋F＋細砂粒	淡褐色	口径19.2 残存高13.5	口縁部80%、柱状部30%残存。
杯底部篦磨き。柱状部篦削り。	A＋B＋C＋F	茶褐色	残存高 9.9	柱状部 100 %残存。
杯底部ナデ。柱状部指ナデの後粗いナデ。先の割れた棒状工具による掻痕あり。	A＋B＋C＋F＋細砂粒	橙褐色	口径18.5 底径15.0 器高16.4	杯部60%、柱状部100%、裾部90%残存。
杯底部ナデ。柱状部指ナデの後上半のみをナデる。	A＋B＋C＋細砂粒	黄褐色	口径19.8 底径(14.5) 器高15.8	杯部70%、柱状部100%、裾部20%残存。
口縁部横ナデ。杯底部ナデ。柱状部篦削り。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	橙褐色	口径(19.8) 残存高14.0	杯部40%、柱状部70%残存。
杯底部ナデ。柱状部篦削り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	底径13.3 残存高13.5	杯部30%、柱状部100%、裾部50%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	41	篦削りによって杯部に段をつくりだす。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部ナデ。部分的に目の細かいハケ目整形痕を残す。
高杯	42	口縁部内彎気味に開き、段をもつ。柱状部は太く大きい。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。柱状部ナデ。上部にクシ目状の擦痕を残す。
高杯	43	杯部に段をもつ。柱状部から裾部へゆるやかに移行して中程で水平に開く。	杯下部篦削り。柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	44	杯部が浅く、篦削りにより弱い稜を作り出す。	口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。杯下部指ナデの後稜の近くを篦削り。柱状部暗文状の篦磨き。
高杯	45	杯部が浅く、段も稜ももたない。	口縁部横ナデ。杯下部篦削りの後ナデ。
高杯	46	口縁部外反気味に開き、稜を篦削りによって作り出す。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。口縁部に黒斑。
高杯	47	口縁部直線的に開き、稜を篦削りによって作り出す。	口縁部横ナデ。杯下部篦削りの後ナデ。
高杯	48	口縁部外反気味に開き、杯部に弱い段をもつ。器壁が薄い。	口縁部横ナデ。杯下部篦削り。
高杯	49	口縁部外反気味に開き、杯部の稜を篦削りによって作りだす。	口縁部篦削りの後横ナデ。杯下部篦削りの後ナデ。
高杯	50	口縁部外反気味に開き、杯部に段をもつ。	口縁部横ナデ。杯下部ハケ目整形の後ナデ。口縁部に黒斑。
高杯	51	杯部の稜を篦削りによって作り出す。	口縁部篦削りの後横ナデ。杯下部篦削りの後ナデ。口縁部に黒斑。
高杯	52	杯部の稜を篦削りによって作り出す。	口縁部横ナデ。部分的に篦削り。
高杯	53		口縁部篦削りの後横ナデして暗文状の篦磨き。杯下部暗文状の篦磨き。
高杯	54	杯部篦削りによって稜を作りだすが稜が弱い。	口縁部篦削りの後横ナデして篦磨きするが粗密がある。杯下部篦削りの後ナデて篦磨き。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。部分的に目の細かいハケ目整形痕を残す。杯底部暗文状の篦磨き。柱状部ナデ、上端にのみ絞り目を残す。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	口径17.6 底径14.1 器高15.7	杯部70%、柱状部100%、裾部30%残存。
口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。杯底部ナデ。柱状部篦削り。上端にのみ絞り目残す。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	淡褐色	口径19.8 残存高15.1	杯部80%、柱状部100%残存。
杯底部篦ナデの後ナデ。柱状部篦削りの後上半を指ナデしてホゾの頭を潰す。	A＋B＋C＋D	黄褐色	底径14.0 残存高12.9	杯部20%、柱状部100%、裾部30%残存。
口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。柱状部篦削り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(18.4) 残存高15.8	杯部40%、柱状部70%残存。
杯底部ナデ。柱状部篦削り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径(20.4) 残存高12.7	杯部40%、柱状部80%残存。
口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。杯底部暗文状の篦磨き。杯部の器面が剥落。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	黄褐色 (橙褐色)	口径19.7 残存高 5.7	杯部90%残存。
杯底部ナデ。	A＋B＋C＋細砂粒	茶褐色	口径(18.0) 残存高 5.6	杯部40%残存。
杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	茶褐色	口径18.4 残存高 7.0	杯部90%残存。焼成良好。
口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。杯底部ナデ。	A＋B＋C＋F＋細砂粒	淡褐色	口径17.4 残存高 6.0	杯部80%残存。
口縁部篦ナデの後横ナデ。杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	黄褐色	口径20.2 残存高 6.6	杯部90%残存。
口縁部横ナデ。杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	黄褐色	口径18.5 残存高 6.9	杯部90%残存。
口縁部横ナデ。杯底部篦ナデの後横ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	赤褐色	口径(19.6) 残存高 5.7	杯部50%残存。
口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径16.0 残存高 4.9	杯部60%残存。
口縁部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径14.4 残存高 4.5	口縁部30%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	55		柱状部篦磨き。
高杯	56		柱状部ナデ。
高杯	57		柱状部暗文状の篦磨き。
高杯	58	脚端部が上方向に肥厚する。	柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	59		柱状部篦磨き。裾部横ナデ。
高杯	60		柱状部ナデ。裾部横ナデ。
甕	61	口縁部下半が膨らみ外反気味に開き、端部で僅かに内屈する。最大径を胴中央部にもち、平底を呈す。	口縁部指頭による押えの後横ナデ。胴上部、中央部はナデるが粘土接合痕を残し部分的に篦削りする。胴下部は篦削りするが底部周辺は指ナデ。底部は篦削りして薄く仕上げる。
甕	62	口縁部下半が膨らみ外反する。	口縁部指頭による押えの後横ナデ。胴部上半ナデているが粘土接合痕を残す。下半指ナデの後篦削り。
甕	63	頸部で強く屈曲し、頸部内面に鋭い稜をもつ。胴部の器肉が薄い。	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後ナデ。
甕	64	口縁部下半が膨らみ外反する。口縁内面は横ナデによって段がつく。	口縁部指頭による押えの後横ナデ。胴部上半はナデ、粘土接合痕は然程みられない。胴部下半篦削り。
甕	65	口縁部は頸部で強く屈曲して外反する。口縁部の器肉厚く、作りが雑。	口縁部横ナデ。頸部に篦跡残す。胴部上端はナデ、以下は粗い篦削り。
甕	66	口縁部下半が膨らみ、弱い段をもつ。全体的に薄く丁寧に作られている。	口縁部横ナデ。胴部上端ナデ、以下は篦削り。
甕	67	口縁部外反し、端部が僅かに立ち上がる。	口縁部横ナデ。胴上部篦削りの後粗いナデ。中央部篦削り。
甕	68	口縁部外反する。	口縁部横ナデ。胴上部篦削り。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
柱状部上半絞り目残す。下半ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	残存高 9.8	柱状部70%残存。
柱状部上半指ナデの後絞り、下半篦削り。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	残存高10.3	柱状部100%残存。
柱状部上半指ナデの後絞り。下半はナデ。柱状部下端は指頭による押えを残す。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	残存高11.2	柱状部60%残存。
柱状部指ナデ、下端に指頭による押え残す。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	底径13.7 残存高 9.5	柱状部100%、裾部80%残存。
柱状部篦削り。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	橙褐色	底径(13.0) 残存高14.2	柱状部100%、裾部30%残存。
柱状部上半指ナデの後絞り。下半ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	淡褐色	底径(13.9) 残存高10.2	柱状部100%、裾部40%残存。
胴部丁寧なナデ。粘土接合痕をほとんど残さない。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	淡褐色	口径(16.7) 底径 6.4 胴部最大径23.2 器高25.5	口縁部40%、胴部70%、底部80%残存。
口縁部篦ナデの後横ナデ。胴部上半篦ナデ、下半ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径16.5 胴部最大径24.3 残存高21.1	口縁部90%、胴部60%残存。
口縁部篦ナデの後横ナデ。胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	橙褐色	口径(21.8) 残存高 8.9	口縁部20%残存。
頸部・胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D	橙褐色	口径13.6 胴部最大径18.7 残存高12.9	口縁部90%、胴部40%残存。
口縁部篦ナデの後横ナデ。胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	橙褐色	口径15.9 残存高 7.5	口縁部100%、胴上部40%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(15.2) 残存高 8.1	口縁部30%、胴上部40%残存。
口縁部篦ナデの後横ナデ。胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	口径14.6 胴部最大径24.7 残存高15.2	口縁部70%、胴部60%残存。
胴上部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	橙褐色	口径(16.8) 残存高 8.2	口縁部30%、胴上部20%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
甕	69	口縁部外反し、頸部内面に鋭い稜をもつ。	口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴上部篦削り。
甕	70	口縁部外反する。	口縁部横ナデ。胴部上端篦削り。
甕	71	口縁部外反する。最大径を胴中央部にもつ。上げ底を呈す。ドーナツ状の粘土を貼付したものか。	口縁部横ナデ。胴部木口状工具によるナデか、ハケ目はない。底部ナデ。
甕	72	口縁部外反し、肩部が僅かに張る。	口縁部横ナデ。胴上部ナデ、中央部篦削り。
甕	73	口縁部外反し、胴部は球形で、平底を呈す。	口縁部・胴部上端横ナデ。胴部篦削り。底部篦削り。
甕	74	口縁部下半が膨らみ、外反する。	口縁部横ナデ。胴上部篦削り。
甕	75	口縁部外反気味に開く。	口縁部・胴部上端横ナデ。胴上部ナデ、中央部篦削り。
甕	76	口縁部外反気味に開く。胴部球形を呈す。	口縁部横ナデ。胴部篦削り。
壺	77	口縁部外反する。上げ底を呈す。ドーナツ状の粘土を貼付したものと思われる。	口縁部横ナデ。胴部全体を篦削りした後ナデと思われるが中央部のみに残す。
壺	78	口縁部の器肉が厚く、中程で膨らむ。	口縁部横ナデ。
壺	79	口縁部外反気味に開く。	口縁部・胴部上端横ナデ。胴上部篦削り。
甕	80	口縁部外反し、長胴を呈す。	口縁部・胴部やや粗いハケ目調整。胴部下半は摩滅が著しい。底部篦削り。
台付甕	81	脚台部は内彎気味に開く。脚端部が肥厚する。脚台部内面に粘土接合痕を残す。	胴部下半篦削り。脚台部は端部周辺を篦削りするが他はナデ。
台付甕	82	脚台部の背が低く、底径が大きい。脚台部内面に粘土接合痕を残す。	胴下部篦削り。脚台部は端部周辺を篦削りするが他はナデ。
台付甕	83	器高が低く、底径が大きい。作りは雑である。	粗いナデ。器面に凹凸が多い。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
口縁部ハケ目整形の後横ナデ。胴上部丁寧なナデ。	A＋B＋C	橙褐色	口径13.2 残存高 5.4	口縁部60%、胴上部10%残存。
口縁部篦ナデの後横ナデ。胴部上端ナデ。	A＋B＋C＋粗砂粒	橙褐色	口径(15.5) 残存高 3.4	口縁部20%残存。
口縁部篦ナデの後ナデ。胴部上半篦ナデ、下半ナデ。	A＋B＋C＋D＋小礫	橙褐色	口径(17.4) 器高26.2	口縁部20%、胴部70%、底部100%残存。
頸部指頭による押え。胴上部ナデ、中央部篦削り。部分的に篦削りの後篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	口径15.2 胴部最大径21.3 残存高18.0	口縁部60%、胴部上半60%残存。
胴部は粘土接合痕を部分的に残すが、丁寧にナデている。	A＋B＋C＋F 精選されている。	橙褐色	口径(14.3) 底径 4.4 胴部最大径17.2 器高16.4	口縁部10%、胴部70%、底部80%残存。 焼成良好。
口縁部篦ナデの後横ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	橙褐色	口径17.7 残存高 7.1	口縁部90%、胴上部30%残存。
胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(19.2) 残存高12.5	口縁部40%、胴上部30%残存。
口縁部篦ナデの後横ナデ。胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	口径11.8 胴部最大径15.7 残存高12.6	口縁部80%、胴部60%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	口径(15.5) 器高27.0	口縁部40%、胴部60%、底部100%残存。
	A＋B＋C＋D	橙褐色 (淡褐色)	口径(19.0) 残存高 5.5	口縁部40%残存。
胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径25.2 残存高12.0	口縁部70%、胴上部60%残存。
頸部のみ篦削り。他はやや粗いハケ目調整。	A＋B＋C＋D＋F＋粗砂粒	黄褐色 (灰褐色)	口径19.0 器高27.4	口縁部・胴部・底部50%残存。
胴部下半ナデ。脚台部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	橙褐色	底径 9.2 残存高17.8	胴下半部40%、脚台部100%残存。
胴下部ナデ。脚台部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	橙褐色	底径11.0 残存高12.5	胴下部30%、脚台部100%残存。
底部篦ナデか。脚台部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	底径 8.8 残存高 5.3	脚台部100%残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
台付甕	84	脚端部内面に折り返しをもたない。	ナデ。
台付甕	85	脚端部内面に折り返しをもたない。	ハケ目整形の後ナデ。部分的にハケ目整形痕を残す。
S字甕	86	脚端部内面に折り返しをもつ。	胴部下端ハケ目調整。脚台部細かいハケ目調整、胴部と工具が違う。
S字甕	87		脚台部にハケ目調整痕を鋸歯状にナデ消して残すが乱れている。
S字甕	88	脚端部内面に折り返しをもつ。	脚台部にハケ目調整痕を鋸歯状にナデ消して残す。

133号住居跡出土土器（第102図）

高　杯	1	口縁部外反気味に開く。杯部の段は弱い。	口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。杯下部粗いハケ目整形の後ナデ。段直下は篦削り。柱状部粗いハケ目整形の後ナデ。

134号住居跡出土土器（第103図）

壺	1	口縁部外反する。胴部最大径を中央部より僅かに下にもつ。	口縁部粗いクシ目整形の後横位の篦磨き。胴部粗いクシ目整形の後篦磨き。
S字甕	2	口縁部の屈曲が弱く、端部が僅かに立ち上がる。	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後ハケ目調整、胴下部部分的にハケ目不鮮明。
S字甕	3		胴部ハケ目調整。脚台部ハケ目を鋸歯状に残す。

135号住居跡出土土器（第105図）

坩	1		口縁部横ナデ。
高　杯	2	杯部に稜をもつが弱い。	口縁部横ナデか。杯下部篦削りの後ナデか。柱状部不明。
高　杯	3	杯部に段をもつ。	不明。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	赤褐色	底径 8.6 残存高 6.4	脚台部100％残存。
底部指ナデ。脚台部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	茶褐色	底径 8.6 残存高 6.4	脚台部100％残存。
底部篦ナデの後黒色味の強い細砂粒を多く含む粘土を貼付する。脚台部ナデ。接合部に砂粒を多く含み、黒色味の強い粘土を貼付する。折り返しは指頭による押え。	A＋B＋C＋粗砂粒	黄褐色	底径 9.2 残存高 8.3	脚台部100％残存。
接合部の両面に砂粒を多く含む粘土を貼付。脚台部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	残存高 4.8	脚台部40％残存。
脚台部ナデ。折り返しは、指頭による押え。接合部に砂粒を多く含み、黒色味の強い粘土を貼付したと思われる。	A＋B＋C＋粗砂粒	橙褐色	底径 8.0 残存高 5.9	脚台部40％残存。

口縁部粗いハケ目整形の後横ナデ。杯底部粗いハケ目整形の後ナデ。柱状部篦削り。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	赤褐色	口径18.4 残存高13.0	杯部90％、柱状部100％残存。№15

口縁部粗いクシ目整形の後篦磨き。胴上部篦削り、以下は篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	黄褐色（橙褐色）	口径15.0 胴部最大径29.2 残存高24.0	口縁部100％、胴部50％残存。
胴上部指ナデ様の押え。中央部・下部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	褐色	口径13.8 胴部最大径19.3 残存高18.8	口縁部・胴部100％残存。焼成良好。
胴部丁寧なナデ。接合部両面に砂粒を多く含み黒色を帯びた粘土を貼付。	A＋B＋C＋F＋粗砂粒	褐色	残存高13.9	胴下半部30％、脚台部20％残存。№1

	A＋B＋C＋D＋F	赤褐色	残存高 3.1	口縁部20％残存。
杯下部ナデ。柱状部ホゾの周辺ナデ、以下は指ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	残存高 7.7	杯部20％、柱状部30％残存。
柱状部指ナデ。	A＋B＋C＋F	橙褐色	残存高 5.5	杯下部50％、柱状部20％残存。

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	4		不明。
S字甕	5	段部が弱く凹線をもつ。	口縁部横ナデ。
S字甕	6	段部が弱く直下に凹線もをつ。	口縁部横ナデ。胴部クシ目調整。
S字甕	7	脚台部の鋸歯状のハケ目が乱れているが、脚端部内面に折り返しをもつ。	脚台部ハケ目調整の後ナデてハケ目を鋸歯状に残す。
S字甕	8	脚台部の鋸歯状のハケ目は乱れていないが、脚端部内面の折り返しが弱い。	脚台部ハケ目調整の後ナデてハケ目を鋸歯状に残す。
台付甕	9	脚台部直線的に開く。	脚台部ハケ目調整の後ナデ。

136号住居跡出土土器（第107～111図）

壺	1	口縁部外反し端部が平坦。胴部は球形を呈し、底部は平底。	口縁部横ナデ。頸部・胴部上端ハケ目整形の後ナデ。胴上部篦削りの後ナデ。胴中央部・下部粗い篦削り。底部周辺指ナデ。底部篦削り。
壺	2	口縁部外反する。端部は横ナデにより弱い凹面を呈す。	口縁部ハケ目整形の後ナデ。
壺	3	口縁部外反し端部が肥厚する。胴中央部に最大径をもつ。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。
壺	4	口縁部外反する。最大径を胴部中央にもつ。底部は粘土をドーナツ状に貼付して弱い上げ底を呈す。	口縁部篦削りの後横ナデ。胴部は中央部と下部を部分的に篦削りするが他はナデ。底部ナデ。
壺	5	口縁部外反する。最大径を胴部中央にもつが張りが強くない。底部は粘土をドーナツ状に貼付して弱い上げ底を呈す。	口縁部横ナデの後胴部上端から頸部にかけて篦削り。胴部篦削り。底部と周辺部ナデ。
小型壺	6	口縁部外反気味に開く。端部に段をもつ。	口縁部篦削りの後横ナデ。胴部篦削り。上端のみ篦削りの後ナデ。
小型壺	7	口縁部直線に開く。胴部の張りが弱い。	口縁部ナデ。胴部上半篦削りの後ナデ、下半篦削り。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
柱状部指ナデ。	A＋B＋C＋F	橙褐色	残存高 3.4	柱状部20%残存。
	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	黄褐色	口径(16.4) 残存高 2.5	口縁部10%残存。
	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	口径(16.4) 残存高 (2.3)	口縁部10%残存。
脚台部指ナデ。折り返しは指頭による押え。接合部下面から黒色を帯びた粘土を貼付。上面にはほとんど認められない。	A＋B＋C＋D＋F＋粗砂粒	黄褐色	底径 (8.4) 残存高 6.5	脚台部30%残存。
脚台部指ナデ。接合部上面は白色を帯びた、下面は灰色を帯びた粘土を貼付。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	底径 (8.6) 残存高 5.2	脚台部40%残存。
脚台部上半指ナデ、下半ハケ目調整。	A＋B＋C＋D＋F＋粗砂粒	赤褐色	底径 (8.0) 残存高 4.7	脚台部50%残存。

頸部にハケ目整形痕残す。口縁部横ナデ。胴部篦ナデ。底部ハケ目調整。	A＋B＋C＋小礫	橙褐色	口径17.7 底径 7.3 胴部最大径28.3 器高30.5	口縁部90%、胴部70%残存。No.57、58、67 焼成良好。
口縁部横ナデ。	A＋B＋C＋D＋E＋細砂粒	橙褐色	口径15.0 残存高 5.0	口縁部100%残存。No.33 焼成良好。
口縁部横ナデ。胴部ナデ。	A＋B＋C＋F	黄褐色	口径10.2 胴部最大径35.2 残存高29.1	口縁部50%、胴部40%残存。No.4、9、10、13、14
口縁部横ナデするが部分的に粘土接合痕を残す。胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	口径16.5 底径 7.4 器高32.6	口縁部70%、胴部60%、底部100%残存。No.49
口縁部篦ナデの後横ナデ。胴部丁寧なナデ。底部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色 (黒 色)	口径16.4 底径 6.1 胴部最大径24.8 器高29.3	口縁部・胴部90%、底部100%残存。
口縁部横ナデ。胴部丁寧なナデ。上端のみ部分的に篦削り。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	褐色	口径13.3 胴部最大径15.8 残存高17.6	口縁部90%、胴部50%残存。No.55
口縁部篦ナデ。胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	口径(12.4) 胴部最大径15.5 残存高17.1	口縁部20%、胴部50%残存。No.39

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
小型壺	8	口縁部外反する。底部は粘土を貼付して作っている。	口縁部横ナデ。胴上部はナデ、中央部・下部は篦削り。赤彩
小型壺	9	口縁部外反する。	口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。胴上部・中央部ナデ、下部篦削り。口縁部と胴中央部に黒斑。
小型壺	10		胴部上半暗文状の篦磨き、下半篦削り。
坩	11	口縁端部近くに横ナデによって段をつける。底部は丸底。	口縁部・胴部上端横ナデ。胴部篦削り。胴部から口縁部にかけて黒斑。
坩	12	口縁部僅かに立ち上がって開く。底部僅かに窪む。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。底部篦削りの後ナデ。
坩	13	口縁部内彎気味に開く。底部は丸底。	口縁部篦削りの後横ナデ。胴部上半丁寧なナデ、下半篦削りの後ナデ。
坩	14	口縁端部で僅かに内屈する。底部弱い上げ底を呈す。口径と胴部最大径がほぼ等しい。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。
坩	15	口縁部直線的に開く。胴中央部が強く張る。底部は平底。	口縁部横ナデ。胴部上半縦位の篦削りの後ナデ、下半横位の篦削り。底部篦削り。
坩	16	口縁部直線的に開き端部が平坦。底部は平底。作りが雑である。	口縁部横ナデ。胴部ナデ。底部篦削り。
坩	17	口縁部外反。底部は丸底。口径と胴部最大径がほぼ等しい。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半篦削り。
坩	18	口縁部外反。底部は丸底。胴部最大径が口径を凌ぐ。	口縁部横ナデ。胴上部・中央部ハケ目整形の後ナデ、下部篦削り。
高杯	19	裾部で強く屈曲して水平に開く。	杯下部ナデ。柱状部篦磨き。裾部横ナデの後暗文状の篦磨き。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
口縁部篦ナデの後横ナデ。胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋小礫	淡褐色	口径12.0 底径 4.0 器高12.6	口縁部90%、胴部・底部100%残存。No.63
口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	赤褐色	口径13.1 胴部最大径17.1 残存高15.6	口縁部90%、胴部70%残存。No.50
胴部丁寧なナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	胴部最大径13.3 残存高 7.9	胴部100%残存。No.7 焼成良好。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径（9.3） 器高 8.9	口縁部20%、胴部70%残存。No.64
胴部粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径 9.4 底径 3.0 胴部最大径 9.4 器高 9.2	完形。No.44
胴部やや粗いナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径 9.5 胴部最大径 9.2 器高 9.3	口縁部60%、胴部70%残存。No.51
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋E	橙褐色	口径 9.4 底径 1.8 胴部最大径 8.7 器高 8.6	口縁部90%、胴部100%残存。No.32
口縁部篦ナデの後横ナデ。胴部指ナデ。	A＋B＋C＋D＋F＋粗砂粒	赤褐色	口径 9.0 底径 3.6 胴部最大径10.6 器高 8.5	口縁部90%、胴部・底部100%残存。No.26 焼成良好。
胴部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径（8.2） 底径 3.3 胴部最大径 8.7 器高 9.0	口縁部30%、胴部100%残存。No.37
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	黄褐色	口径 7.5 胴部最大径 7.4 器高 6.8	口縁部90%、胴部100%残存。No.2
胴部上半ナデ、下半指ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径 3.6 胴部最大径 7.8 器高 7.4	口縁部70%、胴部100%残存。No.66
柱状部上半絞り目残す。下半やや粗いナデ。	A＋B＋C＋F	橙褐色	底径15.0 残存高11.7	杯下部40%、柱状部100%、裾部30%残存。No.54、55

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
高杯	20		柱状部篦磨き。
高杯	21	杯部に稜をもつ。脚部が小さいわりに杯部が深く大きい。柱状部から裾部へは鋭く屈曲するが、裾部は膨らんで開く。	口縁部横ナデ。杯下部篦削りの後部分的にナデ。柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	22		柱状部篦磨き。
高杯	23		接合部篦削りの後ナデ。柱状部篦削りの後ナデ。裾部篦削りの後横ナデと思われるが共に暗文状の篦磨きの可能性がある。
高杯	24	杯部に稜をもつ。口縁部は直線的に開く。柱状部からゆるやかに裾部に移行して開く。	口縁部篦削りの後上端のみ横ナデ。杯下部・柱状部篦削り。裾部横ナデ。
高杯	25	柱状部から裾部へゆるやかに移行する。	柱状部ナデ。裾部横ナデ。
高杯	26	杯部に弱い段をもつ。柱状部は短い。	口縁部横ナデ。杯下部・柱状部ナデ。
高杯	27	ほぼ円柱状の柱状部を呈すが僅かに下端が開く。	杯下部ハケ目整形の後篦削り。柱状部ハケ目整形の後ナデ。
高杯	28		杯下部篦削りの後ナデ。柱状部篦削りの後ナデ。暗文状の篦磨きの可能性あり。裾部横ナデ。
高杯	29		柱状部・裾部暗文状の篦磨き。
高杯	30	杯部に稜をもつ。	口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。杯下部暗文状の篦磨き。
椀	31	口縁部で屈曲して短く開く。口縁端部尖る。	口縁部・体部上端横ナデ。体部上半丁寧なナデ、下半篦削りの後ナデ。
椀	32	口縁部で屈曲して短く開く。作りが雑である。	口縁部指頭による押え。体部上半ナデ、下半篦削り。底部篦削り。
鉢	33	口縁部直線的に開く。底部は平底。	口縁部横ナデ。胴部は下部のみ篦削り、他はナデ。底部ナデ。

内面の観察	胎土	色調	法量	備考
柱状部篦削りするが上端に僅かに絞り目を残す。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	残存高 7.8	柱状部90%残存。No.42
杯底部不明。柱状部ナデ。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋D	赤褐色	口径(17.8) 底径11.7 器高15.4	杯部30%、柱状部100%、裾部20%残存。
柱状部篦削り。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	残存高 8.7	柱状部90%残存。No.42
柱状部篦削り。裾部横ナデ。	A＋B＋C＋F＋細砂粒	橙褐色	底径14.1 残存高11.3	柱状部100%、裾部20%残存。No.57
口縁部横ナデ。杯底部ナデ。柱状部ナデ。上端では絞り目もナデ消している。	A＋B＋C＋D＋F＋細砂粒	黄褐色	口径19.5 底径12.6 器高15.2	杯部70%、柱状部100%、裾部70%残存。No.3、4
柱状部上半指ナデの後絞り。下半指頭による押えの後ナデ。	A＋B＋C＋D＋F	橙褐色	残存高10.8	柱状部100%残存。No.38
杯底部ナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	赤褐色	口径(16.1) 残存高10.3	杯部40%、柱状部100%残存。No.57
柱状部上半絞り目をナデ消す。下半篦削りの後ナデ。杯底部篦磨き。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	淡褐色	残存高 9.1	柱状部100%残存。No.29
杯底部ナデ。柱状部篦削り。	A＋B＋C＋D	淡褐色	残存高10.9	柱状部100%、裾部10%残存。No.35
柱状部篦削り、上端のみ先の丸い棒状工具によるナデ。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	茶褐色	残存高10.1	柱状部90%残存。No.17、42、52、55
口縁部横ナデの後暗文状の篦磨き。	A＋B＋C＋D＋細砂粒	橙褐色	口径15.5 残存高 5.5	杯部100%残存。No.1
体部篦ナデ。	A＋B＋C＋D	褐色	口径 9.5 器高 5.4	ほぼ完形。No.56
口縁部・体部篦ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	褐色	口径 (7.7) 底径 3.0 器高 6.4	口縁部30%、体部60%、底部70%残存。
胴部ナデ。	A＋B＋C＋D＋粗砂粒	赤褐色	口径15.0 底径 1.6 器高 8.7	口縁部50%、胴部80%、底部100%残存。No.48

器種	番号	形態の特徴	外面の観察
杯	34	口縁端部が尖る。作りが雑で特に外面の調整が粗い。	口縁部横ナデ。体部ナデ。底部は粗い篦削りをするが形状が一定でない。
小型壺	35	口縁部内彎気味に開く。	口縁部篦削りの後横ナデか。胴部ナデ。
甕	36	口縁部直線的に開き、頸部内面が鋭い稜をもつ。	口縁部横ナデ。胴部上半ナデ、下半・底部とその周辺部のみ篦削り。他は篦削りの後ナデ。
甕	37	口縁部外反し、胴部中央が強く膨らむ。底部は平底を呈すが作りが雑である。	口縁部横ナデ。胴上部篦削りの後ナデ、中央部・下部篦削り。底部篦削り。
甕	38	口縁部外反し、胴部中央が強く膨らむ。底部は粘土をドーナツ状に貼付。	口縁部横ナデ。胴上部篦削りの後ナデ。
甕	39	口縁部外反する。	口縁部横ナデ。胴部上半篦削りの後ナデ。
台付甕	40	口縁部外反する。最大径を胴部中央にもつが張りが弱い。	口縁部篦削りの後横ナデ。胴部篦削りするが中央部のみ後でナデる。
甕	41	口縁部外反する。	口縁部横ナデ。胴上部篦削りの後ナデ。
甕	42	口縁部外反する。	口縁部篦削りの後上半を横ナデ。口縁部下半・胴部は篦削りの後ナデ。
甕	43	口縁部直線的に開く。	口縁部横ナデ。
甕	44	口縁部直線的に開く。	口縁部横ナデ。胴部篦削り。
台付甕	45	口縁部直線的に開く。最大径を胴部中央にもつが張りが弱い。脚台部は底径と接合部の径が大きい。脚端部内面に折り返しをもたない。	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後ナデ。胴部下端は丁寧な篦ナデ。脚台部ナデ。胴部・脚台部に黒斑。
台付甕	46	口縁部外反する。最大径を胴部中央にもつ。	口縁部横ナデ。胴部篦削りの後粗いナデ。